都立特別支援学校における
学習評価の考え方や進め方に関する研究・開発
成果資料

～知的障害教育における観点別学習状況の評価を活用した
指導と評価の一体化に向けて～

令和７年３月

東京都教育委員会

はじめに

本資料は、都立知的障害特別支援学校の先生方向けに、学習評価について理解を深めていただけるよう作成したものです。

本資料を活用いただくために前提となる、ポイントとなる事項を４点説明します。

１　学習評価における観点について

学習評価は、私たちが行った教育活動について、児童・生徒の学習状況を評価するものです。

前回の学習指導要領の改訂により、全ての教科等において目標や内容が「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力の三つの柱に基づいて整理されました。これに対応し、学習評価は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の３観点から行うこととなっています。

２　学習評価の記録について

法令上、学習評価は指導要録に記録することが定められています。

指導要録は、年間の学習状況を総括的に記録するものです。この記録に当たっては、材料として、年間を通して単元単位での学習評価が行われている必要があります。

本資料は、単元の目標の実現の状況を判断するためのよりどころである評価規準を作成し、単元単位で学習評価を行うまでの手順を主に解説しています。

３　単元単位での学習評価の場面について

さて、単元単位で学習評価を行うためには、単元内の適時適切な場面で評価を行う必要があります。例えば、習得を目指している「知識・技能」が児童・生徒に身に付いたかどうかは、単元の最初ではなく、学習が進んだ終盤に評価した方がよいと一般的には考えられます。

単元内のどの場面で「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の３観点からの評価を行うか、あらかじめ評価の計画を立てておくことが重要です。

また、毎回の授業ごとに児童・生徒の学習状況を３観点から評価する必要はありません。しかし、授業ごとに学習状況を適宜把握し、次時の指導に生かしていくことは、これまでと変わらず重要です。

４　児童・生徒一人一人に合わせた評価の工夫

知的障害特別支援学校に在籍している児童・生徒の障害の状態等は様々です。そのため、作成した単元の評価規準が、児童・生徒の実態によっては適当ではないということが生じます。

こうした場合は、当該の単元で育成を目指す資質・能力を踏まえつつ、当該児童・生徒に適合する評価規準を作成していくことが重要です。評価の工夫により、児童・生徒一人ひとりに合わせたきめの細かい学習指導の充実と、学習内容の確実な定着を目指すことができます。

目　　次

ページ

Ⅰ　理論編

Ⅰ－１　学習評価の基本的な考え方について　……　1
〔１〕　児童・生徒一人一人の力を伸ばす授業を創るために
〔２〕　指導と評価の一体化を目指して
〔３〕　学習評価の現状と課題
〔４〕　評価の観点の整理

Ⅰ－２　学習評価の改善について　……　4
〔１〕　指導と評価の改善
〔２〕　特別支援学校（知的障害）の教育課程における学習評価
〔３〕　新学習指導要領における知的障害者である児童・生徒に対する各教科の学習評価
〔４〕　自立活動の評価について
〔５〕　新学習指導要領の趣旨を踏まえた評価の観点

Ⅰ－３　評価の観点について　……　7
〔１〕　観点別学習状況の評価の各観点について
〔２〕　「知識・技能」について
〔３〕　「思考・判断・表現」について
〔４－１〕　「主体的に学習に取り組む態度」について
〔４－２〕　「主体的に学習に取り組む態度」の評価の視点

＜解説＞「主体的に学習に取り組む態度」の評価について　10

＜解説＞評価の見取り方の要点について　11

Ⅰ－４　「妥当性」「信頼性」のある評価について　……　15
〔１〕　「妥当性」「信頼性」の確保について
〔２〕　学校全体としての組織的・計画的な取組について
〔３〕　保護者や児童・生徒への情報の提供について

Ⅰ－５　「指導と評価の計画」の作成について　……　16
〔１〕　年間指導計画に基づく「指導と評価の計画」の作成について
〔２〕　「指導と評価の計画」の点検・確認について

＜解説＞年間指導計画に基づく「指導と評価の計画」の作成について　17

Ⅰ－６　評価規準の作成について　……　21
〔１〕　評価規準について
〔２〕　「内容のまとまりごとの評価規準」とは
〔３〕　「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する際の基本的な手順
〔４〕　「内容のまとまりごとの評価規準」に対する、実際の評価の記述方法について

Ⅰ－７　評価方法について　……　25
〔１〕　評価方法の設定について
〔２〕　評価場面や評価方法等の具体的な事例について

ページ

Ⅰ－８　指導の改善に生かす評価と評価結果の記録 …… 26
〔１〕　指導の改善に生かす評価について
〔２〕　評価結果の記録について

＜解説＞指導の改善に生かす評価と評価結果の記録について 27

Ⅰ－９　観点別学習状況の評価に係る記録の総括 …… 29
〔１〕　観点別学習状況の評価とは
〔２〕　観点別学習状況の評価に係る記録の総括

＜解説＞評価規準の作成から評価の総括まで 30

Ⅰ－10　学期（前期・後期等）ごとの総括的な評価から、学年末の評価の総括（指導要録の学習の記録）までの流れ 31

Ⅱ　実践編

＜Ⅱ－１　小学部＞
【事例１】生活 …… 32
【事例２】国語 …… 36
【事例３】算数 …… 40
【事例４】音楽 …… 46
【事例５】図画工作 …… 52
【事例６】体育 …… 56

＜Ⅱ－２　中学部＞
【事例７】国語 …… 60
【事例８】社会 …… 66
【事例９】数学 …… 70
【事例10】理科 …… 78
【事例11】音楽 …… 82
【事例12】美術 …… 88
【事例13】保健体育 …… 94
【事例14】職業・家庭 …… 98
【事例15】外国語 …… 106

＜Ⅱ－３　高等部＞
【事例16】国語 …… 110
【事例17】数学 …… 114
【事例18】音楽 …… 122
【事例19】職業 …… 128

本資料は、「特別支援学校における学習評価委員会」（令和４～６年度）において作成した。

本文中の用語について

本書では、いくつかの用語について、内容を読みやすくするために、簡略化を行っています。
以下のような示し方をしてあるので、留意願います。

◆ 特別支援学校学習指導要領：平成 29 年４月に告示された、「特別支援学校小学部・中学部学習指導要領」及び平成 31 年２月に告示された「特別支援学校高等部学習指導要領」を指す。

◆ 特別支援学校学習指導要領総則：平成 30 年３月に告示された、「特別支援学校学習指導要領解説　総則編（小学部・中学部）」及び平成 31 年２月に告示された「特別支援学校学習指導要領解説　総則等編（高等部）」を指す。

◆ 学習評価参考資料：特別支援学校小学部・中学部学習評価参考資料（令和２年４月　文部科学省）を指す。

◆個別指導計画
学習指導要領に示されている「個別の指導計画」のことである。

◆準ずる教育課程
視覚障害、聴覚障害、肢体不自由及び病弱特別支援学校において、学校教育法第 72 条に基づき、小学校、中学校、高等学校に準ずる教育を行う教育課程である。

Ⅰ　理論編

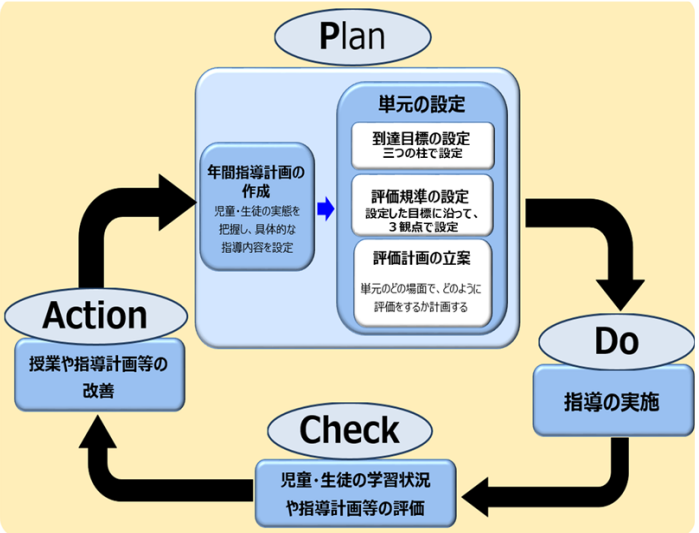
Ⅰ　理論編

Ⅰ－１　学習評価の基本的な考え方について

〔１〕　児童・生徒一人一人の力を伸ばす授業を創るために

学習評価は、学校における教育活動に関し児童・生徒の学習状況を評価するためのものです。つまり、授業等を行った際に、「児童・生徒にねらいとする力が身に付いたのか」実現状況を把握することが学習評価なのです。

学習評価を行うことで、児童・生徒が「何を学ぶことができたか」、「何ができるようになったか（伸びたか）」、「伸びなかった点はどこにあって、どのように学ぶとよいのか」などが明らかになります。また、児童・生徒自身に進歩の状況を伝え、称賛することで、今後の学習意欲の向上につなげることもできます。



【図１　学習評価の PDCA サイクル】

図１に示すように、学習評価を行うために、まずは指導の計画を立てることが必要です。小学部は６年間、中学部は３年間を見通した年間指導計画を児童・生徒の実態を踏まえつつ作成します。

次に、単元を設定します。学習指導要領に示された各教科等の目標を踏まえ、育成を目指す資質・能力の三つの柱に添って目標を設定するとともに、その学習状況を把握するために評価規準を設定します。児童・生徒の実態が幅広い場合、同一の評価規準で学習状況を把握することが難しいことがあります。こうした場合には、単元の目標や単元の評価規準を基に児童・生徒一人一人の目標や評価規準についても設定する、ということです。

あわせて、児童・生徒一人一人の学習状況を把握し、適切な評価を行うために、評価計画を立案します。

教師は単元の目標を踏まえ、児童・生徒一人一人に身に付けさせたい力を意識しながら指導を行うとともに、その学習状況を把握します。また、把握した結果を踏まえ、支援の手立てを再考し、次時の授業改善に生かすことが求められます。

各学年の学期末や年度末には、単元ごとに児童・生徒の学習状況や指導計画等の評価を行い、学校全体としての教育課程の改善や組織運営等の改善と結び付けられるようにします。

〔２〕　指導と評価の一体化を目指して

児童・生徒に必要な資質・能力を効果的に育成するためには、教科等の目標及び内容と学習評価とを一体的に検討することが重要です。「中央教育審議会答申」（平成 28 年 12 月 21 日）や「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」（中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会、平成 31 年１月 21 日）においては、学習評価により、児童・生徒の学習の成果を的確に捉え評価するのは当然のこと、評価の結果を教師が次の指導の改善に生かすこと、すなわち「指導と評価の一体

化」が重要であると改めて示されています。

指導と評価の一体化は、今回の学習指導要領改訂で明文化された「カリキュラム・マネジメント」及び「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」においても、重要な役割を果たすものです。

カリキュラム・マネジメントについては、「カリキュラム・マネジメントの四つの側面を通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと」が、特別支援学校学習指導要領総則に示されています。「四つの側面」のうち、「個別の指導計画の実施状況の評価と改善を、教育課程の評価と改善につなげていくこと」については、特別支援学校の学習指導要領にのみ示されたものです。これは、個別の指導計画に基づいて児童・生徒に何が身に付いたかという学習の成果を的確に捉え、個別の指導計画の実施状況の評価と改善を、教育課程の評価と改善につなげていくよう工夫することが大切である、というものです。

また、各学校は、児童・生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等並びに学習の進度等を考慮し、年間指導計画を作成します。これを踏まえ、児童・生徒が学習内容を確実に身に付けることができるよう指導方法や指導体制の工夫や改善を行うことにより、個に応じた指導の充実を目指します。個別指導計画により、児童又は生徒に何が身に付いたかという学習の成果を的確に捉え、個別の指導計画の実施状況の評価と改善を、教育課程の評価と改善につなげ、次年度の教科等の年間指導計画の作成に反映させることが大切です。

〔３〕　学習評価の現状と課題

「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」においては、学習評価の現状として、「学期末や学年末などの事後での評価に終始してしまうことが多く、評価の結果が児童生徒の具体的な学習改善につながっていない。」、「相当な労力をかけて記述した指導要録が、次学年や次学校段階において十分に活用されていない。」、のような課題が示されています。

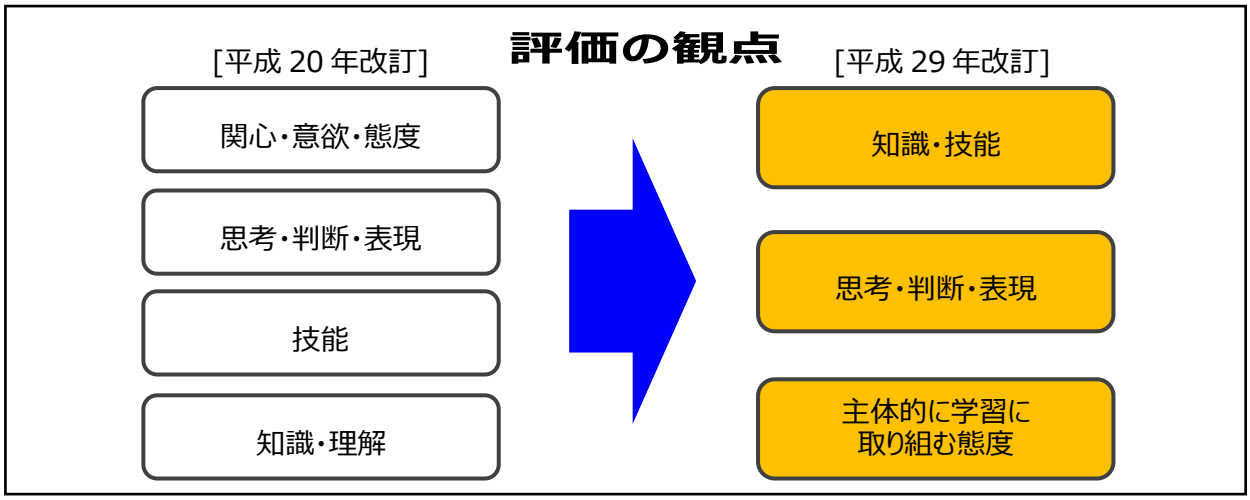
カリキュラム・マネジメントを実現するためには、学習評価の在り方が極めて重要であり、学習評価を通して、指導と評価の一体化を実現できるよう学習評価を改善することが求められました。このことを踏まえて、中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会のワーキンググループにおいて、次のような学習評価の改善の基本的な方向性が示されました。

- □　児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと。
- □　教師の指導改善につながるものにしていくこと。
- □　これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと。

〔４〕　評価の観点の整理

特別支援学校学習指導要領は、小学部では令和２年度から、中学部では令和３年度からそれぞれ全面実施、高等部では令和４年度から年次進行で実施となりました。特別支援学校学習指導要領では、知・徳・体にわたる「生きる力」を児童・生徒に育むために「何のために学ぶのか」という各教科等を学ぶ意義を共有しながら、授業の創意工夫や教科書等の教材の改善を引き出していくことができるようにするため、全ての教科等の目標及び内容が「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」という資質・能力の三つの柱で再整理されました。

こうした教育目標や内容の再整理を踏まえて、観点別学習状況の評価については、小・中・高等学校及び特別支援学校の各教科を通じて、４観点から３観点に整理されました。



※　学校教育法第 30 条第 2 項では、次のように示されています。

　生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。

Ⅰ－２ 学習評価の改善について

〔１〕　指導と評価の改善

学習評価においては、単元や題材で身に付けさせる力を明確にし、それを実現するための効果的な学習活動を計画・実施し、その成果としての児童・生徒の変容・成長を適切に把握することが必要です。教師が指導の改善を図るとともに、児童・生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにするためにも、適切なフィードバックや指導方法の改善と一貫性のある取組を進めることが求められます。

学習評価を行うに当たっては、いわゆる評価のための評価に終わることなく、教師が児童・生徒一人一人のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにすることで、児童・生徒が自分自身の目標や課題をもって学習を進めることができるようになることが大切です。

〔２〕　特別支援学校（知的障害）の教育課程における学習評価

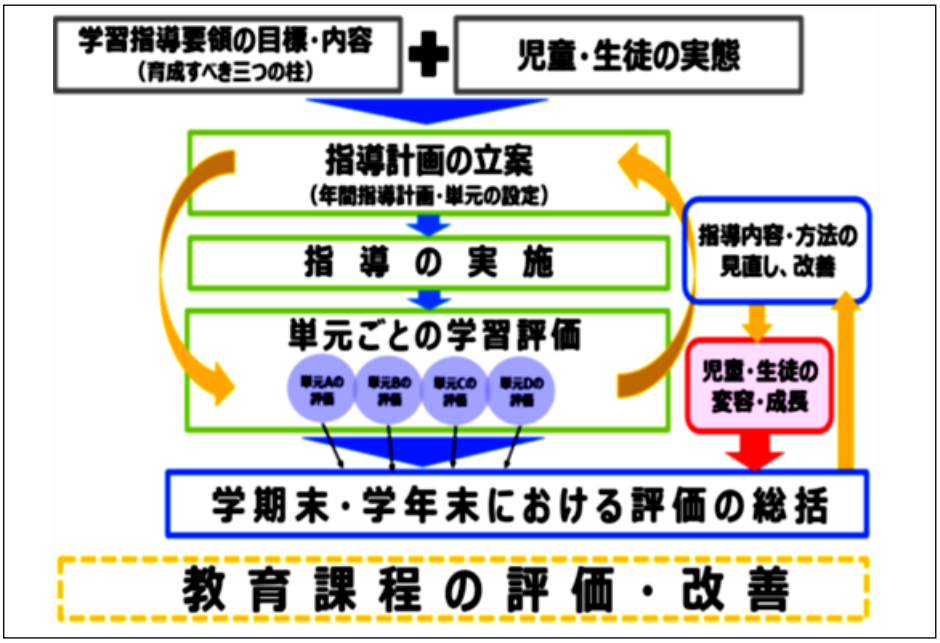
特別支援学校学習指導要領では、全ての教科等の目標及び内容が、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の育成を目指す三つの柱で再整理されました。特別支援学校の各教科等も同じ枠組みで整理されています。

それに伴い、観点別学習状況の評価についても、平成20年改訂時の４観点から、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習的に取り組む態度」の３観点に整理されました。

特別支援学校では、児童・生徒の障害の状態や特性、及び心身の発達の段階等を踏まえつつ、この３観点での学習評価を行い、育成を目指す資質・能力の３つの柱の育成がバランスよく実現できるよう留意しながら教育活動の充実を目指していくことが求められています。

なお、特別支援学校においても、小・中学校、高等学校に準ずる課程では、指導要録の「指導の記録」に、各教科の目標、内容に照らし、観点別に「十分満足できる」状況と判断されるものをＡ、「おおむね満足できる」状況と判断されるものをＢ、「努力を要する」状況と判断されるものをＣのように区別して評価を記入します。

一方、特別支援学校（知的障害）の各学部における各教科の学習の記録については、特別支援学校の学習指導要領に示される各学部の各教科の目標、内容に照らし、各教科の評価の観点及びその趣旨を踏まえ、具体的に定めた指導内容、実現状況等を箇条書き等により**文章で端的に記述すること**とされています。



【学習評価の基本的な流れ】

〔３〕新学習指導要領における知的障害者である児童・生徒に対する各教科の学習評価

特別支援学校学習指導要領では、知的障害者である児童・生徒に対する各教科の学習評価においては、学習状況を分析的に捉える「観点別学習状況の評価」について、学習指導要領に定める目標に準拠した評価として実施するものとされています。

知的障害者である児童・生徒に対する各教科の学習評価については、各教科の評価の観点及びその趣旨を踏まえて評価（観点別学習状況の評価）することになっています。この点について、各教科の指導を通して資質・能力の三つの柱の育成がバランスよく実現できるように留意することが大切です。また、学部段階間及び学校段階間の教育において児童・生徒の学習の成果が円滑に接続されるように工夫する観点からも、知的障害者である児童・生徒に対する教育を行う特別支援学校においても、学習状況を分析的に捉える「観点別学習状況の評価」を実施し、学習指導要領に示す目標の実現の状況を判断するよりどころとして、評価規準を作成することが必要です。

なお、各教科等の指導に当たっては、特別支援学校において、児童・生徒一人一人の指導目標、指導内容等の明確化のために「個別指導計画」を作成することになりますが、その際、各学校において各教科等の単元や題材ごとに設定される、各教科等の評価規準の内容を指導目標、指導内容等の設定に生かすことが考えられます。

また、主体的に学習に取り組む態度の評価において、観点別学習状況の評価や評定には示しきれない児童・生徒一人一人のよい点や可能性、進歩の状況については、「個人内評価」として実施するものとされています。観点別学習状況の評価になじまず個人内評価の対象となるものについては、児童・生徒が学習したことの意義や価値を実感できるよう、日々の教育活動等の中で児童・生徒に伝えることが重要であることが示されています。特に、「感性や思いやり」など児童・生徒一人一人のよい点や可能性、進歩の状況などを積極的に評価し、児童・生徒に伝えることが重要であることが示されています。

解説

「観点別学習状況の評価」とは、 学習指導要領の「内容」に示されている「指導事項」を目標とし、それに基づいて観点ごとの目標を設定し、その実現状況を評価するもので、学習指導要領にある目標に準拠した評価と言えます。知的障害者である児童・生徒に対する教育を行う特別支援学校においても、学習指導要領に示す目標の実現の状況を判断するよりどころとして、評価規準を作成することが必要です。

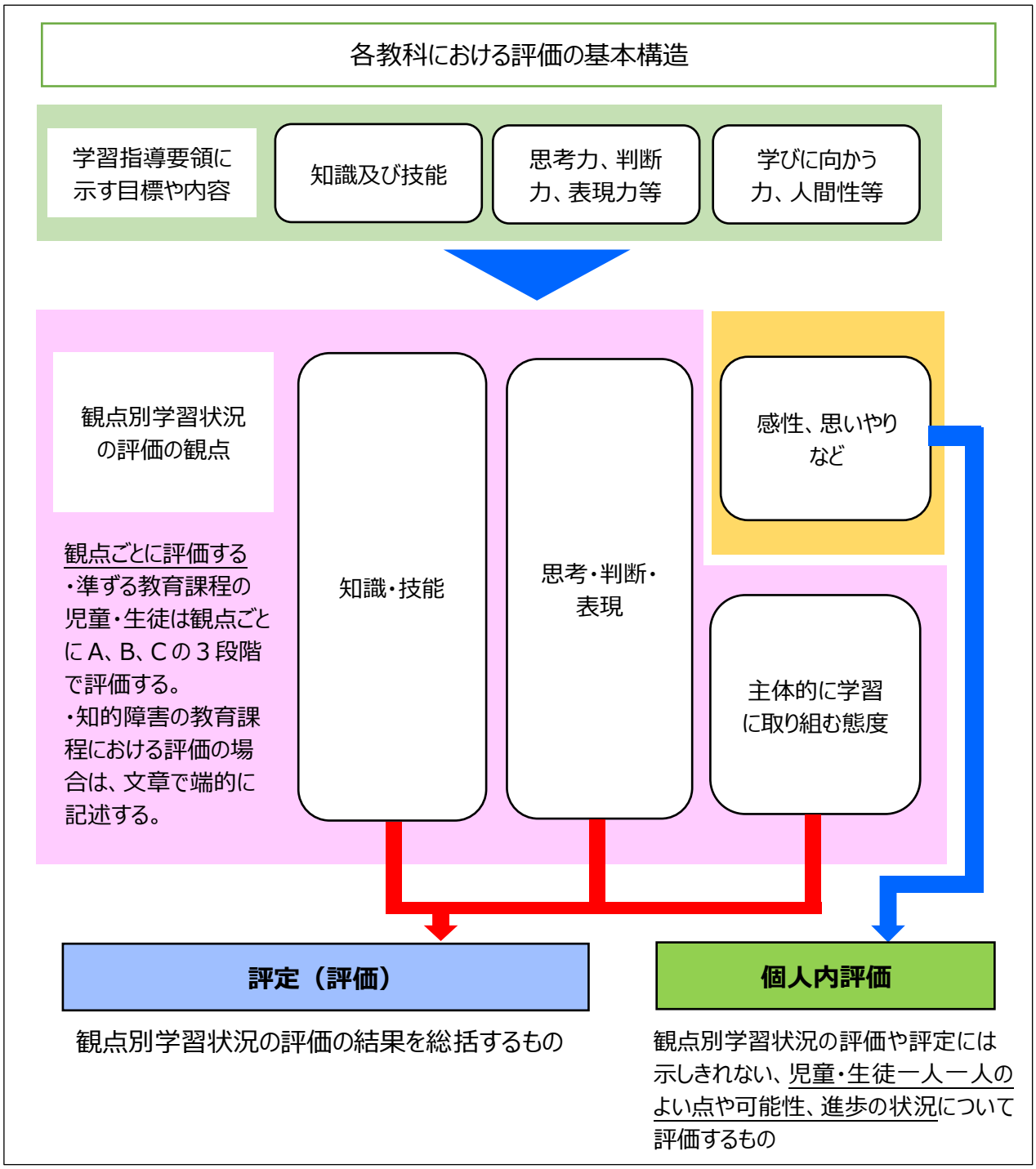
〔４〕 自立活動の評価について

自立活動は、障害による学習上又は生活上の困難の改善・克服を行うものであり、育成を目指す資質・能力の三つの柱に添って整理されているものではないことから、その評価においても観点別には行いません。

自立活動の指導は、６つの区分「健康の保持」、「心理的な安定」、「人間関係の形成」、「環境の把握」、「身体の動き」、「コミュニケーション」に示された27の内容項目の中から、必要なものを組み合わせて児童・生徒の指導計画を作ります。評価については、一人一人に対して立てた目標が「達成できたかどうか」を把握し、文章で端的に表していきます。

〔５〕　学習指導要領における各教科等の学習評価

知的障害者である児童・生徒に対する教育を行う特別支援学校における各教科等では、特別支援学校学習指導要領において、児童・生徒一人一人の学習状況を多角的に評価するため、小・中・高等部の各教科を通じて、３観点に整理されました。



参考：「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」
（中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会、平成 31 年 1 月 21 日）

Ⅰ－３　評価の観点について

〔１〕　観点別学習状況の評価の各観点について

◆　知識・技能
　各教科等における学習の過程を通した知識及び技能の習得状況について評価をするとともに、それらを既有の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているかを評価する。
◆　思考・判断・表現
　各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうかを評価する。
◆　主体的に学習に取り組む態度
　知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価する。

〔２〕　「知識・技能」について

　各教科等における学習の過程を通した知識及び技能の習得状況について評価をするとともに、それらを既有の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているかを評価する。

「知識・技能」における上述のような考え方は、従前の「知識・理解」（各教科等において習得すべき知識や重要な概念等を理解しているかを評価）、「技能」（各教科等において習得すべき技能を身に付けているかを評価）においても重視してきたものです。

「知識・技能」の具体的な評価方法としては、特別支援学校の準ずる教育課程においては、定期試験等において、知識の習得を問う問題と、知識の概念的な理解を問う問題とのバランスに配慮するなどの工夫改善を図るとともに、多様な方法を適切に取り入れていくことが考えられます。例えば、児童・生徒が文章による説明をしたり、各教科等の内容の特質に応じて、観察・実験をしたり、式やグラフで表現したりするなど実際に知識や技能を用いる場面を設けることなどがあります。

知的障害者である児童・生徒に対する教育についても、準ずる教育課程と同様に、それぞれの発達段階の活動に応じて、実際に知識や技能を用いる場面（発表する、やってみる、選ぶ、使うなど）を設けて評価することが大切です。

〔３〕　「思考・判断・表現」について

　各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうかを評価する。

「思考・判断・表現」における上述のような考え方は、従前の「思考・判断・表現」の観点においても重視してきたものです。「思考・判断・表現」を評価するためには、教師は「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を通じ、児童・生徒が思考・判断・表現する場面を効果的に設計した上で、指導・評価することが求められます。また、各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を児童・生徒が身に付けているか、評価します。

知識及び技能を活用して課題を解決する過程には、

・物事の中から問題を見いだし、その問題を定義し解決の方向性を決定し、解決方法を探して計画を立て、結果を予測しながら実行し、振り返って次の問題発見・解決につなげていく過程
・精査した情報を基に自分の考えを形成したり、文章や発話によって表現したり、目的や場面、状況等に応じて互いの考えを伝え合い、多様な考えを理解したり、集団としての考えを形成したりしていく過程
・思いや考えを基に構想し、意味や価値を創造していく過程

の大きく三つがあると考えられます。

「思考・判断・表現」の具体的な評価の方法としては、特別支援学校の準ずる教育課程においては、定期試験等のみならず、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作や表現等の多様な活動を取り入れたり、それらを集めたポートフォリオを活用したりするなどの工夫が考えられます。

知的障害者である児童・生徒に対する教育の場合も、準ずる教育課程と同様に、それぞれの発達段階の活動に応じて、実際に思考・判断・表現する場面（やってみる、自分なりに考える、判断する、発表する、教師の支援を受けながらも集団で話し合うなど）を設けて評価することが大切です。

〔４－１〕　「主体的に学習に取り組む態度」について

知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価する。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価に際しては、単に継続的な行動や積極的な発言を行うなど、性格や行動面の傾向を評価するということではなく、各教科等の「主体的に学習に取り組む態度」に係る観点の趣旨に照らして、上述のような意思的な側面を評価することが重要です。

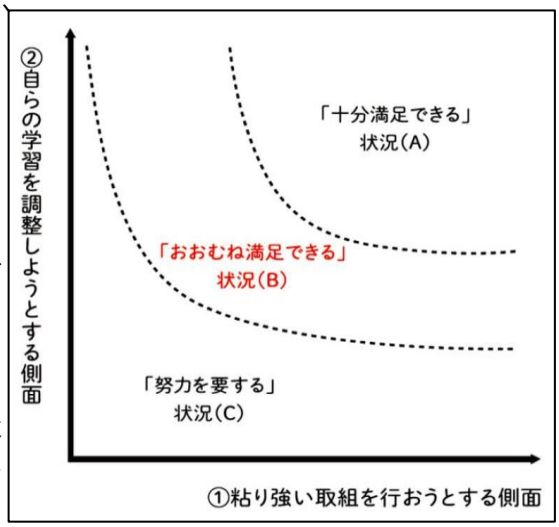
従前の「関心・意欲・態度」の観点も、各教科等の学習内容に関心をもつことのみならず、よりよく学ぼうとする意欲をもって学習に取り組む態度を評価するという考え方に基づいたものであり、この点を「主体的に学習に取り組む態度」として改めて強調するものです。

さらに、「主体的に学習に取り組む態度」については、

① 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている側面

② ①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面

という二つの側面を評価することが求められます。これら①②の姿は実際の教科等の学びの中では別々ではなく相互に関わり合いながら立ち現れるものと考えられることから、実際の評価の場面においては、双方の側面を一体的に見取ることも想定されます。例えば、児童・生徒が自らの学習を全く調整しようとせず粘り強く取り組み続ける姿や、粘り強さが全くない中で自らの学習を調整する姿は一般的ではないと考えられます。



「主体的に学習に取り組む態度」の評価イメージ

具体的な評価方法としては、特別支援学校の準ずる教育課程においては、ノートやレポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察や児童・生徒による自己評価や相互評価等の状況を、教師が評価を行う際に考慮する材料の一つとして用いることなどが考えられます。

知的障害者である児童・生徒に対する教育の場合も、準ずる教育課程と同様に、発表や発言、時には「つぶやき」などを観察するなど、それぞれの発達段階の活動に応じて設けて評価することが大切です。

また、教科で学んだことを、学習や生活に使う、活用するといった視点も評価の対象になることも十分に考えていくことが大切です。

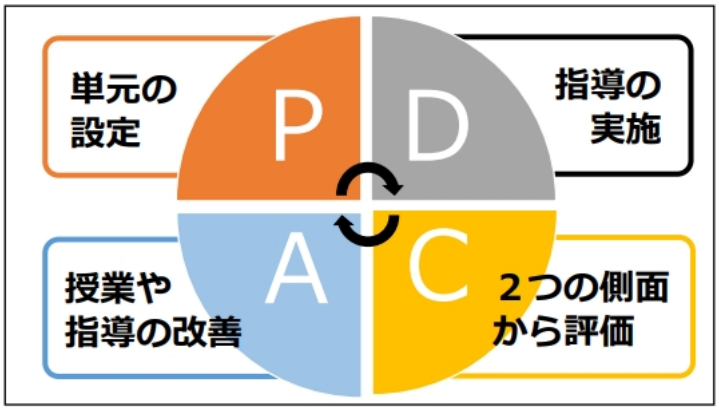
解説

知的障害のある児童・生徒には、学習を調整したり、学習の進め方について試行錯誤したりすることが難しい場合があります。そこで、学習のめあてに向かって「自分なりに」試行錯誤している姿を見取ることが大切であり、そのような状況や場面を、個に応じて用意する必要があります。

〔４－２〕　「主体的に学習に取り組む態度」の評価の視点

「主体的に学習に取り組む態度」の評価は、『「主体的に学習に取り組む態度」における評価イメージ』のとおり、各教科等の特質に応じた知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするため、「①粘り強く取り組む態度」とともに、『②学習のめあてに向かって「自分なりに」試行錯誤している姿など、自らの学習を調整しようとする態度』の二つの側面を評価するとともに、児童・生徒一人一人の学習状況を多角的に評価するため、各教科の目標に準拠した評価の観点による学習評価を導入し、学習評価を基に授業評価や指導評価を行い、教育課程編成の改善・充実に生かすことのできるＰＤＣＡサイクルを確立することが必要です。[1]

ただし、「知識・技能」、「思考・判断・表現」が十分に満足できる状況であるのに、「主体的に学習に取り組む態度」のみが「努力を要する」状況にあることや、あるいはその逆の状況にあることは通常考えられません。もし、評価のばらつきのある場合、ばらつきの原因を検討し、必要に応じて、児童・生徒への支援を行うとともに、教員の指導自体の改善を図るなどの速やかな対応が求められます。[2]



「主体的に取り組む態度」の評価におけるイメージ

また、「児童生徒にどういった力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉えるとともに、評価結果を分析し、指導目標、指導内容、指導方法等のどこに課題があり、効果的な指導ができるようにするために、何をどのように改善していくのかを明確にする必要があります。中央教育審議会の答申を基に、以下のような改善の方向性を例示します。

「主体的に取り組む態度」に係る改善の方向性（例）
① 学習の目標（めあて）を理解して取り組んでいるか。 ・目標（めあて）を理解して取り組めるようにするためには、何をどう改善すればよいか。
② 学習の見通しをもって取り組んでいるか。 ・学習の流れに見通しを立てられるようにするためには、何をどう改善すればよいか。
③ 本単元より前に学んできたことを、今の学びに生かしているか。 ・本単元より前に学んだことを自ら生かせるようにするためには、どのような授業の流れにすればよいか。
④ 進め方を見直しながら、学習を進めているか。 ・学習の最中に、自分の学習の進め方を見直せるようにするためには、どうすればよいか。
⑤ 粘り強く学習に取り組めているか。 ・粘り強く学習に取り組めるようにするためには、どうすればよいか。
⑥ 自らの学習を振り返ることができているか。 ・自らの学習を振り返ることができるようにするためには、どうすればよいか。

[1] 平成 28 年 12 月「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」p.114
[2] 平成 31 年 1 月「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」p.12 を参考にした

単元計画の設定例 （中学部 第１学年 音楽科 １段階） 歌っておどろう「パプリカ」

◆単元の目標

(1) パプリカの曲想と歌詞の表す情景やイメージとの関わりについて気付き、それを表現するために必要な歌唱、身体表現の技能を身に付ける。〔知識及び技能〕

(2) 特徴的なリズムや曲の雰囲気を感じ取り、曲の雰囲気に合いそうな表現を工夫して歌ったり、思いや意図をもって身体を動かすことができるようになる。〔思考力、判断力、表現力等〕

(3) 音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に歌唱や身体表現の学習活動に取り組む。〔学びに向かう力、人間性等〕

◆単元の評価規準

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
・曲想と歌詞の表す情景やイメージとの関わりについて気付いている。 ・表現するために必要な歌唱、身体表現の技能を身に付けている。	・曲の雰囲気に合いそうな表現を工夫して歌っている。 ・思いや意図をもって身体を動かしている。	学習に見通しをもち、歌唱等の学習活動に粘り強く取り組んでいる。

◆単元の流れ

	学習活動	評価の観点・評価方法等
第一次（2時間）	〈歌唱〉 ①歌詞を音読する ②模唱する ③伴奏に合わせて歌う	【知識・技能】 曲想と歌詞の表す情景やイメージとの関わりについて気付いている。（観察、発言） 【思考・判断・表現】 特徴的なメロディを感じ取りながら歌っている。（観察）
第二次（4時間）	〈身体表現〉個人練習 ①振り付けを覚える ②曲に合わせて振り付けをする ③歌いながら振り付けをする	【知識・技能】 歌詞と身体の動きとの関わりについて気付いている。（観察、発言） 【思考・判断・表現】 身体を動かして表現するという学習のめあてを理解し、意欲的に取組んでいる。（観察）
第三次（2時間）	〈身体表現〉全体練習 ①みんなで合わせる ②動画撮影する ③動画を見る（鑑賞） ④これまでの取組を振り返る	【思考・判断・表現】 思いや意図をもって表現している。（観察） 【主体的に学習に取り組む態度】 見通しをもって粘り強く学習に取り組み、自らの学習を振り返っている。（観察、発表、発言）

《ポイント》
各教科の目標に準拠した評価の観点 による学習評価を導入する。

単元の設定 P

指導の実施 D

《ポイント》
学習の **めあてに向かって** 自分なりに **試行錯誤する・できる** 状況や場面を、**個に応じて用意** する。

《ポイント》
以下の６点をどのように改善していくか検討する

授業や指導の改善 A

２つの側面から評価 C

《ポイント》
【主体的に学習に取り組む態度】は、２つの側面から評価する。

改善の方向性

① **学習の目標（めあて）を理解して取り組んでいる**
→目標（めあて）を理解して取り組めるようにするためには、何をどう改善すればよいか

② **学習の見通しをもって取り組んでいるか**
→学習の流れに見通しを立てられるようにするためには、何をどう改善すればよいか

③ **本単元より前に学んできたことを、今の学びに生かしているか**
→本単元より前に学んだことを自ら生かせるようにするためには、どのような授業の流れにすればよいか

④ **進め方を見直しながら、学習を進めているか**
→学習の最中に、自分の学習の進め方を見直せるようにするためには、どうすればよいか

⑤ **粘り強く学習に取り組めているか**
→粘り強く学習に取り組めるようにするためには、どうすればよいか

⑥ **自らの学習を振り返ることができているか**
→自らの学習を振り返ることができるようにするためには、どうすればよいか

1 粘り強い取組を行おうとする側面

知識及び技能を獲得したり、**思考力、判断力、表現力等を身に付けたりする**ことに向けた姿
（主として左の①②③⑤）

(例)
・声を出したり、歌詞を覚えたりすることに見通しを立て粘り強く取り組んでいる。
・歌詞が分からないときに、質問して確かめようとしている。

2 自らの学習を調整しようとする側面

粘り強い取組を行う中で、**自らの学習状況を把握**し、**学習の進め方について試行錯誤する**姿
（主として左の④⑥）

(例)
・声の大きさをどうすればよいか、自己の取組を見直しながら工夫している。
・身体の動かし方を様々試しながら、表現の仕方を工夫しようとしている

行動、発表、発言、つぶやきの観察などから適切に評価する。
評価にばらつきがある場合は、教師はその原因を探り、評価の仕方の改善を図る。

解　説

本研究では、知的障害者である児童・生徒に対する教育を行う場合の観点別学習状況の評価と見取り方の要点を以下のように整理しました。

【事例】小学部第４学年　算数科　１段階

1　単元名　「ともだちに　くばろう」（さんすう☆　Ｐ３４～Ｐ３５）

2　内容のまとまり

【１段階】　Ｂ　数と計算　　ア　数えることの基礎

3　単元の目標

（１）３までの範囲で具体物を取ることができ、対応させてものを配ることができる。〔知識及び技能〕

（２）数詞とものとの関係に注目し、数のまとまりや数え方に気付き、それらを学習や生活で生かすことができる。〔思考力、判断力、表現力等〕

（３）数量に気付き、算数の学習に関心をもって取り組もうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

4　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・３までの範囲で具体物を取ろうとしている。 ・対応させてものを配ろうとしている。	・数詞とものとの関係に注目している。 ・数のまとまりや数え方に気付き、それらを学習や生活で生かそうとしている。	・学習のめあてを理解し、学習活動に関心をもって粘り強く取り組もうとしている。

5　児童の実態等　●●●・・・

6　単元の流れ（６時間扱い）

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
【第１次】 第１時～第２時	○友達の数に応じた数のりんごを取り、配る。（１～２個）	○・・・	○・・・（知・技） ○・・・（思・判・表）
【第２次】 第３時～第６時	○友達の数に応じた数の具体物を取り、配る。（１～３個）	○・・・	○・・・（思・判・表） ○・・・（知・技） ○・・・（主）

7　評価の実際

（１）「知識・技能」の評価

（２）「思考・判断・表現」の評価

（３）主体的に学習に取り組む態度

8　観点別学習状況の評価の総括

単元を通して観点別学習状況の評価を行うモデルとして、評価計画に定めた場面で、評価規準に即して観点ごとに児童・生徒の変容を見取り、『評価の実際』としてまとめるまでの流れを整理した。

❶ 教員間のやり取りを通じて、各自の児童の変容を挙げる

（下　線）…知識及び技能に関する内容
（波　線）…思考力、判断力、表現力等に関する内容
（二重線）…学びに向かう力、人間性等に関する内容

教諭 A
【MT】

教諭 B
【ST】

第１次の終了後に、児童の変容について教師がやりとりをしている場面を例として示す

○第一次後の評価

「いち・に」の掛け声と指差しをすれば、決められた数だけりんごを取ることが分かってきました。一緒に「いち・に」の掛け声を言ってくれるようになってきました。

配った後にリンゴが余ったら、先生に戻せるようになりました。配るときにも掛け声を入れると、数唱と数量を意識できるようになるかもしれませんね。この活動は気に入ったようで、最後まで繰り返し取り組んでいました。

配るときの掛け声はいいですね。次の授業から取り入れてみます。あと、朝の会の出席確認でも、人数を数える活動を入れてみます。

❷ 第１次のそれぞれの場面で評価したものをまとめる

【知識・技能】
・３までの範囲で具体物を取ろうとしている。
　○決められた数だけりんごを取ることが分かってきました。
・対応させてものを配ろうとしている。
　○配った後にリンゴが余ったら、先生に戻せるようになりました。

【思考・判断・表現】
・数のまとまりや数え方に気付き、それらを学習や生活で生かそうとしている。
　○「いち・に」の掛け声を言ってくれるようになってきました。

【主体的に学習に取り組む態度】
　○友達に配る活動に、最後まで繰り返し取り組んでいました。[粘り強い取組を行おうとする側面]

❶～❷を各次で行う。

○第二次後の評価

「３個」と言われたら、自分から「いち・に・さん」と数えながらりんごを取るようになりましたね。「３」という数が分かって、かごに入れていました。
授業でやることが分かったので、自分で学習道具を準備できるようになって素晴らしいです。先生や友達が数唱しているときも身体を揺らして一緒に数えてくれるようになりました。

先生が取り入れてくれたので、数えながら友達の前にりんごやジュースを配るようになってきましたね。そういえば、朝の会の名前呼びの場面で友達の写真カードを指さし、「いち・に・さん」と言うようになりました。

先生の指示がなくても配れるようになりたくて、繰り返し取り組む姿が見られました。
その結果、友達が三人いるからりんごを三つ取ったり、トレーが三つあるからジュースを三つ取ったりできるようになりました。

算数の授業で自信がついたようで、給食の準備をするときに、牛乳瓶を自ら配ろうとする姿が見られるようになりました。
友達のトレーが三つあるので、牛乳瓶を三つ取って配ることができるようになりました。
生活場面に生きる力として身に付いていることが分かり、うれしく思いました。

【知識・技能】
・３までの範囲で具体物を取ろうとしている。
　○「３」という数が分かって、かごに入れていました。
・対応させてものを配ろうとしている。
　○数えながら友達の前にりんごやジュースを配るようになってきました。

【思考・判断・表現】
・数詞とものとの関係に注目している。
　○「３個」と言われたら、自分から「いち・に・さん」と数えながらりんごを取るようになりました。
・数のまとまりや数え方に気付き、それらを学習や生活で生かそうとしている。
　○朝の会の名前呼びの場面で友達の写真カードを指さし、「いち・に・さん」と言うようになりました。

【主体的に学習に取り組む態度】
　○自分で学習道具を準備できるようになって[自ら学習を調整しようとする側面]
　○教員や友達が数唱しているときも、身体を揺らして一緒に数唱するようになりました。[自ら学習を調整しようとする側面]
　○先生の指示がなくても配れるようになりたくて、繰り返し取り組む姿が見られました。[粘り強い取組を行おうとする側面]

❸　❷でまとめた児童の変容を、評価規準に照らして「評価の実際」として要約し、評価の総括をする

【事例】小学部第４学年　算数科　１段階

１　単元名　「ともだちに　くばろう」（さんすう☆　Ｐ３４～Ｐ３５）
２　内容のまとまり
３　単元の目標
４　単元の評価規準
５　児童の実態等　●●●･･･
６　単元の流れ（６時間扱い）

７　評価の実際

（１）「知識・技能」の評価
・「いち・に・さん」の言葉掛けに合わせて、具体物を指差したり、かごに入れたりすることができるようになった。
・「３個取って」と聞くと、自分から数唱をして具体物を取ることができた。
・友達に一つずつ具体物を配ることができるようになった。
・友達に配ったあと、余った具体物は教員や元の場所に戻すことができた。
・配るトレーや友達の数を手がかりに、ジュースやりんごを三つ取ることができるようになった。

（２）「思考・判断・表現」の評価
・３までの範囲で、数詞だけの指示でも自分で考えて「いち」「に」「さん」と数唱しながら、具体物を取れるようになった。
・数唱と数の関係が分かり、一つずつ指差しをしながら数唱することができた。
・学習や生活場面で自分から数唱しようとする場面が増えた。
・友達やトレーに一つずつぴったりの数を配れたときに、教員にハイタッチをするようになった。

（３）主体的に学習に取り組む態度
・学習のめあてが分かり、成功するまで繰り返し取り組む姿が見られるようになった。
・教員や友達の活動にも興味をもち、数唱したり体を揺らしたりして、一緒に数えることが増えた。
・自分から授業準備をしたり、教員の授業準備を手伝ったりと、算数の授業に期待感をもって参加しようとしていた。

８　観点別学習状況の評価の総括（児童Ａの場合）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
３までの範囲で「○個取って」と指示されると、自分から数唱して具体物を取ることができました。 配る友達の数を手がかりに、具体物を取って配ることができました。	数唱をするときは一つずつ指差しをして、数を確認することができました。 授業中だけではなく、様々な場面で自分から数唱して確認したり、指差ししたりする場面が増えました。	学習のめあてを理解するとともに、指示された数の具体物を取ろうと粘り強く取り組んでいました。 友達の活動中も注目し、一緒に数えたり、身体を揺らしたりして参加する場面が増えました。

Ⅰ－４　「妥当性」「信頼性」のある評価について

〔１〕　「妥当性」「信頼性」の確保について

学校や教師は、指導の内容や方法だけではなく、指導の結果についても説明できるようにすることが求められます。したがって各学校における学習評価については、評価の「妥当性」を常に確保し「信頼性」のある評価として行うことが重要です。

学習評価の「妥当性」とは、評価結果が評価の対象である資質・能力の育成状況を適切に反映しているものであることを示すものです。「妥当性」を確保するためには、学習指導要領に基づき、学習指導の目標（ねらい）を明確にするとともに適切な内容を設定し、その目標及び内容と対応した評価規準を設定するとともに、評価規準で示される資質・能力を評価するのに適した方法を選択することが重要です。

また、学習評価の「信頼性」とは、教師の主観に流れることなく、誰が評価しても同じ結果になることを示すものです。「信頼性」を確保するためには、評価が適切な評価規準や評価方法等によって学校全体で組織的・計画的に行われることが重要です。そして、学習評価に関して、毎年度の早い時期に児童・生徒や保護者に説明することが大切です。

〔２〕　学校全体としての組織的・計画的な取組について

評価の「妥当性」を常に確保するとともに、「信頼性」のある評価として実施するためには、

- ○ 評価規準を適切に設定すること
- ○ 評価方法の工夫・改善を進めること
- ○ 評価結果について教師同士で検討すること
- ○ 校内研究・研修における授業研究等を通じ、教師の共通理解と力量の向上を図ること

などについて、校長のリーダーシップの下、学校として組織的・計画的に取り組むことが求められます。

学校としての評価の方針、方法、体制、結果などについて、日頃から教師間の共通理解を図り、担当教科、経験年数等に関わらず、全ての教師が共通の認識をもって評価を行うことが重要です。

また、学校として、国や都などが実施する広域的な学力調査等の結果を生かして、児童・生徒の学習状況等を把握し、指導の在り方や評価方法等について改善を図ったり、近隣の学校同士で評価規準や評価方法等について情報交換を行ったりするなどの取組も重要です。

〔３〕　保護者や児童・生徒への情報の提供について

信頼される評価を行うためには、保護者や児童・生徒などの関係者の間で、評価規準や評価方法等について共通理解を図ることが重要であり、評価が妥当であると判断できるものでなければなりません。

そのため、評価規準や評価方法等について事前に説明したり、評価結果の説明を充実したりするなど、学習評価に関する情報をより積極的に提供することが求められます。

例えば、次のような内容を保護者や児童・生徒に分かりやすく説明することが重要です。

① 「目標に準拠した評価」や「観点別学習状況の評価」とはどういうものか

② どのような観点や評価規準に基づいて、どのような方法で評価・評定を行うのか

③ 一人一人の児童・生徒に対し、実際に、どのように評価・評定したのか

などについて、保護者会や面談、学校便りや通知表等、様々な機会を通して保護者や児童・生徒に伝えることが大切です。

Ⅰ－５　「指導と評価の計画」の作成について

〔１〕　年間指導計画に基づく「指導と評価の計画」の作成について

基礎的・基本的な内容の確実な定着を図り、個性や可能性を最大限に伸ばす授業を実現するためには、単元（題材）の目標を明確にした「指導と評価の一体化」を図ることが不可欠です。

そのため年間を通して、各単元（題材）の目標が実現されるよう、次のように「指導と評価の計画」を作成する必要があります。

① 学習指導要領に示されている各教科等の目標と内容に基づき、児童・生徒の実態等を踏まえて年間指導計画を作成し、これを基に単元（題材）ごとの目標や内容、さらには学習活動等を示した指導計画を作成する。

↓

② 単元（題材）ごとの目標と内容を分析し、単元（題材）ごとの観点別学習状況の評価を行う上での評価規準を設定する。

↓

③ 各単元（題材）において、指導が曖昧になったり網羅的になったりすることがないよう、どのような資質・能力をどこまで育成するのか、ねらいを明確にして、具体的な評価規準を設定するとともに、評価場面と評価方法を明らかにする。

※指導の見直しは毎授業行うが、観点別学習状況の評価は単元を通して適時行うことに留意

→次のページの 解説 で事例を用いて解説しています。

〔２〕「指導と評価の計画」の点検・確認について

「指導と評価の計画」は、年度当初に立てたままでよいということではなく、単元（題材）ごとの目標や内容、評価規準は適切か、評価方法は適切かなどについて不断に見直し、必要があれば、年度途中であっても、その都度、改善を図る必要があります。

また、この「指導と評価の計画」の点検・確認は、各教科等や各学年だけで判断して行っていればよいということではありません。

「指導と評価の計画」は、教科や学年ごとに作成されていますが、学校の教育活動における「指導と評価の計画」であることから、学校として管理するものです。学校として点検・確認を行うことは、評価の「妥当性」を常に確保し「信頼性」のある評価として実施するために不可欠です。

例えば、計画どおりに指導を行った場合も、児童・生徒が目標を達成するために指導の方法や使用する教材等の工夫が必要であるなど、課題があった場合は、当初の計画を見直す必要があります。

そして、このような「指導と評価の計画」の変更は、常に学校全体のものとして把握されていることが必要です。

各学校では、「週ごとの指導計画」の提出等で、各教科等の指導と評価について進行管理されていますが、何か課題があっても十分に改善ができる余裕がある時期、例えば、学期末の評価・評定が確定する前などに、学校全体として「指導と評価の計画」及びその実施状況の点検・確認を行うことが大切です。具体的には、授業の進度や、児童・生徒の学力を観点別に把握するための評価情報の収集の状況等について、学年や学級、教科の枠を超えて、組織的に点検・確認を行います。

解　説

年間指導計画に基づく「指導と評価の計画」の作成について、
知的障害特別支援学校小学部算数３段階を例に挙げて、解説します。

【評価の計画とは】

学習指導のねらいが児童・生徒の学習状況として実現されたかについて、評価規準に照らして観察し、毎時間の授業で適宜指導を行うことは、育成を目指す資質・能力を児童生徒に育むためには不可欠である。その上で、**評価規準に照らして、観点別学習状況の評価をするための記録を取るために、いつ、どのような方法で、児童・生徒について観点別学習状況を評価するための記録を取るのかについて、計画を立てること。**

（「特別支援学校小学部・中学部学習評価参考資料」第１章）

①学習指導要領に示されている各教科等の目標と内容に基づき、児童・生徒の実態等を踏まえて年間指導計画を作成し、これを基に単元（題材）ごとの目標や内容、さらには学習活動等を示した指導計画を作成する。

【小学部3段階「算数」の年間指導計画例】（ここでは、**単元「はかってみよう」**を例として挙げる。）

学期	単元名	主な学習内容
１学期	「１００までの数」 (算数3段階A　数と計算) 全13時間 「たし算とひき算」 (算数3段階A　数と計算) 全13時間	・５のまとまり、10のまとまりとして数える。 ・100までの数の系列を理解する。 ・和が20までの足し算をする。 ・足し算化引き算かどちらを用いるべきか問題文を読み判断する。
２学期	「ずけい」 (算数3段階B　図形) 全10時間 「さかみちとかく」 (算数3段階B　図形) 全９時間 「はかってみよう」 (算数3段階C　測定) 全10時間	・丸、三角、四角の特徴を捉える。 ・前後、左右、上下などの言葉を使って、物の位置を表現する。 ・傾斜がきついとボールは勢いよく転がり、傾斜が緩いとボールはゆっくり転がることが体験的に分かる。 ・身の回りにあるものの角を紙に写し取り、大小を比較する。 ・長さ、広さ、かさなどを直接比べる方法を理解する。 ・身近なものを単位として大きさを比較する。 ・端をそろえたり、他のものに置き換えたりして、長さなどを比較したり、表現したりする。
３学期	「時けい」 (算数3段階C　測定) 全９時間 「表にしてみよう」 (算数3段階D　データの活用) 全10時間	・短針で時、長針で分を表すということが分かる。 ・時刻と生活を結び付けて考えることができる。 ・ボールがかごに入ったら表に○を付けて、最終的に誰が一番多く入れられたか理解する。

【単元の指導計画】

〇単元「はかってみよう」の目標

(1)長さ、広さ、かさなどの量を直接比べる方法について理解し、比較することができる。
身の回りにあるものの大きさを単位として、その幾つ分かで大きさを比較することができる。

【知識及び技能 C ア (ア)】

(2)身の回りのものの長さ、広さ及びかさについて、その単位に着目して大小を比較したり、表現したりすることができる。

【思考力、判断力、表現力等 C ア (イ)】

(3)身の回りのものの量の単位と測定を理解し、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学習や生活に活用しようとする。

【学びに向かう力、人間性等】

〇単元の学習活動

時	学習活動
第一次 (１～2)	〇身近な物を比べるにはどのようにしたらよいか考える。 〇提示された基準線や基準となる物を用いて、身近な物の長さを比べる。
第二次 (3～7)	〇3量以上の長さを比べる。 〇提示された紙テープなどを使い、物の長さを測る。 〇提示されたもの以外でもどのような物を使えば物の長さを測れるか考えてみる。 〇目盛り方眼を用いて具体物の長さを比べる。
第三次 (8～9)	〇ビンやコップに入った水の量を比較する。
第四次 (10)	〇二つの量の関係から「広い」「狭い」を比べる。 〇自分のいる位置からの距離で、「遠い」「近い」を考える。 〇体育館で、広さ、遠さなどを体験的に計測する。

②単元（題材）ごとの目標と内容を分析し、単元（題材）ごとの観点別学習状況の評価を行う上での評価規準を設定する。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①長さ、広さ、かさなどの量を直接比べる方法について理解し、比較している。 ②身の回りにあるものの大きさを単位として、その幾つ分かで大きさを比較している。	①身の回りのものの長さ、広さ及びかさについて、その単位に着目して大小を比較したり、表現したりしている。	①身の回りのものの量の単位と測定を理解し、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学習や生活に活用しようとしている。

③各単元（題材）において、指導が曖昧になったり網羅的になったりすることがないよう、どのような資質・能力をどこまで育成するのか、ねらいを明確にして、具体的な評価規準を設定するとともに、評価場面と評価方法を明らかにする。

【単元の評価計画】(ここでは、【知識・技能】を**【知・技】**、【思考・判断・表現】を**【思・判・表】**、【主体的に学習に取り組む態度】を**【主】**と表記する。)

時	学習活動	何を評価するのか	どのような方法で評価するのか
第一次 (1~2)	○身近な物を比べるにはどのようにしたらよいか考える。 ○提示された基準線や基準となる物を用いて、身近な物の長さを比べる。	・直接比較のやり方が分かっているか。 ・直接比較をするときは端を合わせる必要があるということに気が付いているか。	**【知・技】**直接二つの物を比べるには、棒磁石など、基準となるまっすぐな物を使うと良いということが分かっているかを観察する。 **【思・判・表】**具体物2つを、端をそろえて比べて「長い」「短い」を判断しているかを観察する。
第二次 (3~7)	○3量以上の長さを比べる。 ○提示された紙テープなどを使い、物の長さを測る。 ○提示された物以外でもどのような物を使えば物の長さを測れるか考えている。 ○目盛り方眼を用いて具体物の長さを比べる。	・比べる対象によって「長い」になったり「短い」になったりすることに気付いているか。 ・間接比較をして大きな物を比べようとしているか。 ・長さなどを比較する方法について自分から考えようとしているか ・任意単位を用いての比較ができているか。 ・具体物の長さを数値化し、長さを比べているか。	**【思・判・表】**2量ずつ比べる中で、「一番長い」「一番短い」を判断して言い表しているかを観察する。 **【知・技】**身の回りにある物が幾つ分で長さを比較したり、目盛り幾つ分で長さを比較したりして、比べている様子を観察する。 **【思・判・表】**紙テープを用いて、黒板やテーブルなどの縦と横のどちらが長いかを比べている様子を観察する。 **【主】**学習活動に関心をもって粘り強く取り組もうとしている様子を観察する。
第三次 (8~9)	○ビンやコップに入った水の量を比較する。	・かさについて、2量や3量を直接比較できているか。 ・任意単位を用いての比較ができているか。	**【知・技】**水の量を比較するには、同じ形状、大きさの物を使うと良いということが分かっているかを観察する。 **【思・判・表】**水の量の多少を「コップ何杯分」で表現している様子を観察する。 **【主】**これまでの学びを生かして試行錯誤しながら学ぼうとしている様子を観察する。
第四次 (10)	○二つの量の関係から「広い」「狭い」を比べる。 ○自分のいる位置からの距離で、「遠い」「近い」を考える。 ○体育館で、広さ、遠さなどを体験的に計測する。	・目の前の物を「広い・狭い」に区別したり、「広さ」について言い表したりしているか。 ・自分のいる場所を基準にして「遠い・近い」を判断しているか。 ・身近な量について主体的に比較しているか。	**【思・判・表】**二つの量の関係について、「こちらが広い(狭い)」などと表現している発言を観察する。 **【思・判・表】**自分の位置からの距離について、基準を設けて「遠い・近い」を考えているかを観察する。 **【主】**学習のめあてを理解して工夫しようとしている様子を観察する。

【評価計画における評価場面と評価方法について】(ここでは、第二次を例として挙げる。)

時	学習活動
第二次 (3～7)	○3量以上の長さを比べる。 ○提示された紙テープなどを使い、物の長さを測る。 ○提示された物以外でもどのような物を使えば物の長さを測れるか考えている。 ○目盛り方眼を用いて具体物の長さを比べる。

何を評価するのか

・比べる対象によって「長い」になったり「短い」になったりすることに気付いているか。
・間接比較をして大きな物を比べようとしているか。
・長さなどを比較する方法について自分から考えようとしているか
・任意単位を用いての比較ができているか。
・具体物の長さを数値化し、長さを比べているか。

どのような方法で評価するのか

【知識・技能】
・身の回りにある物が幾つ分で長さを比較したり、目盛り幾つ分で長さを比較したりして、比べている様子を観察する。

上記の評価方法により、**【知識・技能】の観点における**学習状況の記録を取る。

【思考・判断・表現】
・２量ずつ比べる中で、「一番長い」「一番短い」を判断して言い表しているかを観察する。
・紙テープを用いて、黒板やテーブルなどの縦と横のどちらが長いかを比べている様子を観察する。

上記の評価方法により、**【思考・判断・表現】の観点における**学習状況の記録を取る。

【主体的に学習に取り組む態度】
・粘り強く学習に取り組んでいる様子を観察する。

上記の評価方法により、**【主体的に学習に取り組む態度】の観点における**学習状況の記録を取る。

《ポイント》
単元の適切なタイミングで記録を取っていき、観点別学習状況の評価につなげていく。

単元終了後、『評価場面(第一次から第四次)』で記録した内容を観点別にまとめて、単元における観点別学習状況の評価を行う。

Ⅰ－６　評価規準の作成について

〔１〕　評価規準について

児童・生徒一人一人の進歩の状況や各教科等の目標の実現状況を的確に把握し、指導の改善に生かすことができるよう評価を行うためには、単元（題材）の目標や各１単位時間の指導のねらいを明確にすることが必要です。そして、その目標や指導のねらいが実現されたかどうかを把握するためには、期待される児童・生徒の姿について、あらかじめ具体的に想定しておくことが大切です。

これを示したものが評価規準であり、各教科等について各学校が設定するものです。

評価規準は、単元（題材）の目標や各１単位時間の指導のねらいを分析、検討するとともに、児童・生徒の実態を踏まえ、教材、学習活動等に即して設定します。

評価規準の設定に当たっては、「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料（小学校・中学校）」（国立教育政策研究所、令和２年３月）を参考にすることができます。国の資料では、各教科等の特質に応じて学習指導要領の規定から評価規準を作成する際の基本的な手順が示されており、「第３編　単元ごとの学習評価について（事例）」には、「指導と評価の一体化」を具現化するための指導と評価の計画や観点別学習状況の評価の進め方等が具体的に示されています。

解説

「評価規準」と「評価基準」

評価規準とは、「学習指導要領に示された各教科等の目標・内容に対して、期待される児童・生徒の姿を、あらかじめ想定したもの」です。この単元を通して「このような姿になってほしい」と願って、授業に参加する全ての児童・生徒に達成してほしい姿を現しています。単元の終了後、全員が「おおむね満足できた状態」になれば、評価規準を達成できたことになります。

一方、評価基準は、目標に対する達成の程度を量的に、より具体的に示した指標を指します。

【小学校・体育の走り高跳び】を例に、考えてみましょう。

評価規準	リズミカルな助走をし、上体を起こして力強く踏み切り、はさみ跳びで足から着地する。 ➡ 全員が「おおむね満足」になるよう指導を工夫する。 その中で「十分満足」な状況があれば、評価していく。
評価基準	正しい飛び方で、110 ㎝以上のバーを飛び越えることができる。【Ａ基準】 正しい飛び方で、100 ㎝程度のバーを飛び越えることができる。【Ｂ基準】 正しい飛び方ができない、又は 80cm 程度のバーを飛び越えることができない。【Ｃ基準】

〔２〕　「内容のまとまりごとの評価規準」とは

学習指導要領には、各教科等の「第２　各学年（分野）の目標及び内容」の「２　内容」において、「内容のまとまり」ごとに育成を目指す資質・能力が示されています。

学習評価参考資料では、児童・生徒が資質・能力を身に付けた状況を表すために、この「２　内容」の記載事項の文末を「～すること」から「～している」と変換したもの等を、「内容のまとまりごとの評価規準」と呼んでいます。なお、「主体的に学習に取り組む態度」に関しては、教科によっては学びに向かう力、人間性等の内容が示されていない場合があります。こうした場合は各学年または各段階の学びに向かう力、人間性等に係る目標を参考に、「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する必要があります。

〔３〕　「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する際の基本的な手順

国の資料では、各教科における、「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する際の基本的な手順について、次のように示されています。

学習指導要領に示された教科及び学年（又は分野）の目標を踏まえて、「評価の観点及びその趣旨」が作成されていることを理解した上で、

① 各教科における「内容のまとまり」と「評価の観点」との関係を確認する。

② **【観点ごとのポイント】**を踏まえ、「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する。

「知識・技能」の評価規準については、基本的に、①において「知識及び技能」で示された内容をもとに、その文末を「～している」、「～できる」などとして作成します。

「思考・判断・表現」の評価規準については、基本的に、①において「思考力、判断力、表現力等」で示された内容をもとに、その文末を「～している」、「～できる」などとして作成します。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準については、基本的に、当該学年の「主体的に学習に取り組む態度」の観点の趣旨をもとに、当該「内容のまとまり」で育成を目指す「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」で示された内容や指導事項等を踏まえ、その文末を「～しようとしている」、「～している」などとして作成します。

なお、「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する際の基本的な手順①、②の詳細については、本資料において、このあとの「Ⅱ　実践編」に示しています。

解 説

「内容のまとまりごとの評価規準」とは

「内容のまとまり」とは、学習指導要領に示す各教科等の「２　各段階の目標及び内容　（２）内容」の項目等に当たるものです。いくつかの教科を見てみましょう。

○小学部生活における内容のまとまり

ア　基本的生活習慣
イ　安全
ウ　日課・予定
エ　遊び
オ　人との関わり
カ　役割
キ　手伝い・仕事
ク　金銭の扱い
ケ　きまり
コ　社会の仕組みと公共施設
サ　生命・自然
シ　ものの仕組みと働き

○小学部国語における内容のまとまり

各段階とも、「⑵　内容」は、〔知識及び技能〕と〔思考力、判断力、表現力等〕の２つの内容のまとまりで示されている。これらのまとまりは、更に以下のように分けられている。

〔知識及び技能〕
⑴　言葉の特徴や使い方に関する事項
⑵　情報の扱い方に関する事項
（小学部３段階のみ）
⑶　我が国の言語文化に関する事項
〔思考力、判断力、表現力等〕
Ａ聞くこと・話すこと
Ｂ書くこと
Ｃ読むこと

○中学部数学における内容のまとまり

〔１段階〕
「Ａ　数と計算」ア　整数の表し方
「Ａ　数と計算」イ　整数の加法及び減法
「Ａ　数と計算」ウ　整数の乗法
「Ｂ　図形」ア　図形
「Ｃ　測定」ア　量の単位と測定
「Ｃ　測定」イ　時刻と時間
「Ｄ　データの活用」ア　身の回りにあるデータを簡単な表やグラフで表したり、読み取ったりすること

〔２段階〕
「Ａ　数と計算」ア　整数の表し方
「Ａ　数と計算」イ　整数の加法及び減法
「Ａ　数と計算」ウ　整数の乗法
「Ａ　数と計算」エ　整数の除法
「Ａ　数と計算」オ　小数の表し方
「Ａ　数と計算」カ　分数の表し方
「Ａ　数と計算」キ　数量の関係を表す式
「Ｂ　図形」ア　図形
「Ｂ　図形」イ　面積
「Ｂ　図形」ウ　角の大きさ
「Ｃ　変化と関係」ア　伴って変わる二つの数量
「Ｃ　変化と関係」イ　二つの数量の関係
「Ｄ　データの活用」ア　データを表やグラフで表したり、読み取ったりすること

○中学部美術における内容のまとまり

〔１段階〕
・経験したことや思ったこと、材料などを基にした表現　「Ａ表現」ア（ｱ）（ｲ）〔共通事項〕
・作品や身近な造形品の鑑賞「Ｂ鑑賞」〔共通事項〕

〔２段階〕
・経験したことや想像したこと、材料などを基にした表現　「Ａ表現」
ア（ｱ）（ｲ）〔共通事項〕
・作品や美術作品などの鑑賞「Ｂ鑑賞」〔共通事項〕

学習指導要領には、「内容のまとまり」ごとに育成を目指す資質・能力が示されています。

「内容のまとまりごとの評価規準」とは、児童・生徒が「育成を目指す資質・能力を身に付けた状況」を表すことです。したがって、学習指導要領の「（２）内容」の記載事項の文末を、「～すること」から「～している」と置き換えるなどして作成します。

なお、「主体的に学習に取り組む態度」に関しては、教科によって学びに向かう力、人間性等の内容が学習指導要領に示されていないことから、各段階の「（１）目標」を参考にし、必要に応じて段階別の評価の観点の趣旨のうち、「主体的に学習に取り組む態度」に関わる部分を用いて作成する必要があります。

〔小学部国語科の例〕

例　２段階〔思考力、判断力、表現力等〕の「Ａ　聞くこと・話すこと」＞

ウ　体験したことなどについて、伝えたいことを考える活動を通した指導の例

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
学習指導要領（２）内容	ア　言葉の特徴や使い方 （ウ）身近な人との会話を通して、物の名前や動作など、いろいろな言葉の種類に触れること。	ウ　体験したことなどについて、伝えたいことを考えること。	（示されていない）

※２段階の目標のウを参考に作成する。

内容のまとまりごとの評価規準【例】	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	身近な人との会話を通して、物の名前や動作など、いろいろな言葉の種類に触れている。	「聞くこと・話すこと」において、体験したことなどについて、伝えたいことを考えている。	言葉を通じて積極的に人に関わったり、思いをもったりしながら、教師や友達との言葉でのやり取りを聞いたり、伝えようとしたりしている。

〔４〕　「内容のまとまりごとの評価規準」に対する、実際の評価の記述方法について

知的障害のある児童、生徒に対する評価は、「内容のまとまりごとの評価規準」に対して、実現状況等を箇条書き等により文章で端的に記述することとなります。

評価の記録については、基本的に単元や題材等のまとまりごとに、それぞれの実現状況が把握できる段階で評価を行います。準ずる教育課程の場合には、テストやレポート、ワークシート、ノート、作品など、授業後に教師が確認しながら全員の評価を行う方法がありますが、知的障害の児童・生徒の学習状況を把握するために、テストやレポートなどを活用することは難しい場合が多いため、単元における活動の様子や行動変容、授業後に学んだことを活かしている場面があるかどうかをよく観察することが大切です。

単元が終了した際に、一人一人の３観点の評価を、文章で記述し、それを蓄えておくことが大切です。

学期末や学年末などには、観点別学習状況の評価に係る記録の総括を行います。特別支援学校学習指導要領に示す各教科の各段階の目標に照らして、その実現状況を箇条書き等により文章で端的に記述して表すこととなります。

なお、各学校では観点別学習状況の評価の観点ごとの総括及び記録の総括の考え方や方法について、教師間で共通理解を図るとともに、児童・生徒及び保護者に十分説明し理解を得ることも大切です。

以上のことから、例えば、小学部算数科における評価の実際を見てみましょう。

＜例　内容のまとまり【2 段階】　C　測定　　ア　二つの量の大きさ＞

単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①　長さの量の大きさが分かり、二つの量の大きさについて一方を基準にして相対的に比べている。 ②　「長い･短い」の用語が分かっている。	①　長さの量を、一方を基準にして比べることに関心をもったり、量の大きさを、用語を用いて表現したりしている。	①　二つの量の大きさについて関心をもち、算数で学んだことの楽しさやよさを感じながら興味をもって学ぼうとしている。

観点別学習状況の評価の総括　例

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
児童A	・二つのものの長さの違いを表す用語を使い、「こっちが長い（短い）と比べました。 ・三つの中から二つを選ぶ場合も、一方を基準に長さを比較できました。	・異なる長さの具体物について、「こっちが長い」「これは長くない、短い」など、様々な言葉で長さの違いを表現していました。	・身近なものについて「長い・短い」の言葉を使って表現し、着替えのときに「長袖の方が長い」など、生活の中でも表そうとしていました。
児童B	・長さを比較する活動で「長短」の区別がつくようになり、教師の言葉を模倣しながら「長い・短い」と自ら用語を使って比べられるようになりなした。	・「どちらが長いですか？」の問い掛けに対し、長い方を選択し、具体物を変えても正しく選択していました。	・長さを比較する課題に関心をもち、「長い・短い」と自発しようとしていました。 ・身近なものの長さについても、気付いたことを教師に伝えようとしていました。

Ⅰ－７　評価方法について

〔１〕　評価場面や評価方法の設定について

適正な評価を実施するためには、適切な評価規準の設定と併せて、評価規準に示される資質・能力を評価するのにふさわしい評価場面や評価方法を選択することが重要です。この評価場面や評価方法の設定については、児童・生徒の状況を無理なく的確に把握できるよう選択・検討することが求められます。

〔２〕　評価場面や評価方法等の具体的な事例について

評価場面や評価方法等を検討する際には、「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料（小学校・中学校）」（国立教育政策研究所、令和２年３月）における事例を参考にすることができます。本資料及び学習評価参考資料では、学習評価の改善の基本的な方向性を踏まえつつ、平成29年改訂学習指導要領の趣旨・内容の徹底に資する評価の事例を示すことができるよう、原則として次のような方針を踏まえたものとしています。

- 単元に応じた評価規準の設定から評価の総括までとともに、児童・生徒の学習改善及び教師の指導改善までの一連の流れを示している。
- 観点別の学習状況について評価する時期や場面の精選について示している。
- 評価方法の工夫を示している。

Ⅰ－８ 指導の改善に生かす評価と評価結果の記録

〔１〕　指導の改善に生かす評価について

実際の各教科等の授業においては、教師は児童・生徒の学習状況を常に把握しながら、指導を進めることが大切です。

学級全体とともに児童・生徒一人一人の学習状況を細やかに把握し、必要があるときには当初の指導の計画を変更して、理解や習熟の程度に応じて繰り返し指導を加えていったり、児童・生徒の興味・関心に応じた課題を新たに設定したりするなどして、指導の改善を不断に行いながら進めることが大切です。

こういった、児童・生徒一人一人の学習状況を細やかに把握するための視点となるのが、各教科等における評価の観点です。各教科等の評価の観点は、各教科等の特性に基づいた目標を実現し、その教科の学力の育成を確実に図るために、児童・生徒の当該教科等の学力の状況（＝学習の実現状況）を分析的に捉える視点として示されています。

したがって、学習指導においては、各教科の各段階の目標と内容に基づいた評価規準の設定と、「指導と評価の一体化」による指導の改善・充実を、日常的に図ることが重要です。

〔２〕　評価結果の記録について

指導の改善に生かす評価を行う中で、必要がある場合は、「十分満足できる」状況、「おおむね満足できる」状況、「努力を要する」状況と判断した児童・生徒の具体的な状況について記録しておくことが重要です。

しかし、各授業で児童・生徒全員について頻繁に記録を残すような評価の在り方は、現実的には困難であり、テストやレポート、ワークシート、ノート、作品など、授業後に教師が確認しながら全員の評価を行えるような方法を活用していくことが効果的です。

この児童・生徒全員の学習状況を記録として残すための評価を行う際には、それぞれの単元（題材）において、その時期や方法を観点ごとに整理し、適切に行うことが求められます。

そして、授業後に教師が確認しながら行った全員の評価の結果と、授業中の指導の改善に生かすために行った個別の評価とを組み合わせて、全員の学習状況を適切に評価します。

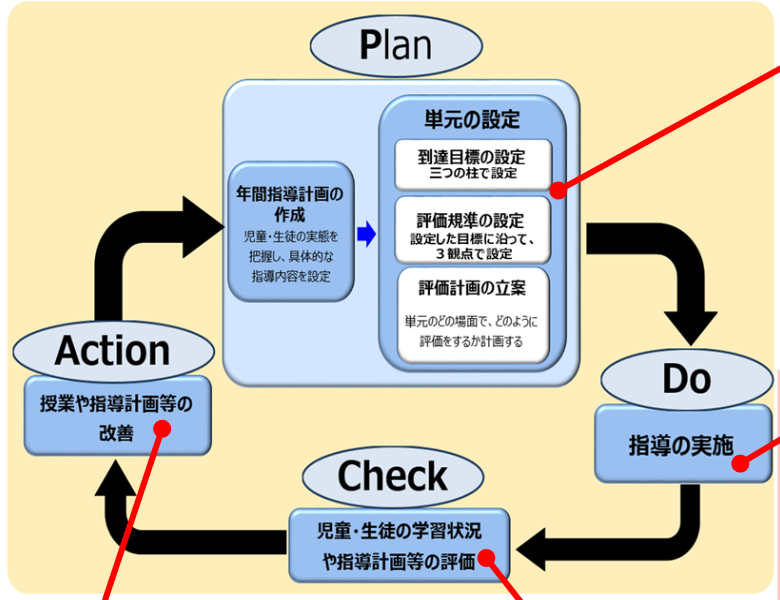
このような評価方法の工夫により、評価すべき点を見落としていないか確認できるだけではなく、必要以上に記録を残すことに多大な時間を要し、指導がおろそかになるといった状況を防ぐことができ、効果的・効率的な学習評価を行うことが可能になると考えられます。

また、前述したように、知的障害のある児童・生徒には、テストやレポートなどで把握することは難しいため、単元における活動の様子や行動変容、授業後に学んだことを活かしている場面があるかどうかをよく観察する必要があります。その際は、単元の評価規準に対する達成状況を確認することが大切です。

解　説

指導の改善に生かす評価と評価結果の記録について、知的障害特別支援学校小学部の算数の個別学習を例に挙げて解説します。

（１）指導の改善に活かす評価について



Point　1

各教科の目標と内容に基づいて

○**三つの柱で目標**を設定

○**３観点で評価規準**を設定

○**評価計画**を立案

Point　2

常に**一人一人の学習状況を把握**しながら指導

(例)弁別やマッチングができるように教材を工夫して作成した

Point　3

・**目標、評価規準に沿って評価**

・**評価計画を基に評価**

・**指導の改善に生かすための評価**

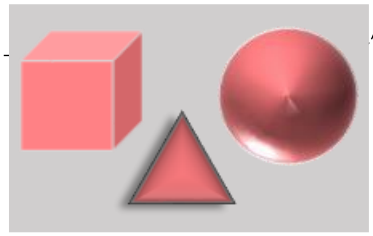
※評価計画に基づき、単元の中の然るべき段階で評価することが大切

(例)用意した教材が、児童・生徒の実態に合っておらず、指導目標を達成することが難しいことが分かった

Point　4

Point ***3*** の**評価を踏まえ**、必要に応じて指導計画変更

平面の教材から、立体の教材に変更したら、マッチングができた

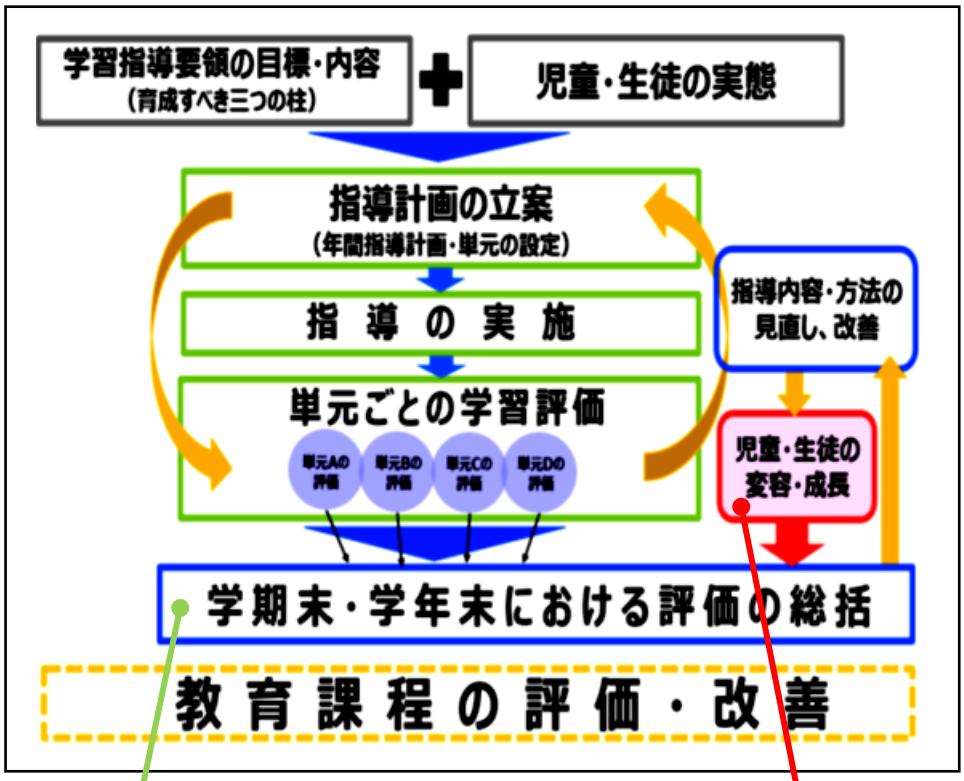


Point 1 に

立ち返りながら

授業改善

（２）評価結果の記録について



評価の記録

授業後に生かしている場面の観察

（例）同じ色のコーンを重ねることができるようになった

（例）同じ種類の食器に分類できるようになった

評価の記録

単元における活動の様子や行動の変容

（例）立体教材でマッチング課題を繰り返した結果、平面教材のマッチングもできるようになった

Ⅰ－９　観点別学習状況の評価に係る記録の総括

〔１〕　観点別学習状況の評価とは

観点別学習状況の評価は、各教科の学習状況を分析的に捉えるものです。児童・生徒が各教科等での学習において、どの観点で望ましい学習状況が認められ、どの観点に課題が認められるかを明らかにすることにより、具体的な学習や指導の改善に生かすことができます。

観点別学習状況の評価は、各教科の単元や題材などのまとまりごとの学習状況を A、B、C の３段階別に総括したものです。したがって、何らかの学習状況を段階別に総括する点においては、観点別学習状況の評価も評定の一種であることに留意することが必要です。

これまで、小、中、高等学校において取り組まれてきた観点別学習状況の評価やそれに基づく学習や指導の改善の更なる定着につなげる観点からも、評価の段階及び表示の方法については、現行と同様に３段階（ABC）とすることが適当であるということになりました。

（知的障害者である児童・生徒に対する教育における観点別学習状況の評価の総括については 26 ページの「解説」を参照）

〔２〕　観点別学習状況の評価に係る記録の総括

適切な評価の計画の下に得た、児童・生徒の観点別学習状況の評価に係る記録の総括の時期としては、単元（題材）末、学期末、学年末等の節目が考えられます。

各教科の観点別学習状況の評価を総括することは、児童・生徒がどの教科の学習に望ましい学習状況が認められ、どの教科の学習に課題が認められるのかを明らかにすることにより、個別指導計画の実施状況の評価と、教育課程全体を見渡した学習状況の把握と指導や学習の改善に生かすことを可能とするものです。

また、観点別学習状況の評価に係る記録の総括は、学期末や学年末などに行われることが多いです。学年末に総括する場合には、学期末に総括した評価の結果を基にする場合と、学年末に観点ごとに総括した結果を基にする場合が考えられます。その際、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領に示す各教科の目標に照らして、その実現状況を箇条書き等により文章で端的に記述して表すこととなりますが、常にこの結果の背景にある児童・生徒の具体的な学習の実現状況を思い描き、適切に捉える必要があります。

なお、各学校では観点別学習状況の評価の観点ごとの総括及び記録の総括の考え方や方法について、教師間で共通理解を図り、児童・生徒及び保護者に十分説明し理解を得ることが大切です。

解　説

評価規準の作成から評価の総括までの具体的な流れを示します。

確　認

1　指導する「教科」について、次の項目を確認する。

【参考】学習評価参考資料

① 各段階の目標と内容

② 「内容のまとまり」の構成

③ 評価の観点及びその趣旨

作　成

2 「単元の評価規準」と「評価計画」を作成する。

① 「**単元の目標」を作成**する。

② **「内容のまとまりごとの評価規準」を作成**する。

【参考】文部科学省「学習評価参考資料」➡　文末例を参照

③ **「単元の評価規準」を作成**する。

④ 評価の場面、評価方法を明らかにした「**評価計画」を作成**する。

授　業

授　業

評　価

3　評価計画に基づき一人一人の学習状況を評価する。

① 評価規準に照らし、十分達成できた or おおむね達成できたか、状況を記録する。

② 達成に至らない場合は、学習方法や支援方法を工夫する。

③ 単元の終了時には、**3 観点による学習評価を文章で端的に表す。**

評価の総括

4　学期末・学年末における評価の総括をする。

① 個別指導計画の教科等の評価を、3 観点で、文章で記載する。

② 指導要録の「指導の記録」に、50 字程度で記載する。

③ 次年度の指導計画の改善点を、引き継げるようにする。

Ⅰ－10 学期（前期・後期等）ごとの総括的な評価から、学年末の評価の総括（指導要録の学習の記録）までの流れ

個別指導計画を前期と後期に分けて作成した場合、前期の個別指導計画の評価から指導要録の「学習の記録」の評価の作成までの手順は、以下のような流れが考えられます。

【例：国語】

※評価の総括をする際の考え方の例です。

個別指導計画

Step1：個別指導計画を作成
①教科としての「国語」
②各教科等を合わせた指導で扱った「国語」

①教科としての「国語」（前期及び後期）

個別指導計画（前期）

	学習内容	目 標	評 価
国語	○日常生活の挨拶 ・なまえ、なまえだ ・なかま集め ・平仮名を読んでみよう・書いてみよう（書くこと） ○歌こと・話すこと ・だってたいせつ ○聞くこと ・しるしをみつけよう	①日常生活の挨拶について、教師と一緒に実践しながら、適宜場面から正しい平仮名の文字カードを選んでいました。 ②教師と一緒に、たくさんいることを考え、身振りや発声により伝えることができる。 ③教師が示唆した言葉での呼び掛けを聞いて、自分なりの方法で思いを伝えようとする。	①物の絵や写真を手掛かりにして、教師と一緒に実践しながら、適宜場面から正しい平仮名の文字カードを選んでいました。 ②適宜で扱った動物園の見聞のスライドを見て体験したことを思い出し、キリンのことについて身振りや発声により友達や教師に伝えていました。 ③なかま集めの活動では、教師が提示しながら相談し考えて、絵や写真カードに対応した正しい平仮名カードを選びました。

個別指導計画（後期）

	学習内容	目 標	評 価
国語	○挨拶や出会う時 ・朝の時だけに挨拶しよう ・さんぽはおもう ・平仮名で読んでみよう・書いてみよう（書くこと） ○聞くこと・話すこと ・はなしできるかな ○聞くこと ・おおきなかぶ	①朝の時だけに挨拶をもって聞くことができる。いろいろな場面を見聞して書くことに親しむ。 ②絵本などを見て、物や場面を友達に伝えたり、話題などを模倣しようとすることができる。 ③伝える楽しさを知り、工夫しながら相手に伝えようとする。	①ホワイトボードや掲示板などに、マーカーで記録、要約を用いて表現していました。 ②絵本などの中の場面を友達に示しながら、身振り動作や表現を発声し、身振りを模倣していました。 ③友達や教師に伝わったことが分かると、自分が進んで加動作・言葉を見聞、その表現を相手に伝えようとする場面が見られました。

②各教科等を合わせた指導で扱った「国語」（前期及び後期）

個別指導計画（前期）

	学習内容	目 標	評 価
日常生活の指導	○朝の整理 ○朝会し、朝の朝会 ○挨拶 ○食事 ○朝の会、帰りの会	①朝の会において、教師と一緒に一日の予定を確認することができる。	①教師と一緒に予定表を見て、その日の予定を、教師に報告することができました。
生活単元学習	○学校探検 ○校外歩行（町探検） ○事前学習（遠足）	①教師と一緒に目的を確認し、はまったり疲ったりすることができる。 ②季節に咲くものを、教師と一緒に探すことができる。	①教師と一緒に目的を知って確認し、疲れ時にはよく、疲れ時には疲ることができました。 ②「タンポポ」「ツツジ」など、季節に咲くものを見付けることができました。

個別指導計画（後期）

	学習内容	目 標	評 価
日常生活の指導	○朝の整理 ○朝会し、朝の朝会 ○挨拶 ○食事 ○朝の会、帰りの会	①朝の会において、その日の予定を確認し、見通しをもつことができる。	①予定が確認され、自分から「おはようございます」など、伝えてることが増えてきました。
生活単元学習	○校外歩行（町探検） ○事前学習（校外学習）	①朝の絵を見て、「何の色を確認することができる。 ②季節に咲くものを、自分から伝えることができる。	①朝の絵を見て、「おかしがおいしい」「パパ」など、伝えることが増えてきました。 ②「どんぐり」「やきいも」など、その時に、が発見したものを教えてくれました。

評価の総括

Step２：学年末の「評価の総括」を作成
①教科としての「国語」
②各教科等を合わせた指導で扱った「国語」

①教科としての「国語」（１年間を通して）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
国語の学習で成長が見られた点【前期・後期】	・読み聞かせに興味をもって参加していた。 ・いろいろな形や太さの線を書いていた。	・絵本の好きな場面を見付けて登場人物の台詞や動きを模倣していた。	・絵や写真カードに対応した正しい平仮名カードを選ぶことに粘り強く取り組めていた。 ・体験したことを身振りや発声で他者に伝えようとしていた。

②各教科等を合わせた指導で扱った「国語」（1 年間を通して）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
合わせた指導の国語の内容における成長	・教員との会話を通して、身近な物の名前や動作を表す言葉を聞いたり、話そうとしたりした。	・校外歩行で横断歩道を渡る際、信号機の色に応じた行動をとっていた。（信号機の色の意味を分かっている）	・校外歩行で季節の変化に気付き、気付いたことを教師に伝えようとしていた。

指導要録

Step３：Step2①②の学年末の「評価の総括」を総括して、観点別学習状況をふまえて、指導要録の指導に関する記録を作成する。

指導要録の記載

国語	身近な物の名前や動作を表す言葉などを理解した。身振りや発声などで工夫して、思いを伝えようとした。（47 文字）	知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度

Ⅱ　実践編

小学部　生活

〔１〕生活科における評価について

１　小学部　生活科の「目標」

具体的な活動や体験を通して、生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
（１）活動や体験の過程おいて、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴のよさ、それらの関り等に気付くとともに、生活に必要な習慣や技能を身に付けるようにする。
（２）自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関りについて理解し、考えたことを表現することができるようにする。
（３）自分のことに取り組んだり、身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり、生活を豊かにしようとしたりする態度を養う。

特別支援学校学習指導要領には、この目標に基づき、１段階から３段階までの目標と内容が示されています。

２　小学部生活科の「評価の観点及びその趣旨」

生活科において育成を目指す資質・能力が身に付いている児童を表している姿です。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関り等に気付いているとともに、生活に必要な習慣や技能を身に付けている。	自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて理解し、考えたことを表現している。	自分のことに取り組もうとしたり、身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学ぼうとしたり、生活を豊かにしようとしたりしている。

参考：【30 文科初第 1845 号　改善等通知　　別紙４　１－２　生活＜小学部　生活＞】

学習評価参考資料には、生活科の１段階から３段階までの「評価の観点及びその趣旨」が示されています。この中から、小学部２段階を例示します。

【小学部　２段階】

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴や変化に気付いているとともに、身近な生活において必要な習慣や技能を身に付けている。	自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関りについて気付き、感じたことを表現しようとしている。	自分のことに取り組もうとしたり、身近な人々、社会及び自然に働きかけ、意欲や自信をもって学ぼうとしたり、生活に生かそうとしたりしている。

参考：学習評価参考資料

３　小学部生活科における「内容のまとまり」

「内容のまとまり」とは、特別支援学校学習指導要領に示す各教科等の「２　各段階の目標及び内容（２）内容」の項目等に当たるものです。

ア　基本的生活習慣	キ　手伝い・仕事
イ　安全	ク　金銭の扱い
ウ　日課・予定	ケ　きまり
エ　遊び	コ　社会の仕組みと公共施設
オ　人との関り	サ　生命・自然
カ　役割	シ　ものの仕組みと働き

〔２〕「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する際の基本的な手順

ここでは、１段階の内容 ア 基本的生活習慣 を取り上げて、「内容のまとまりごとの評価規準」作成の手順を説明します。まず、特別支援学校学習指導要領に示された教科の目標を踏まえて、「評価の観点及びその趣旨」が作成されていることを理解します。その上で、①及び②の手順を踏んでいきます。

1　各教科における「内容のまとまり」と「評価の観点」との関係を確認する。

内容のまとまり

ア 基本的生活習慣

食事や用便等の生活習慣に関わる初歩的な学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(ｱ) 簡単な身辺処理に気付き、教師と一緒に行おうとすること。

(ｲ) 簡単な身辺処理に関する初歩的な知識や技能を身に付けること。

（下線）…知識及び技能に関する内容　（波線）…思考力、判断力、表現力等に関する内容

※生活の「学びに向かう力、人間性等」の内容は、各段階の目標にまとめて示されている。

2　以下の【観点ごとのポイント】を踏まえ、「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する。

○「知識・技能」のポイント

上記①の指導事項（ｲ）について、「簡単な身辺処理に関する初歩的な知識を身に付ける」と示している部分が「知識」に該当し、評価規準は、その文末を「～に気付いている（関心をもっている）。」などと当該段階で求める資質・能力に基づき変更して作成します。また、「技能」については、「簡単な身辺処理に関する初歩的な技能を身に付ける」と示している部分が該当し、評価規準は、「～初歩的な技能を身に付けている。」として作成します。

○「思考・判断・表現」のポイント

基本的に、上記①の指導事項(ｱ)について、その文末を教科の観点の趣旨に基づき、「～について考えている。」などとして作成します。

○「主体的に学習に取り組む態度」のポイント

当該段階目標のウの主体的に学習に取り組む態度の「観点の趣旨」をもとに、その文末を「～している。」などとして作成します。

〔３〕生活科における指導と評価の一体化を目指して

1　指導と評価のポイント

生活科では、教師の評価がより信頼性の高いものとなるように、評価に当たっては、「量的な面」だけでなく、「質的な面」から捉えることが必要です。例えば、「多くの○○を見付けている」、「絵や文でたくさん書いている」など「量的な面」の評価に偏らないようにします。また、教師による行動観察や作品・発言分析等の他に、児童が授業後に学んだことを生かしている場面があるかどうかなど、児童の姿を多面的に評価することが大切です。

2　指導と評価の一連の流れ

２段階の事例を通して、指導と評価の一連の流れについて説明します。

【事例１】小学部第５学年　生活科　２段階

1　単元名　　「学校の周りを探検しよう」

2　小学部生活科の内容のまとまり　　※学習評価参考資料　P23参照

コ　社会の仕組みと公共施設

3　単元の目標

（1）身の回りの社会の特徴や変化に気付くとともに、身近な生活において必要な習慣や技能を身に付ける。
〔知識及び技能〕

（2）身の回りの生活のことや、社会と自分との関わりについて気付き、感じたことを表現しようとする。
〔思考力、判断力、表現力等〕

（3）自分の事に取り組もうとしたり、意欲や自信をもって学んだり、生活に生かそうとする。
〔学びに向かう力、人間性等〕

4　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
身の回りの社会の特徴や変化に気付くとともに、身近な生活において必要な習慣や技能を身に付けている。	身の回りの生活のことや、社会と自分との関わりについて考えている。	身の回りの地域のことや公園、郵便局など公共施設に関わる学習活動を通して、自分の事に取り組もうとしたり、意欲や自信をもって学んだり、生活に生かそうとしたりしている。

5　児童・生徒の実態等

児童	児童の実態	重点とする指導事項	手だて
A	・発音がやや不明瞭な部分があるが、人と関わることが好きで、顔見知りの人には自分から話しかける。 ・家や学校での出来事を２～３語文程度で話すことができる。 ・知っている公共施設や店の名称を答えることはできる。公共施設の使い方や役割などについて答えたり、説明したりすることは難しい。	学校の周りにある公共施設やお店を考え、言葉で発言したり、発表したりする。	教師からの質問する際には、簡単な言葉で簡潔に伝える。思い出せない時は、ヒントとして写真やイラストを提示して、思い出したり、考えたりできるようにする。
（略）			

6　単元の流れ（７時間扱い）

時	学習活動	指導上の留意点	評価の観点・評価方法等
第一次（1～2）	①動画や写真を見る。 ②学校の周りにはどんな店や公共施設があるか発表する。 ③店の種類や特徴、公共施設の役割や使い方などを知る。	①校外歩行時の動画等を使用し、学校の周りにある店や公共施設を思い出せるようにする。 ②動画の速度を落とし、児童が思い出したり、発言できるようにしたりする。 ③交番、郵便、消防署などの公共施設について、写真やイラストを使いながら説明する。	**〔知識・技能〕** ①（行動観察） **〔思考・判断・表現〕** ①（行動観察） **〔主体的に学習に取り組む態度〕** ①（行動観察）

第二次（3～5）	①店や公共施設の写真を撮ったり、地図にメモを書いたりする。 ②地図作り。	①個々の GIGA 端末で撮影し、帰校後も見返すことができるようにする。 ②地図に写真を貼る位置や名称を貼る位置を示す。	**〔知識・技能〕** ①②（行動観察） **〔思考・判断・表現〕** ②(行動観察、写真、メモ) **〔主体的に学習に取り組む態度〕** ②（行動観察、制作物）
第三次（6～7）	①発表の準備：完成した地図から気付いたことや、思ったことを書く。 ②発表:友達の前で作った地図について気付いたこと、思ったことを発表する。	①発表用のテンプレートを用意し、テンプレートに沿って気付いたことや思ったことを記入していく。 ②テンプレートを使用して発表する。	**〔知識・技能〕** ②（行動観察） **〔思考・判断・表現〕** ①（行動観察、制作物） **〔主体的に学習に取り組む態度〕** ③（行動観察）

7　評価の実際

（1）「知識・技能」の評価

・学校周辺にあるコンビニエンスストアやスーパーマーケット、駅、公園等の店や公共施設を思い出し、発言する様子が見られた。
・校外歩行の時の動画を見ることで、今まで気付かなかった店や公共施設にも気付くことができた。
・公共施設はどんな時に使用するのかを考え、「お菓子を買う」「電車に乗る」等の発言をしていた。

（2）「思考・判断・表現」の評価

・写真や動画を見て、身近にあるスーパーや消防署、郵便局などのお店や施設に注目し、写真を使ったクイズに答えることで、各施設等の役割を覚えていた。
・コンビニエンスストアや消防署を見つけると、指差したり写真を撮ろうとしたりしていた。
・見付けた店や公共施設などについて、気付いたこと等を友達の前で発表することができた。

（3）主体的に学習に取り組む態度

・教師の質問に積極的に答えていた。動画も興味をもって見ていて、知っている店や公共施設が出てくると「知っている」「〇〇だ」などの発言も見られた。
・地図作りでは、写真を地図に貼ったり、絵を描いたりするなどして地図を完成させようとしていた。

8　観点別学習状況の評価の総括

	知識･技能	思考･判断･表現	主体的に学習に取り組む態度
児童A	・動画を見て、店名や施設名を言ったり、知らなかった店や公共施設に気付いたりすることができました。 ・店や公共施設の使い方について知ることができました。	・身近にあるお店や公共施設の名称を知り、施設等の役割を考えることができました。施設等の役割を知ることで、自分の生活に役に立つ施設は他にどんなものがあるか考えていました。	・探検で見付けた公共施設やお店について、特に興味をもった施設等についてはその役割について自らすすんで発表することができました。

小学部　国 語

〔１〕　国語科における評価について

１　小学部　国語科の「目標」

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で理解し表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

⑴　日常生活に必要な国語について、その特質を理解し使うことができるようにする。
⑵　日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を身に付け、思考力や想 像力を養う。
⑶　言葉で伝え合うよさを感じるとともに、言語感覚を養い、国語を大切にしてその能力の向上を図る態度を養う。

特別支援学校学習指導要領には、この目標に基づき、１段階から３段階までの目標と内容が示されています。

２　小学部国語科の「評価の観点及びその趣旨」

国語科において育成を目指す資質・能力が身に付いている児童の姿です。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。	「聞くこと・話すこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を身に付け、思い付いたり考えたりしている。	言葉を通じて積極的に人と関 わったり、思い付いたり考えたりしながら、言葉で伝え合うよさを感じようとしているとともに、言語感覚を養い、言葉をよりよく使おうとしている。

参考：【30 文科初第 1845 号　改善等通知　　別紙４　１－２　国語（１）＜小学部 国語＞】

学習評価参考資料には、国語科の１段階から３段階までの「評価の観点及びその趣旨」が示されています。小学部２段階を例示します。

【小学部　２段階】

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	日常生活に必要な身近な言葉を身に付けているとともに、いろいろな言葉や我が国の言語文化に触れたり気付いたりしている。	「聞くこと・話すこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、言葉が表す事柄を想起したり受け止めたりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合い、自分の思いをもっている。	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いをもったりしながら、言葉がもつよさを感じようとしているとともに、読み聞かせに親しみ、言葉でのやり取りを聞いたり伝えたりしようとしている。

参考：学習評価参考資料

３　小学部国語科における「内容のまとまり」

各段階とも、「⑵ 内容」は、〔知識及び技能〕と〔思考力、判断力、表現力等〕の２つの内容のまとまりで示されている。これらのまとまりは、更に以下のように分けられている。

〔知識及び技能〕
(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項
(2) 情報の扱い方に関する事項（小学部３段階のみ）
(3) 我が国の言語文化に関する事項

〔思考力、判断力、表現力等〕
A　聞くこと・話すこと
B　書くこと
C　読むこと

〔２〕　「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する際の基本的な手順

国語科においては、特別支援学校学習指導要領の「２　内容」の記載は、そのまま学習指導の目標となりうるものです。育成を目指す資質・能力（指導事項）の文末を、「～すること」から「～している」と変更することで、「内容のまとまりごとの評価規準」となります。

国語科では、「内容のまとまりごとの評価規準」を単元の評価規準とすることができます。

1　各教科における「内容のまとまり」と「評価の観点」との関係を確認する。

内容のまとまり	〔知識及び技能〕 (1)　言葉の特徴や使い方に関する事項 (2)　情報の扱い方に関する事項（3段階のみ） (3)　我が国の言語文化に関する事項	〔思考力、判断力、表現力等〕 A話すこと・聞くこと B書くこと C読むこと	該当する指導事項は示されていない （各段階の目標ウを参考にする）
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

※〔知識及び技能〕は「知識・技能」、〔思考力、判断力、表現力等〕は「思考・判断・表現」と対応しています。

2　以下の【観点ごとのポイント】を踏まえ，「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する。

各段階に示された指導事項を身に付けることができるよう指導することを基本とする。

○**「知識・技能」のポイント**

・基本的に、当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する〔知識及び技能〕の指導事項について、その文末を「～している。」として、「知識・技能」の評価規準を作成する。なお、育成したい資質・能力に照らして、指導事項の一部を用いて評価規準を作成することもある。

○**「思考・判断・表現」のポイント**

・基本的に、当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する〔思考力、判断力、表現力等〕の指導事項について、その文末を「～している。」として、「思考・判断・表現」の評価規準を作成する。なお、育成したい資質・能力に照らして、指導事項の一部を用いて評価規準を作成することもある。

・評価規準の冒頭には、当該単元で指導する一領域を「（領域名を入れる）において、」と明記する。

○**「主体的に学習に取り組む態度」のポイント**

・①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と、②①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面の双方を適切に評価できる評価規準を作成する。文末は「～しようとしている。」とする。「段階別の評価の観点の趣旨」においては、主として、①に関しては「言葉を通じて積極的に人と関わったり」、②に関しては「思いをもったりしながら」、「思いや考えをもったりしながら（３段階）」が対応する。①、②を踏まえ、当該単元で育成する資質・能力と言語活動に応じて文言を作成する。

〔３〕　国語科における指導と評価の一体化を目指して

1　指導と評価のポイント

国語科では、年間指導計画を基に、当該単元で取り上げて指導する指導事項等から、身に付けさせたい力を明確にします。そして、その指導事項等を指導するのに**最適な言語活動を設定**し、単元の目標を確定します。その上で、単元の評価規準を設定し、評価の時期や場面、方法を精選し、単元のどの段階でどの評価規準に基づいて評価するかを決めていくことが大切です。

2　指導と評価の一連の流れ

２段階の事例を通して、指導と評価の一連の流れについて説明します。

【事例２】小学部第３学年　国語科　２段階

1　単元名　「なかまを　あつめよう」　（こくご☆☆　Ｐ52～Ｐ57　あつめてみよう）

2　内容のまとまり（２段階）　※　学習評価参考資料　P30 参照

【知識及び技能】	（１）ア　言葉の特徴や使い方
【思考力、判断力、表現力等】	Ａ　聞くこと・話すこと

3　単元の目標

（1）身近な人との会話を通して、物の名前や動作など、いろいろな言葉の種類に触れる。
〔知識及び技能〕　ア　（ウ）

（2）体験したことなどについて、伝えたいことを考えることができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕　Ａ　ウ

（3）言葉を通じて積極的に人に関わったり、思いをもったりしながら、教師や友達との言葉でのやり取りを聞いたり、伝えたりしようとする。
〔学びに向かう力、人間性等〕

4　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
身近な人との会話を通して、物の名前や動作など、いろいろな言葉の種類に触れている。	「聞くこと・話すこと」において、体験したことなどについて、伝えたいことを考えている。	言葉を通じて積極的に人に関わったり、思いをもったりしながら、教師や友達との言葉でのやり取りを聞いたり、伝えたりしようとしている。

5　児童の実態等

児童	児童の実態	重点とする指導事項	手だて
A	・明確な発語はないが、身振りや発声を組み合わせて意思を表示する。身近な言葉を理解し、指示に応えることができる。 ・平仮名で書かれた自分の名前を読むことができる。	・身振りや発声を用いて相手に伝えたいことを表す。 ・言葉の理解を深め、簡単な単語を聞いて物の名前や動作に結び付ける。	・やりたい気持ちが分かるように、指差し等で表すように促す。 ・児童の気持ちを、教師が言葉で代わりに伝えることで、気持ちを表す言葉に触れることができるようにする。 ・具体物や写真、映像などを多用することで思い浮かべたり意思表示したりしやすくする。
B	・人との関わりを好み、不明瞭だが単語や二語で構成される文で伝えようとする。身近な言葉を理解し、指示に応えることができる。 ・平仮名の清音がほぼ読めるようになり、濁音や拗音に興味がでてきている。	・二語で構成される文で相手に思いや考えを伝える。 ・様々な平仮名を読んで物の名前や動作に結び付ける。	・教師の手本をまねることから始め、徐々に手本がなくても思いや考えを伝えられるようにする。 ・集めたものと結び付け言葉を平仮名で表したり、平仮名を読んで物を集めたりする活動を取り入れる。
（略）			

6　単元の流れ（８時間扱い）

時	学習活動	指導上の留意点	評価の観点・評価方法等
第一次 1 ～ 4	楽しかった遠足の経験を思い出し、遠足で使うものとその名前を思い浮かべたり、思い浮かべたものを絵や実物などと一致させたりすることを通して、いろいろな言葉を扱えるようにする。	・体験したことを思い出しイメージを膨らませるために、スライドや実物を用意する。 ・児童から出てきた表現を、絵やイラストに表し、文字を添えた「気持ちカード」などにも変化させていく。 ・名称を明瞭に言えない場合には、手拍子で音の数を示すなど、手がかりを示しながら模倣ができるようにする。 ・イラストに平仮名を添えたカード、語頭の文字だけ添えたカード、平仮名だけのカードなどを用意し、段階的に平仮名を読もうとする機会を作る。	**〔知識・技能〕** ・具体物の名称の使用／自発語、模倣する言葉等の観察 **〔思考・判断・表現〕** ・仲間分け／伝えたいことを考え表現する様子等の観察 **〔主体的に学習に取り組む態度〕** ・伝えよう／言葉を使おうとする態度の観察
第二次 5 ～ 8	海水浴や誕生会等のパーティの経験を思い出し、それぞれの場面で使うものとその名前を思い浮かべたり、思い浮かべたものを絵や実物などと一致させたりすることを通して、いろいろな言葉を扱えるようにする。	・海水浴や誕生会のイメージを膨らませるために、スライドや実物を用意する。 ・物の名称を教師が読み上げたり、タブレット端末で示したりしながら、児童に発声を促していく。 ・前次までに作った「気持ちカード」を利用したり、新しい「気持ちカード」を作成したりして児童の表出を更に促していく。 ・児童が名称を言えるように音声の手掛かりを段階的に示す。 ・平仮名をすすんで読めるように、イラストと平仮名を組み合わせたカードを用意する。	**〔知識・技能〕** ・具体物の名称の使用／自発語、模倣する言葉等の観察 **〔思考・判断・表現〕** ・仲間分け／伝えたいことを考え表現する様子等の観察 **〔主体的に学習に取り組む態度〕** ※　前次の方法に加え、学校生活の中で経験を伝えようとしたり、平仮名を読もうとしたりする様子が見られるかを観察

7　評価の実際

（１）「知識・技能」の評価

・複数の物の中から「遠足で使うものはどれですか？」と聞くと「水筒」や「リュック」を選んだ。実物でも、絵カードでも、ほぼ確実に選べるようになった。

・発話は当初不明瞭でしたが、教師が手拍子と共に「リュック（2 拍)」、「水筒（4 拍)」とカードを読み上げると、同じ拍数で声を出し模倣するようになった。

（２）「思考・判断・表現」の評価

・「どうやって使うのですか？」の質問に対して、実物を扱いながら「水を飲む・水筒をリュックに入れる・リュックを背負って歩く」などの動作を交えながら伝えていた。

・動画や写真を手掛かりに遠足を振り返る活動では、キリンの写真を見ると体がとても大きかったことや首が長くてびっくりしたことなど、見たことや体験したことを思い浮かべて身振りや発声により友達や教師に伝えていた。

（３）主体的に学習に取り組む態度

・絵カードの名称を思い出せず、自ら発声することが難しい場面では、教師が絵カードを読み上げる様子をよく見て名称を思い出そうとしていた。

・選び取った絵カードの名称について、身振りを交えながら自ら発声し、教師や友達に伝わったことが分かると更にすすんでもう１つの絵カードを選び取り、周囲に名称を伝えようとしていた。

8　観点別学習状況の評価の総括

	知識･技能	思考･判断･表現	主体的に学習に取り組む態度
生徒A	「遠足で使うもの」を理解し、実物でも絵カードでも正しく選び取りました。声を出し、言葉を模倣するようになりました。	活動を振り返り、自分が体験したことや気付いたことを思い浮かべ、身振りや発声により友達や教師に伝えていました。	教師が絵カードを読み上げる様子をよく見て名称を思い出し、自ら発声して伝えようとしていました。周囲に伝わったことが分かると、更に伝えようと活発に活動していました。

小学部　算 数

〔１〕　算数科における評価について

１　小学部　算数科の「目標」

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・ 能力を次のとおり育成することを目指す。

⑴　数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などに気付き理解するとともに、日常の事象を数量や図形に注目して処理する技能を身に付けるようにする。

⑵　日常の事象の中から数量や図形を直感的に捉える力、基礎的・基本的な数 量や図形の性質などに気付き感じ取る力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり柔軟に表したりする力を養う。

⑶　数学的活動の楽しさに気付き、関心や興味をもち、学習したことを結び付けてよりよく問題を解決しようとする態度、算数で学んだことを学習や生活 に活用しようとする態度を養う。

特別支援学校学習指導要領には、この目標に基づき、１段階から３段階までの目標と内容が示されています。

２　小学部算数科の「評価の観点及びその趣旨」

算数科において育成を目指す資質・能力が身に付いている児童の姿です。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	・数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などに気付き理解している。 ・日常の事象を数量や図形に注目して処理する技能を身に付けている。	日常の事象の中から数量や図形を直感的に捉える力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などに気付き感じ取る力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり柔軟に表したりする力を身に付けている。	数学的活動の楽しさに気付き、関心や興味をもち、学習したことを結びつけてよりよく問題を解決しようとしたり、算数で学んだことを学習や生活に活用しようとしたりしている。

参考：【30 文科初第 1845 号　改善等通知　　別紙４　１－２　算数（１）＜小学部　算数＞

学習評価参考資料には、算数科の１段階から３段階までの「評価の観点及びその趣旨」が示されています。小学部２段階を例示します。

【小学部　２段階】

参考：学習評価参考資料

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	**A　数と計算** 10 までの数の概念や表し方について分かり、数についての感覚をもっているとともに、ものと数との関係に関心をもって関わることについての技能を身に付けている。	日常生活の事象について、ものの数に着目し、具体物や図などを用いながら数の数え方を考え、表現する力を身に付けている。	数量に関心をもち、算数で学んだことの楽しさやよさを感じながら興味をもって学ぼうとしている。
	B　図形 身の回りのものの形に着目し、集めたり、分類したりすることを通して、図形の違いが分かるようにするための技能を身に付けている。	身の回りのものの形に関心をもち、分類したり、集めたりして、形の性質に気付く力を身に付けている。	図形に関心をもち、算数で学んだことの楽しさやよさを感じながら興味をもって学ぼうとしている。
	C　測定 身の回りにある具体物の量の大きさに着目し、量の大きさの違いが分かっているとともに、二つの量の大きさを比べることについての技能を身に付けている。	量に着目し、二つの量を比べる方法が分かり、一方を基準にして他方と比べる力を身に付けている。	数量や図形に関心をもち、算数で学んだことの楽しさやよさを感じながら興味をもって学ぼうとしている。
	D　データの活用 身の回りのものや身近な出来事のつながりに関心をもち、それを簡単な絵や記号などを用いた表やグラフで表したり、読み取ったりする方法について の技能を身に付けている。	身の回りのものや身近な出来事のつながりなどの共通の要素に着目し、簡単な表やグラフで表現する力を身に付けている。	数量や図形に関心をもち、算数で学んだことの楽しさやよさを感じながら興味をもって学ぼうとしている。

3　小学部算数科における「内容のまとまり」

1 段階	2 段階	3 段階
A　数量の基礎 ア　具体物の有無に関すること イ　ものとものとを対応させること		
B　数と計算 ア　数えることの基礎	**A　数と計算** ア　１０までの数の数え方や表し方、構成	**A　数と計算** ア　100までの整数の表し方 イ　整数の加法及び減法
C　図形 ア　ものの類別や分類・整理	**B　図形** ア　ものの分類 イ　身の回りにあるものの形	**B　図形** ア　身の回りにあるものの形 イ　角の大きさ
D　測定 ア　身の回りにある具体物の大きさ	**C　測定** ア　二つの量の大きさ	**C　測定** ア　身の回りにあるものの単位と測定 イ　時刻や時間
	D　データの活用 ア　ものの分類 イ　同等と多少 ウ　○×を用いた表	**D　データの活用** ア　事象を簡単な絵や図、記号に置き換えること

〔２〕　「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する際の基本的な手順

特別支援学校学習指導要領には、「(2) 内容」において、「内容のまとまり」ごとに育成を目指す資質・能力が示されているため、「(2) 内容」の記載は、そのまま学習指導の目標となりうるものです。「(2) 内容」の記載事項の文末を、「～すること」から「している」と変換したもの等を「内容のまとまりごとの評価規準」と呼ぶこととされています。

ただし、「主体的に学習に取り組む態度」に関しては、「(2) 内容」に記載がないので、各段階の「(1) 目標」を参考にしつつ、「内容のまとまりごとの評価規準を作成する必要があります。

第２段階「C　測定」ア　二つの量の大きさ　を例にとってみていきましょう。

1　各教科における「内容のまとまり」と「評価の観点」との関係を確認する。

特別支援学校小学部学習指導要領　**算数　２段階「C　測定」**の内容

ア　身の回りにある具体物の量の大きさに注目し、**二つの量の大きさ**に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

（ア）次のような知識及び技能を身に付けること。
- ㋐　長さ、重さ、高さ及び広さなどの量の大きさが分かること。
- ㋑　二つの量の大きさについて、一方を基準にして相対的に比べること。
- ㋒　長い・短い、重い・軽い、高い・低い及び広い・狭いなどの用語が分かること。

（イ）次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- ㋐　長さ、重さ、高さ及び広さなどの量を、一方を基準にして比べることに関心をもったり、量の大きさを用語を用いて表現したりすること。

（下線）…知識及び技能に関する内容　　（波線）…思考力、判断力、表現力等に関する内容

➡　「学びに向かう力、人間性等」の内容は２段階の目標のウにまとめて示されています。

2　以下の【観点ごとのポイント】を踏まえ，「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する。

○「知識・技能」のポイント

・基本的に、当該内容のまとまりで育成を目指す資質・能力に該当する指導事項について、育成したい資質・能力に照らして、「知識及び技能」で示された内容をもとに、その文末を「～している」「～できる」として、評価規準を作成する。

○「思考・判断・表現」のポイント

・基本的に、当該内容のまとまりで育成を目指す資質・能力に該当する指導事項について、育成したい資質・能力に照らして、「思考力、判断力、表現力等」で示された内容をもとに、その文末を「～している」として、評価規準を作成する。

○「主体的に学習に取り組む態度」のポイント

・当該段階目標の各領域（Ａ～Ｄ）のウを基に、主体的に学習に取り組む態度の「観点の趣旨」を踏まえ、指導事項を加味して、その文末を「～している」として、評価規準を作成する。

〔３〕　算数科における指導と評価の一体化を目指して

1　指導と評価のポイント

算数科では、「知識・技能」については、特に「努力を要する」状況と考えられる児童が確実に習得できるように指導するとともに、個々の児童の指導の補完を行い、評価を行う機会を単元末に設定することが考えられます。「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」については、単元を通して働かせた数学的な見方・考え方が豊かになるという算数科の特性から、単元前半から後半にかけて評価を行う機会を設定することが考えられます。

2　指導と評価の一連の流れ

2 段階の事例を通して、指導と評価の一連の流れについて説明します。

【事例３】小学部第３学年　算数科　２段階

1　単元名　「くらべてみよう（ながい・みじかい）」　（さんすう☆☆(2)　Ｐ26～Ｐ27、P36～P37）

2　内容のまとまり　　※　学習評価参考資料　P39 参照

【２段階】　　Ｃ　測定　　ア　二つの量の大きさ

3　単元の目標

(1)　長さについて量の大きさが分かり、二つの量の大きさについて、一方を基準にして相対的に比べることができる。「長い・短い」の用語が分かる。

（ア）知識及び技能　㋐㋑㋒

(2)　長さの量を、一方を基準にして比べることに関心をもったり、量の大きさを、用語を用いて表現したりすることができる。

（イ）思考力、判断力、表現力等　㋐

(3)　二つの量の大きさについて関心をもち、算数で学んだことの楽しさやよさを感じながら興味をもって学ぶ。

〔学びに向かう力、人間性等〕

4　単元の評価規準

ア　知識・技能	イ　思考・判断・表現	ウ　主体的に学習に取り組む態度
①　長さの量の大きさが分かり、二つの量の大きさについて一方を基準にして相対的に比べている。 ②　「長い・短い」の用語が分かっている。	①　長さの量を、一方を基準にして比べることに関心をもったり、量の大きさを、用語を用いて表現したりしている。	①　二つの量の大きさについて関心をもち、算数で学んだことの楽しさやよさを感じながら興味をもって学ぼうとしている。

5　児童の実態等

児童	児童の実態	重点とする指導事項	手だて
A	・日常生活動作は自立している。 ・コミュニケーションは、指差しや単語で表現することが中心である。 ・一日の予定や活動に見通しがもてると、すすんで活動に参加できる。 ・10 までの数が分かっている。 ・「大きい」「小さい」が分かっている。	・二つの具体物の長さを比べることができる。 ・「長い」「短い」など、長さを表す用語を使って、自分で比較した長さの違いを表現する。	・身近にあるものを使い、見たり、操作したりしながら長さを比較できるようにする。 ・比較して得られた感覚を具体的な言葉につなげていくように促す。
B	・日常生活動作は、一部教師の支援が必要である。 ・コミュニケーションは指差し、発声で表現することが中心である。 ・５までの数が分かっている。 ・大きさの差がはっきりしているものの「大きい」「小さい」が分かる。	・身近にあるものを用いて長さの違いを体感し、違いに気付く。 ・二つの物の長さを比べ、一方を「長い」、もう一方を「短い」と表現する。	・身近にあるものを比較に用いる。 ・長さの差が大きいもので、直接比較をする。 ・発問は文字やイラストなどを使って提示し、本児が選択して回答できるようにする。
（略）			

6　単元の流れ（６時間扱い）

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
第一次 1 ～ 2	○長さの違う平均台を渡ったり、水やりのホースを使ったりして、「長い」「短い」を感覚的に捉え、横に大きく手を広げる動作や言葉で「長さ」を表現したりする。	・極端に長い物や長さの差が大きい具体物を選ぶ。「長い」「長くない」「すぐ終わる」など自分の言葉で表現できるよう発言を促す。 ・手を横に大きく広げて「長い」、両手の間隔を狭めて「短い」など動作とともに「長い」「短い」と言葉で伝え、感覚的に長さを感じる活動を通して差が実感できるようにする。	**〔知識・技能〕** ・長さの違いに気付き、「長い・短い」の言葉を使って表現する様子の観察 **〔思考・判断・表現〕** ・長さの属性に注目して、感じたことを表現している様子等の観察 **〔主体的に学習に取り組む態度〕** ・教師や友達の発言も取り入れ、表現を工夫しようとする態度の観察
第二次 3 ～ 6	○「鉛筆・色鉛筆・クレヨン」の三つの具体物のうち二つを比べて、一方を基準に、児童が判断して「長い・短い」の言葉で表現する。 ○身近な物の具体物やイラストを比べて、長さの違いを言葉で表現する。	・教材の選択にあたっては、長さの差が大きいものを選ぶ。 ・長さ以外の属性が同じ形、同じ色から学習を始め、慣れてきたら異なる形、異なる色などの長さ以外の属性が異なる素材を扱うようにする。 ・二つの量を相対的に比べ、「○○の方が○○より長い（短い）」等の言葉で表現するようにする。	**〔知識・技能〕** ・「こちらが長い（短い）」と相対的に比べることができるか観察 **〔思考・判断・表現〕** ・「○○のほうが○○より長い（短い）」と表現を思考したり工夫したりしている様子等の観察 **〔主体的に学習に取り組む態度〕** ・身近な物の長さに関心をもってすすんで表現しようとする態度の観察

7　評価の実際

（1）「知識・技能」の評価

・２本の鉛筆について、「こっちは長い・こっちは短い」と指さしながら言葉で答え、３本の鉛筆から二つを選ぶ場合でも、長さを比較して表現するようになった。
・鉛筆とクレヨンなど、異なるものの比較について、教師の「長い（短い）のはどれですか」の質問に正しく反応していました。実物でもイラストでも応答できた。

（2）「思考・判断・表現」の評価

・長さの違う平均台を歩いて渡る活動では、「長い（短い）方」「難しい」「簡単、すぐ終わる」などと表現していた。
・長さの異なる鉛筆同士の比較や異なるものの比較では、「こっちが長い」「これは長くない、短い」「これが一番長い」など表現を考えながら活動していた。

（3）主体的に学習に取り組む態度

・教師が「赤い鉛筆の方が、青い鉛筆より長いね」「クレヨンの方が、鉛筆より短いね」などと言葉掛けをしていくと、「○○の方が」と言っただけで文の続きを話すようになった。
・体操着の長ズボンと半ズボン、長袖と半袖、長靴と運動靴などの身近なものについて、「長い」、「短い」の言葉を使って表現し、着替えなどの場面でも表現することがあった。

8　観点別学習状況の評価の総括

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・二つのものの長さの違いを表す用語を使い、「こっちが長い（短い）と表現しました。 ・三つの中から二つを選ぶ場合も、一方を基準に長さを比較できました。	・異なる長さの具体物について、「こっちが長い」「これは長くない、短い」など、様々な言葉で長さの違いを表現していました。	・身近なものについて「長い・短い」の言葉を使って表現し、着替えのときに「長袖の方が長い」など、生活の中でも表そうとしていました。

小学部　音楽

〔１〕音楽科における評価について

１　小学部 音楽科の「目標」

表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活の中の音や音楽に興味や関心をもって関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 曲名や曲想と音楽のつくりについて気付くとともに、感じたことを音楽表現するために必要な技能を身に付けるようにする。
(2) 感じたことを表現することや、曲や演奏の楽しさを見いだしながら、音や音楽の楽しさを味わって聴くことができるようにする。
(3) 音や音楽に楽しく関わり、協働して音楽活動する楽しさを感じるとともに、身の回りの様々な音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う。

特別支援学校学習指導要領には、この目標に基づき、１段階から３段階までの目標と内容が示されています。

２　小学部 音楽科の「評価の観点及びその趣旨」

音楽科において育成を目指す資質・能力が身に付いている児童の姿です。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	・曲名や曲想と音楽のつくりについて気付いている。（※1） ・感じたことを音楽表現するために必要な技能を身に付け、歌ったり、演奏したり、音楽をつくったり、身体表現で表している。（※2）	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったことの関わりについて考え、どのように表すかについて思いをもったり、曲や演奏の楽しさなどを見いだし、音や音楽を味わって聴いたりしている。	音や音楽に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的･協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

参考：【30 文科初第 1845 号　改善等通知　別紙４　音楽（１）＜小学部 音楽＞】

※　「知識・技能」の観点の主旨は、知識の習得に関すること（※1）と技能の習得に関すること（※2）に分けて示している。これは、学習指導要領の指導事項を、知識に関する資質・能力（事項(ｲ)）と技能に関する資質・能力（事項(ｳ)）とに分けて示していること、技能に関する資質・能力を「Ａ表現」のみに示していることなどを踏まえたものである。また、「Ａ表現」の題材の指導に当たっては、「知識」と「技能」の評価場面や評価方法が異なることが考えられる。したがって、「Ａ表現」の題材では、評価規準の作成においても「知識」と「技能」とに分けて設定することを原則とする。なお、「Ｂ鑑賞」の題材では、※2 の趣旨に対応する評価規準は設定しない。

学習評価参考資料には、音楽科の１段階から３段階までの「評価の観点及びその趣旨」が示されています。小学部２段階を例示します。

【小学部 ２段階】

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	・曲名や曲想の簡単な音楽のつくりについて気付いている。 ・音楽表現を楽しむために必要な身体表現、器楽、歌唱、音楽づくりの技能を身に付け、歌ったり、演奏したり、音楽をつくったり、体を動かしたりしている。	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったことの関わりについて考え、どのように表すかについて工夫したり、表現することを通じて、音や音楽に興味をもって聴いたりしている。	音や音楽に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

参考：学習評価参考資料

3　小学部 音楽科における「内容のまとまり」

小学部 音楽科における内容のまとまりは、以下のとおりである。

〔1 段階〕
「Ａ表現」　ア　音楽遊び　及び〔共通事項〕(1)
「Ｂ鑑賞」　ア　音楽遊び　及び〔共通事項〕(1)

〔2 段階〕
「Ａ表現」　ア　歌唱　及び〔共通事項〕(1)
「Ａ表現」　イ　器楽　及び〔共通事項〕(1)
「Ａ表現」　ウ　音楽づくり　及び〔共通事項〕(1)
「Ａ表現」　エ　身体表現　及び〔共通事項〕(1)
「Ｂ鑑賞」　ア　鑑賞　及び〔共通事項〕(1)

〔3 段階〕
「Ａ表現」　ア　歌唱　及び〔共通事項〕(1)
「Ａ表現」　イ　器楽　及び〔共通事項〕(1)
「Ａ表現」　ウ　音楽づくり　及び〔共通事項〕(1)
「Ａ表現」　エ　身体表現　及び〔共通事項〕(1)
「Ｂ鑑賞」　ア　鑑賞　及び〔共通事項〕(1)

〔２〕「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する際の基本的な手順

特別支援学校学習指導要領に示された教科及び段階の目標を踏まえて、「評価の観点及びその趣旨」が作成されていることを理解します。
その上で、次の①及び②の手順を踏みます。

1　各教科における「内容のまとまり」と「評価の観点」との関係を確認する。

小学部音楽科の各段階の「(2)内容」において，関する内容は以下のとおりである。
（ア）＝「思考力、判断力、表現力等」
（イ）＝「知識」
（ウ）＝「技能」（「A 表現」領域のみ）

また、〔共通事項〕においては、以下のとおりである。
ア　＝「思考力、判断力、表現力等」に関する内容
イ　＝「知識及び技能」に関する内容

2　以下の【観点ごとのポイント】を踏まえ，「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する。

○**「知識・技能」のポイント**
・事項(ｲ)及び(ｳ)の文末を「～している」と変更して作成する。
・事項にある「次の㋐及び㋑」や「次の㋐から㋒まで」の部分は、㋐から㋒までの事項のうち，いずれかを選択して置き換え作成する。なお，技能に関しては「～するために必要な」の後に適宜「,」を挿入する。

○**「思考・判断・表現」のポイント**
・〔共通事項〕アの文末を「～考え,」と変更し、その後に扱う領域や分野の事項(ｱ)を組み合わせ，文末を「～している」と変更して作成する。

・事項(ｱ)では，前半部分に「知識や技能を得たり生かしたりしながら」と示しているが，この「得たり生かしたり」は，「知識及び技能」と「思考力，判断力，表現力等」とがどのような関係にあるかを明確にするために示している文言であり，内容のまとまりごとの評価規準としては設定しない。

○**「主体的に学習に取り組む態度」のポイント**

・当該段階の目標を基に、「評価の観点の趣旨」の内容を踏まえて作成する。「評価の観点の趣旨」の文頭部分「音や音楽に親しむことができるよう，」は，「主体的に学習に取り組む態度」における音楽科の学習の目指す方向性を示している文言であるため，内容のまとまりごとの評価規準としては設定しない。

・「評価の観点の趣旨」の「楽しみながら」の部分は，「主体的・協働的に」に係る言葉であり，単に活動を「楽しみながら」取り組んでいるかを評価するものではない。あくまで，主体的・協働的に取り組む際に「楽しみながら」取り組めるように指導を工夫する必要があることを示唆しているものである。

・「評価の観点の趣旨」の「表現及び鑑賞」の部分は，扱う領域や分野に応じて「歌唱」「器楽」「音楽づくり」「身体表現」「鑑賞」より選択して置き換える。なお，「学習活動」とは，その題材における「知識及び技能」の習得や「思考力，判断力，表現力等」の育成に係る学習活動全体を指している。

〔３〕音楽科における指導と評価の一体化を目指して

1　指導と評価のポイント

・音楽科では、知識及び技能に関する資質・能力については個々の独立性が高く、知識と技能の指導事項を個別に立てていることに対応し、知識と技能とに分けて評価します。
・その際、知識と技能の評価場面や評価方法は異なることが考えられます。
・また、〔共通事項〕のアが思考力，判断力，表現力等に関する資質・能力として位置付けられました。〔共通事項〕のアと、各領域や分野の事項アは一体的に捉えることが重要です。

2　指導と評価の一連の流れ

2 段階の事例を通して、指導と評価の一連の流れについて説明します。

【事例４】小学部　第３学年　音楽科　２段階

1　単元名　　あめの おとを ならしてみよう（音楽☆☆　Ｐ１１）

2　内容のまとまり（2 段階）　　※　学習評価参考資料　P46 参照

「Ａ表現」　イ　器楽　及び〔共通事項〕(1)

3　単元の目標

（1）鳴らし方によって楽器の音が変わることに気付くとともに、教師の範奏を見たり聴いたりしながら、音の出し方を模倣して演奏できるようになる。　〔知識及び技能〕

（2）自分で楽器をたたいたり振ったりして身近な楽器に親しみながら、意図的に音を出してみようという思いをもつ。　〔思考力、判断力、表現力等〕

（3）音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組む。　〔学びに向かう力、人間性等〕

4　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・楽器の音色の違いに気付いている。 ・思いに合った表現をするため必要な、範奏を聴き、模倣をして演奏する技能を身に付けている。	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じとったこととの関わりを考え、身近な打楽器などに親しみ音を出そうとする思いをもっている。	音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。

5　児童の実態等

児童	児童の実態	重点とする指導事項	手だて
A	・日常生活でよく使う簡単な言葉は理解しており、言葉掛けに応じて動くことができる。（立つ、座る、歩くなど） ・音や音楽が好きで、小さなピアノ付きの本を常に携帯し、耳にあてて聴いていることが多い。 ・教師や友達を意識するような場面はあるが、自分から関わりをもつことは少ない。	・日頃身近に接している音やその特徴に気付かせ、音に対する興味関心を高めていけるようにする。 ・音遊びや音を音楽にしていく活動を通して、教師や友達と一緒に音楽をつくる楽しさを感じ取ることができるようにする。	・学校生活の中にある音を録音・録画しておき、それを教材として使うことで、興味関心を引き寄せ高めていく。 ・本人の意欲や意思に添いながら、教師や友達の活動に注目するよう言葉を掛けたり、動作を一緒に行ったりする。
（略）			

6　単元の流れ（５時間扱い）

時	学習活動	指導上の留意点	評価の観点・評価方法等
第一次（1～2）	○一つの楽器を複数の鳴らし方で音を出す。 ○音の特徴を楽しみながら、身近な道具や打楽器を鳴らす。	・音の違いに興味・関心をもったり違いに気付いたりする過程を大切にする。合わせて、気付いた様子が見られたら即時フィードバックする。 ・教師が音の鳴らし方の見本を見せたり、一緒に鳴らして楽しんだりすることで、やってみようという気持ちを高めていく。	〔知識・技能〕 楽器の音色の違いに気付いているか。（観察） 〔思考・判断・表現〕 音の特徴に気付いているか。（観察） 〔主体的に学習に取り組む態度〕 教師の演奏に興味を示し、見たり聴いたりしているか。（観察）
第二次（3～5）	○様々な雨の映像を見たり、雨音を聴いたりする。 ○雨の音を表す楽器を選び、早さや強弱を変えながら音を鳴らす。 ○雨の曲に合わせて音を鳴らす。	・様々な雨の音・降り方があることを音源と映像を使って示し、雨のイメージをもちやすいようにする。 ・個々がもつイメージを尊重し、表現しようとする姿勢を評価する。 ・曲中で音を鳴らす箇所を決め、視覚的な提示と合図で示す。	〔知識・技能〕 雨の音をどのように表現しようとしているか。（実技） 〔思考・判断・表現〕 鳴らし方を変えながら、雨の音を表そうとしているか。（観察） 〔主体的に学習に取り組む態度〕 教師や友達と一緒に音楽活動しようとしているか。（観察）

7　評価の実際

（１）「知識・技能」の評価

・同じ楽器でも鳴らし方によって音が変わることに気付き、ツリーチャイムを左右それぞれの方向から手で触れて鳴らしたり、一本を優しく握ってそっと離したりして、様々な方法を試していた。

（２）「思考・判断・表現」の評価

・リズムを模倣したり、言葉を唱えたり、身の回りの音や自分の体を使って出せる音などから、気に入った音を見付けて表現していた。

（３）主体的に学習に取り組む態度

・曲に合わせて音を鳴らす場面では、鳴らすタイミングを覚え、すすんで皆の前に出て楽器を鳴らしていた。

8　観点別学習状況の評価の総括

	知識･技能	思考･判断･表現	主体的に学習に取り組む態度
児童A	同じ楽器でも、鳴らし方によって違う音色になることに気付き、手の動かし方や力を加減するなどして複数の方法で鳴らしていました。	身の回りの音や自分の体を使って出せる音に興味をもち、気に入った音を見つけて表現していました。	合図に合わせて楽器を鳴らせるようになり、自信をもって皆の前で鳴らしていました。

小学部　図画工作

〔１〕図画工作科における評価について

１　小学部　図画工作科の「目標」

表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1)形や色などの造形的な視点に気付き、表したいことに合わせて材料や用具を使い、表し方を工夫してつくることができるようにする。
(2)造形的なよさや美しさ、表したいことや表し方などについて考え、発想や構想をしたり、身の回りの作品などから自分の見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。
(3)つくりだす喜びを味わうとともに、完成を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培う。

特別支援学校学習指導要領には、この目標に基づき、１段階から３段階までの目標と内容が示されています。

２　小学部　図画工作科の「評価の観点及びその趣旨」

図画工作科において育成を目指す資質・能力が身に付いている児童の姿です。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	・形や色などの造形的な視点に気付いている。 ・表したいことに合わせて材料や用具を使い、表し方を工夫してつくっている。	形や色などを基に、自分のイメージをもちながら、造形的なよさや美しさ、表したいことや表し方などについて考えるとともに、発想や構想をしたり、身の回りの作品などから自分の見方や感じ方を広げたりしている。	つくりだす喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

参考：【30 文科初第 1845 号　改善等通知　　別紙４　１－２　図画工作・美術（１）＜小学部　図画工作＞】

学習評価参考資料には、図画工作科の１段階から３段階までの「評価の観点及びその趣旨」が示されています。小学部１段階を例示します。

【小学部　１段階】

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	・形や色などに気付いている。 ・材料や用具を使おうとしている。	形や色などを基に、自分のイメージをもちながら、表したいことを思い付いたり、作品を見たりしている。	つくりだすことの楽しさに気付き進んで表したり見たりする学習活動に取り組もうとしている。

参考：学習評価参考資料

３　小学部図画工作科における「内容のまとまり」

各段階とも、「⑵ 内容」は、〔知識及び技能〕と〔思考力、判断力、表現力等〕の２つの内容のまとまりで示されている。これらのまとまりは、更に以下のように分けられている。
〔１段階〕
表現……「A 表現」アの(ｱ)､(ｲ)〔共通事項〕アの(ｱ)､(ｲ)
鑑賞……「B 鑑賞」アの(ｱ)〔共通事項〕アの(ｱ)､(ｲ)
〔２段階〕
表現……「A 表現」アの(ｱ)､(ｲ)〔共通事項〕アの(ｱ)､(ｲ)
鑑賞……「B 鑑賞」アの(ｱ)〔共通事項〕アの(ｱ)､(ｲ)
〔３段階〕
表現……「A 表現」アの(ｱ)､(ｲ)〔共通事項〕アの(ｱ)､(ｲ)
鑑賞……「B 鑑賞」アの(ｱ)〔共通事項〕アの(ｱ)､(ｲ)

〔２〕　「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する際の基本的な手順

小学部１段階　「A 表現」アの(ｱ)､(ｲ)、〔共通事項〕の例

1　各教科における「内容のまとまり」と「評価の観点」との関係を確認する。

A 表現
ア　線を引く、絵をかくなどの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
（ｱ）材料などから、表したいことを思い付くこと。
（ｲ）身の回りの自然物などに触れながらかく、切る、ぬる、はるなどすること。
〔共通事項〕
ア　「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
（ｱ）自分が感じたことや行ったことを通して、形や色などについて気付くこと。
（ｲ）形や色などを基に、自分のイメージをもつこと。

（下線）　…知識に関する内容
（二重下線）…技能に関する内容
（波線）　…思考力、判断力、表現力等に関する内容

2　以下の【観点ごとのポイント】を踏まえ、「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する。

○「知識・技能」のポイント
「知識」について
・「知識」は、〔共通事項〕アの（ｱ）から作成する。
・文末は、学習状況を評価することを踏まえて、「～している」とする。
「技能」について
・「技能」は、「A 表現」アの（ｲ）から作成する。
・文末は、学習の状況を評価することを踏まえて「～している」とする。
○「思考・判断・表現」のポイント
・「思考・判断・表現」は、「A 表現」アの（ｱ）、〔共通事項〕アの（ｲ）から作成する。〔共通事項〕アの（ｲ）に続けて「A 表現」アの（ｱ）を示し、「自分のイメージをもつ。」を「自分のイメージをもちながら、」とする。
・文末は、学習の状況を評価することを踏まえて「～している」とする。
○「主体的に学習に取り組む態度」のポイント
・「主体的に学習に取り組む態度」は、当該段階の目標を基に「観点の趣旨」を踏まえて作成する。
・「進んで表したり見たりする学習活動」を「表す学習活動」とする。

〔３〕図画工作科における指導と評価の一体化を目指して

1　指導と評価のポイント

図画工作科では、表現及び鑑賞の活動を通して、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習の充実が求められます。その際、〔共通事項〕については、表現及び鑑賞の指導と併せて、十分な指導が行われるよう工夫する必要があります。例えば、一つの題材において、造形活動と鑑賞活動とが往還するような学習過程を設定することが考えられます。評価に当たっては、その過程において、評価時期や評価場面、評価方法等を工夫して評価することが大切です。

2　指導と評価の一連の流れ

小学部１段階の事例を通して、指導と評価の一連の流れについて説明します。

【事例５】小学部第１学年　図画工作科　１段階

1　単元名　　「ぬたくり版画」

2　内容のまとまり（１段階）　　※　学習評価参考資料　P56 参照

「A 表現」アの(ｲ)　　〔共通事項〕アの(ｱ)

3　単元の目標

（1）・形や色などに気付く。
　　・材料や用具を使おうとする。

〔知識及び技能〕

（2）・形や色などを基に、自分のイメージをもちながら、表したいことを思い付いたり、作品を見たりする。

〔思考力、判断力、表現力等〕

（3）・つくりだすことの楽しさに気付き進んで表したり見たりする学習活動に取り組もうとしている。

〔学びに向かう力、人間性等〕

4　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①形や色などに気付いている。 ②材料や用具を使おうとしている。	①形や色などを基に、自分のイメージをもちながら、表したいことを思い付いたり、作品を見たりしている。	①つくりだすことの楽しさに気付き進んで表したり見たりする学習活動に取り組もうとしている。

5　児童・生徒の実態等

児童	児童の実態	重点とする指導事項	手だて
A	・手元に目を向け造形することができる。絵の具や糊に触れることは苦手で、すぐに手を拭こうとする。 ・具体物を用いた作り方の手本や参考作品、友達の様子に注目することができる。	・絵の具の色や模様の変化に気付き、手指やスポンジを使って造形する。 ・手順表や映像を基に、自分のイメージをもって制作する。	・感触のよい素材を扱う。道具はタンポやスポンジなど、手指に近い操作で造形できるものを用いる。 ・写真や動画を使用し、制作のイメージをもちやすくする。
（略）			

6　単元の流れ（４時間扱い）

時	学習活動	指導上の留意点	評価の観点・評価方法等
第一次（1～2）	・写真や映像を通して、遠足で行く動物園の動物の姿や暮らしている場所について意識する。 ・トレーの中で２色のぬたくりをし、感触や色の変化を味わう。	・草原や水辺のイメージを膨らませるため、写真や映像を活用する。 ・絵の具にでんぷんのりを混ぜ、心地よい感触から素材への関心と表現を導く。 ・にごりにくい色を組み合わせ、色の変化や混ざり方への注目を高める。	**〔知識・技能〕** ・素材への気付きや、写し取る様子等の観察 **〔思考・判断・表現〕** ・絵の具の選択やトレーの中でぬたくる様子等の観察 **〔主体的に学習に取り組む態度〕** ・素材と関わる様子等の観察
第二次（2～4）	・動物園で見た動物の姿や暮らしを思い浮かべる。 ・新しい２色でぬたくりをし、感触や色の変化を感じて制作する。 ・手指で素材とかかわりながら、スポンジやタンポなど、道具を扱う経験をする。	・動物園で見た実際の写真を活用し、スライドにしてイメージを膨らませる。 ・指に近い感覚で扱えるスポンジやタンポを用意し、道具を使うことへの導入とする。 ・色の変化がわかりやすいように、あらかじめ白を混ぜる等、下地の色に映える絵の具を選定し、ドライブラシの技法で制作する。	**〔知識・技能〕** ・色と模様への気付きや、自分で手順を進めようとする様子等の観察 **〔思考・判断・表現〕** ・絵の具の選択やぬたくり、スタンピングの様子等の観察 **〔主体的に学習に取り組む態度〕** ・素材と関わる様子等の観察

7　評価の実際

（１）「知識・技能」の評価

・絵の具が混ざりあった色と模様の変化に気付き、同じ所を繰り返し両手でぐるぐると混ぜていた。その後、思い付いた様子で新しい色の絵の具を手に取り、更にぬたくりを続けていた。
・素材の流動性に気が付き、両手で感触を味わいながらかかわることを楽しんでいた。絵の具のチューブを目の前に提示すると、２色の中から、１色を手に取る等、意図的な選択も見られた。
・スポンジに絵の具をつけると、自ら画用紙へスタンピングするようになった。

（２）「思考・判断・表現」の評価

・手のひら全体で絵の具を混ぜていたところから、指でトレーの中を引っかいたり、絵の具を握りしめてはみ出すところをながめたり、それをトレーに垂らしたりして、素材とぞんぶんにかかわる中で思いのままに発想し、造形すること楽しんでいた。
・一通り好きなところへスタンピングした後、絵の具がついていないところに気付いて再び色を付けていた。満足した様子でスポンジを置き、作品を完成させた達成感と区切りが感じられた。

（３）主体的に学習に取り組む態度

・感触に抵抗感を示していたところから、少しずつ絵の具に触れられるようになり、第４時にはトレーの中でのびのびと絵の具を塗り広げていた。塗り足りないと感じると、もう一度自ら絵の具を手にのせようとし、絵の具がたまっている所に気付くとそのポイントをめがけて塗りのばしていた。

8　観点別学習状況の評価の総括

	知識･技能	思考･判断･表現	主体的に学習に取り組む態度
児童A	絵の具の流動性に気が付き、両手で感触を味わいながら造形しました。スポンジの使い方がわかり、すすんでスタンピングできるようになりました。	絵の具とかかわる中で、いろいろな手指の動きによる色と模様の変化を発想して造形しました。画用紙の全体を見て、色のついていない所へスタンピングすることができました。	絵の具へ触れることへの抵抗感が減り、自ら手に取ったり、トレーの中で塗り広げたりできるようになりました。片手に１色ずつ取り、指先で丁寧に混ぜました。

小学部　体育

〔１〕体育科における評価について

１　小学部　体育科の「目標」

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題に気付き、その解決に向けて学習課程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することを目指す。
(1) 遊びや基本的な運動の行い方及び身近な生活における健康について知るとともに，基本的な動きや健康な生活に必要な事柄を身に付けるようにする。
(2) 遊びや基本的な運動及び健康についての自分の課題に気付き，その解決に向けて自ら考え行動し，他者に伝える力を養う。
(3) 遊びや基本的な運動に親しむことや健康の保持増進と体力の向上を目指し，楽しく明るい生活を営む態度を養う。

特別支援学校学習指導要領には、この目標に基づき、１段階から３段階までの目標と内容が示されています。

２　小学部体育科の「評価の観点及びその趣旨」

体育科において育成を目指す資質・能力が身に付いている児童の姿です。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	遊びや基本的な運動の行い方について知っているとともに、基本的な動きを身に付けている。また、身近な生活における健康について知っているとともに、健康な生活に必要な事柄を身に付けている。	遊びや基本的な運動についての自分の課題に気付き、その解決に向けて自ら行動し、考えているとともに、それらを他者に伝えている。また、健康についての自分の課題に気付き、その解決に向けて自ら考えているとともに、それらを他者に伝えている。	遊びや基本的な運動に楽しく取り組もうとしている。また、健康に必要な事柄に取り組もうとしている。

参考：【30 文科初第 1845 号　改善等通知　　別紙４　１－２　体育・保健体育（１）＜小学部体育＞】

学習評価参考資料には、体育科の１段階から３段階までの「評価の観点及びその趣旨」が示されています。小学部３段階を例示します。

【小学部　３段階】

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	・基本的な運動の楽しさを感じ、その行い方を知り、基本的な動きを身に付けている。 ・健康や体の変化について知り、健康な生活をしている。	・基本的な運動の楽しみ方について工夫しているとともに、考えたことや気付いたことなどを他者に伝えている。 ・健康な生活の仕方について工夫しているとともに、考えたことや気付いたことなどを他者に伝えている。	・きまりを守り、自分方友達と仲よく楽しく運動をしようとしたり、場や用具の安全に気を付けたりしている。 ・きまりを守り、自分から健康に必要な事柄をしようとしている。

参考：学習評価参考資料

３　小学部体育科における「内容のまとまり」

小学部体育科における内容のまとまりは、以下のようになっている。
〔１段階〕
A　体つくり運動遊び　　B　器械・器具を使っての遊び　　C　走・跳の運動遊び
D　水遊び　　E　ボール遊び　　F　表現遊び　　G　保健
〔２段階　３段階〕
A　体つくり運動　　B　器械・器具を使っての運動　　C　走・跳の運動
D　水の中での運動　　E　ボールを使った運動やゲーム　　F　表現運動　　G　保健

体育科においては、特別支援学校学習指導要領の「２　内容」の記載は、そのまま学習指導の目標となりうるものです。育成を目指す資質・能力（指導事項）の文末を、「～すること」から「～している」と変更することで、「内容のまとまりごとの評価規準」となります。

体育科では、「内容のまとまりごとの評価規準」を単元の評価規準とすることができます。ここでは、小学部３段階、「Ｅ　ボールを使った運動やゲーム」を例示します。

〔２〕　「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する際の基本的な手順

１　各教科における「内容のまとまり」と「評価の観点」との関係を確認する。

ボールを使った運動やゲームについて、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　ボールを使った基本的な運動やゲームの楽しさを感じ、その行い方を知り、基本的な動きを身に付けること。【知識及び技能に関する内容】

イ　ボールを使った基本的な運動やゲームの楽しみ方を工夫するとともに考えたことや気付いたことなどを他者に伝えること。【思考力、判断力、表現力等に関する内容】

ウ　きまりを守り、自分から友達と仲よく楽しくボールを使った基本的な運動やゲームをしたり、場や用具の安全に気を付けたりしようとすること。【学びに向かう力、人間性等に関する内容】

２　以下の【観点ごとのポイント】を踏まえ、「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する。

○「知識・技能」のポイント

・「知識」については、学習指導要領の内容の「ア ボールを使った基本的な運動やゲームの楽しさを感じ、その行い方を知り、基本的な動きを身に付けること。」の「その行い方を知り」と示している部分が該当し、評価規準は,「～の行い方を知っている。」として作成することができる。

・「技能」については、「基本的な動きを身に付ける」と示している部分が該当し、評価規準は、「～の基本的な動きを身に付けている。」として作成することができる。

○「思考・判断・表現」のポイント

・「思考・判断」については、学習指導要領の内容の「イ ボールを使った基本的な運動やゲームの楽しみ方を工夫するとともに考えたことや気付いたことなどを他者に伝えること。」の「ボールを使った基本的な運動やゲームの楽しみ方を工夫する」と示している部分が該当し、評価規準は、「ボールを使った基本的な運動やゲームの楽しみ方を工夫している。」として作成することができる。

・「表現」については、「考えたことや気付いたことなどを他者に伝える」と示している部分が該当し、評価規準は、「考えたことや気付いたことなどを他者に伝えている」として作成することができる。

○「主体的に学習に取り組む態度」のポイント

・「主体的に学習に取り組む態度」については、学習指導要領の内容の「ウ きまりを守り、自分から友達と仲よく楽しくボールを使った基本的な運動やゲームをしたり、場や用具の安全に気を付けたりしようとすること。」のすべてが該当し、評価規準は、「きまりを守り、自分から友達と仲よく楽しくボールを使った基本的な運動やゲームをしようとしたり、場や用具の安全に気を付けたりしている。」として作成することができる。

〔３〕　体育科における指導と評価の一体化を目指して

１　指導と評価のポイント

体育科では、年間指導計画を基に、当該単元で取り上げて指導する指導事項等から、身に付けさせたい力を明確にします。そして、その指導事項等を指導するのに最適な学習課程を設定し、単元の目標を確定します。その上で、単元の評価規準を設定し、評価の時期や場面、方法を精選し、単元のどの段階でどの評価規準に基づいて評価するかを決めていくことが大切です。

２　指導と評価の一連の流れ

３段階の事例を通して、指導と評価の一連の流れについて説明します。

【事例６】小学部第６学年　体育科　３段階

1　単元名　　ボール運動（ワンベースキックベースボール）

2　内容のまとまり（３段階）　　※　学習評価参考資料　P64 参照

E　ボールを使った運動やゲーム

3　単元の目標

（1）ボールを使った基本的な運動やゲームの楽しさを感じ、その行い方を知り、基本的な動きを身に付けることができる。

〔知識及び技能〕

（2）ボールを使った基本的な運動やゲームの楽しみ方を工夫するとともに、考えたことや気付いたことなどを他者に伝えることができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕

（3）きまりを守り、自分から友達と仲よく楽しくボールを使った基本的な運動やゲームをしたり、場や用具の安全に気を付けたりしようとする。

〔学びに向かう力、人間性等〕

4　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①ボールを使った基本的な運動やゲームの楽しさを感じ、その行い方を知っている。 ②ボールを使った基本的な動きを身に付けている。	①ボールを使った基本的な運動やゲームの楽しみ方を工夫している。 ②考えたことや気付いたことなどを他者に伝えている。	①きまりを守り、自分から友達と仲よく楽しくボールを使った基本的な運動やゲームをしようとしたり、場や用具の安全に気を付けたりしている

5　児童・生徒の実態等

児童	児童の実態	重点とする指導事項	手だて
A	・ボールを蹴ること・投げることに関しては、問題なく行えるが、力加減を調整することが難しく、どのような場面でも全力ボールを扱ってしまう傾向にある。 ・運動面に対して苦手意識があり、出来ないことがあると、自信をなくしてしまう。	・ボールを扱う際に、意図して強弱をつけることができる。 ・他者と協力して、準備や片付けを進めることができる。	・ボールを投げたり蹴ったりする前に、相手との距離や、どのくらいの強さで扱うかなどをたずね、力加減を自分で考えるように促す。 ・準備や片付けの際、始めは予めペアを決めて、協力して取り組む環境を設定し、ペアで取り組むことに慣れてきたら、児童同士でペアを決めるよう促す。また、友達に対して、自分から声をかけられた際には大いに称賛する。
（略）			

6　単元の流れ（１２時間扱い）

時	学習活動	指導上の留意点	評価の観点・評価方法等
第一次（6時間）	対面パス ○投げ（ｱﾝﾀﾞｰ／ｵｰﾊﾞｰ） ○キック（ｲﾝｻｲﾄﾞ／ｲﾝｽﾃｯﾌﾟ） 的当て ○投げ（ｵｰﾊﾞｰｽﾛｰ） ○キック（ｲﾝｽﾃｯﾌﾟｷｯｸ）	・投げ方の手本を示すとともに、スモールステップを組んで、正しい投げ方を伝える。 ・蹴り方の手本を示すとともに、スモールステップを組んで、正しい蹴り方を伝える。	**〔知識・技能〕** **①②（行動観察）** **〔思考・判断・表現〕** **①（行動観察）** **〔主体的に学習に取り組む態度〕** **①②（行動観察）**
第二次（6時間）	○チーム練習 ・守備練習 ・攻撃練習 ○ゲーム	・チームは、児童の実態や児童同士の関係などを考慮し、教員が決める。（４チーム） ・キャプテンの選出や、ゲーム前の練習内容など、児童同士で考える環境を設定する。 ・ボールを蹴る方向や、力加減、守備位置など、児童によって必要な言葉かけをし、自分で考える機会を設定し、徐々に言葉かけを減らしていく。	**〔知識・技能〕** **①②（行動観察）** **〔思考・判断・表現〕** **①②（行動観察）** **〔主体的に学習に取り組む態度〕** **①②（行動観察）**

7　評価の実際

（１）「知識・技能」の評価

・投げる動きにおいて、単元開始時は意図した方向に投げる事ができず、力加減も自身で調節できていなかったが、守備における一塁手への送球は、とりやすい位置に優しく投げる事が増えてきた。

・蹴る動きには、単元開始時にはねらい、力加減とも定まっていなかったが、守備の位置を見て、ねらったところに強く蹴ることができた。

（２）「思考・判断・表現」の評価

・投げる動き、蹴る動きにともに、フォームのみ意識していたが、徐々に、捕る相手のことを考え、捕りやすい位置に優しく投げる事が増えてきた。また、蹴る動きは、守備位置を見てから、蹴る方向について考えることができるようになった。

（３）主体的に学習に取り組む態度

・教員の指示を受けて、必要な用具の準備や片付けに取り組んでいたが、自分から積極的に取り組むようになってきた。また、自分から友達に声を掛けて、協力して取り組むことがあった。

8　観点別学習状況の評価の総括

	知識･技能	思考･判断･表現	主体的に学習に取り組む態度
児童A	・投げる動きにおいて、アンダースローでは、力加減、方向ともに、意図した動きで表出することが増えてきました。 ・蹴る動きにおいて、力加減、方向ともに、意図した動きで表出することができました。	・ボールを扱う際、意識的に力加減や方向を変えようと考えていました。	・教員からの指示を受けなくても、自分から他者を誘って、準備や片付けに取り組むことがありました。

中学部　国語

〔１〕国語科における評価について

１　中学部　国語科の「目標」

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で理解し表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

（１）日常生活や社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
（２）日常生活や社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
（３）言葉がもつよさに気付くとともに、言語感覚を養い、国語を大切にしてその能力の向上を図る態度を養う。

特別支援学校学習指導要領には、この目標に基づき、１段階から２段階までの目標と内容が示されています。

２　中学部　国語科の「評価の観点及びその趣旨」

国語科において育成を目指す資質・能力が身に付いている生徒の姿です。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	日常生活や社会生活に必要な国語について、その特質を理解し、適切に使っている。	「聞くこと・話すこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、日常生活や社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめている。	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えをまとめたりしながら、言葉がもつよさに気付こうとしているとともに、言語感覚を養い、言葉をよく使おうとしている。

参考：【30 文科初第 1845 号　改善等通知　　別紙４　１－２　国語＜中学部 国語＞】

学習評価参考資料には、国語科の１段階から２段階までの「評価の観点及びその趣旨」が示されています。中学部１段階を例示します。

【中学部　１段階】

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	日常生活や社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりしている。	「聞くこと・話すこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活や社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもっている。	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えをまとめたりしながら、言葉がもつ良さに気付こうとしているとともに、図書に親しみ、国語で考えたり伝え合ったりしようとしている。

参考：学習評価参考資料

３　中学部国語科における「内容のまとまり」

各段階とも、「⑵ 内容」は、〔知識及び技能〕と〔思考力、判断力、表現力等〕の２つの内容のまとまりで示されている。これらのまとまりは、更に以下のように分けられている。

〔知識及び技能〕
（１）言葉の特徴や使い方に関する事項
（２）情報の扱い方に関する事項
（３）我が国の言語文化に関する事項

〔思考力、判断力、表現力等〕
Ａ　聞くこと・話すこと
Ｂ　書くこと
Ｃ　読むこと

〔２〕　「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する際の基本的な手順

国語科においては、特別支援学校学習指導要領「２　内容」の記載は、そのまま学習指導の目標となりうるものです。育成を目指す資質・能力（指導事項）の文末を、「～すること」から「～している」と変更することで、「内容のまとまりごとの評価規準」となります。

国語科では、「内容のまとまりごとの評価規準」を単元の評価規準とすることができます。

1　各教科における「内容のまとまり」と「評価の観点」との関係を確認する。

内容のまとまり	〔知識及び技能〕 （１）言葉の特徴や使い方に関する事項 （２）情報の扱い方に関する事項 （３）我が国の言語文化に関する事項	〔思考力、判断力、表現力等〕 A　聞くこと・話すこと B　書くこと C　読むこと	該当する指導事項は示されていない（目標ウを参考にする）
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

※　〔知識及び技能〕は「知識・技能」、〔思考力・判断力、表現力等〕は、「思考・判断・表現」と対応しています。

2　以下の【観点ごとのポイント】を踏まえ，「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する。

各段階に示された指導内容を身に付けることができるよう指導することを基本とする。

○「知識・技能」のポイント

・基本的に、当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する〔知識及び技能〕の指導事項について、その文末を「～している。」として、「知識・技能」の評価規準を作成する。なお、育成したい資質・能力に照らして、指導事項の一部を用いて評価規準を作成することもある。

○「思考・判断・表現」のポイント

・基本的に、当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する〔思考力、判断力、表現力等〕の指導事項について、その文末を「～している。」として、「思考・判断・表現」の評価規準を作成する。なお、育成したい資質・能力に照らして、指導事項の一部を用いて評価規準を作成することもある。

・評価規準の冒頭には、当該単元で指導する一領域を「（領域名を入れる）において、」と明記する。

○「主体的に学習に取り組む態度」のポイント

・①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と、②①の粘り強い取組を行うなかで、自らの学習を調整しようとする側面の双方を適切に評価できる評価規準を作成する。文末は「～しようとしている。」とする。「段階別の評価の観点の趣旨」においては、主として、①に関しては「言葉を通じて積極的に人と関わったり」、②に関しては「思いをもったりしながら」、「思いや考えをもったりしながら」が対応する。①、②を踏まえ、当該単元で育成する資質・能力を言語活動に応じて文言を作成する。

〔３〕　国語科における指導と評価の一体化を目指して

1　指導と評価のポイント

国語科では、年間指導計画を基に、当該単元で取り上げて指導する指導事項等から、身に付けさせたい力を明確にします。そして、その指導事項等を指導するのに**最適な言語活動を設定**し、単元の目標を確定します。その上で、単元の評価規準を設定し、評価の時期や場面、方法を精選し、単元のどの段階でどの評価規準に基づいて評価するかを決めていくことが大切です。

2　指導と評価の一連の流れ

中学部１段階の事例を通して、指導と評価の一連の流れについて説明します。

【事例７】中学部第１学年　国語科　１段階

1　単元名　　**ねぼうしたねこ（国語☆☆☆☆　P58～P63）**

2　内容のまとまり（１段階）　　※　学習評価参考資料　P74 参照

【知識及び技能】	イ　情報の扱い方（ア）
【思考力、判断力、表現力等】	C　読むこと

3　単元の目標

（1）事柄の順序など、情報と情報との関係について理解する。　〔知識及び技能　イの（ア）〕

（2）簡単な文や文章を読み、情景や場面の様子、登場人物の心情などを想像する。
〔思考力、判断力、表現力等　C の（ア）〕

（3）言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えをまとめたりしながら、国語で伝えあおうとする。　〔学びに向かう力、人間性等〕

4　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
事柄の順番など、情報と情報との関係について理解している。	「読むこと」においては、簡単な文章を読み、情景や場面の様子、登場人物の心情などを想像している。	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えをまとめたりしながら、国語で伝えあおうとしている。

5　生徒の実態等

生徒	生徒の実態	重点とする指導事項	手だて
A	・発音はやや不明瞭であるが、考えていることを他者に伝えたい気持ちを強くもっている。 ・平仮名を読むことができる。文章の音読では、助詞の脱落や言葉の区切りの誤用が見られる。 ・平仮名の書字ができるが、濁音の脱落や特殊音節の誤りが見られる。	・十二支に選ばれた動物を知る。 ・それぞれの動物の気持ちを想像し、言葉で表現する。 ・短い文章を正確に音読する。	・12 の枠に、登場する動物を順に書くことで、選ばれた動物とそうでない動物を分かりやすくする。 ・気持ちを表した絵カードを提示し、選択できるようにする。 ・始めに教員が音読をし、正しい読み方を示す。短い文章の音読を指名し、自信をもって読めるようにする。
（略）			

6　単元の流れ（５時間扱い）

時	学習活動	指導上の留意点	評価の観点・評価方法等
第一次（二時間）	1．干支について知っていることを発表する。 2．登場人物を知る。 3．物語の導入部の概要を理解する。	1．生徒の発言を生かし、自由に発表ができるようにする。 3．①いつ②どこで③だれが④何を決めようとしたのかの項目に分け、情報を整理できるようにする。	**〔知識・技能〕** ・①いつ②どこで③だれが④何を　についての理解 **〔思考・判断・表現〕** ・登場人物の理解 **〔主体的に学習に取り組む態度〕** ・自分の考えを伝えようとする態度の観察
第二次（二時間）	1．音読をする。 2．あいさつに来た順番を理解し、書き取る。 3．動物たちの気持ちを考える。 4．動物の気持ちを踏まえ、台詞を表現する。	2．平仮名の書字が難しい生徒には動物の絵カードを用意する。 3．気持ちカードを提示し、選択できるようにする。「その他」カードは自由記述とし、生徒の考えを引き出す。 4．自分の演じてみたい動物を選択する。身振りを付け、自由に演じて良い。	**〔知識・技能〕** ・動物の順番の理解 **〔思考・判断・表現〕** ・音読の様子 ・動物の気持ちの理解 ・動物の気持ちを表現する様子 **〔主体的に学習に取り組む態度〕** ・動物の気持ちを踏まえた発言の観察 ・台詞の表現の様子
第三次（二時間）	1．感想をまとめる。 2．発表をする。	1． （1）作文の素材として①楽しかった（印象に残った）ところ②その理由をプリントに書き出す。 （2）作文が難しい生徒には「私が楽しかったところは〇〇です。それは〇〇だからです。」という構文を提示し、すすんで取り組めるようにする。	**〔知識・技能〕** ・感想文の内容 **〔思考・判断・表現〕** ・感想文の表現 **〔主体的に学習に取り組む態度〕** ・発表の様子

7　評価の実際

（1）「知識・技能」の評価

・始めに①いつ②どこで③だれが④何をしたのかに着目して教員の音読を聞くよう促すことで、情報を整理しながら聞き取ることができた。
・一度ですべての項目を聞き取ることは困難でしたが、次に着目すべき項目を示すと、情報の取捨選択をしながら適切な情報を聞き取り、発表していた。
・動物の到着順を理解する課題では、平仮名で表記された動物のイラストの一覧を補助的に使用しながら、１から 12 番の枠に到着順に動物の名前を書くことができた。

（2）「思考・判断・表現」の評価

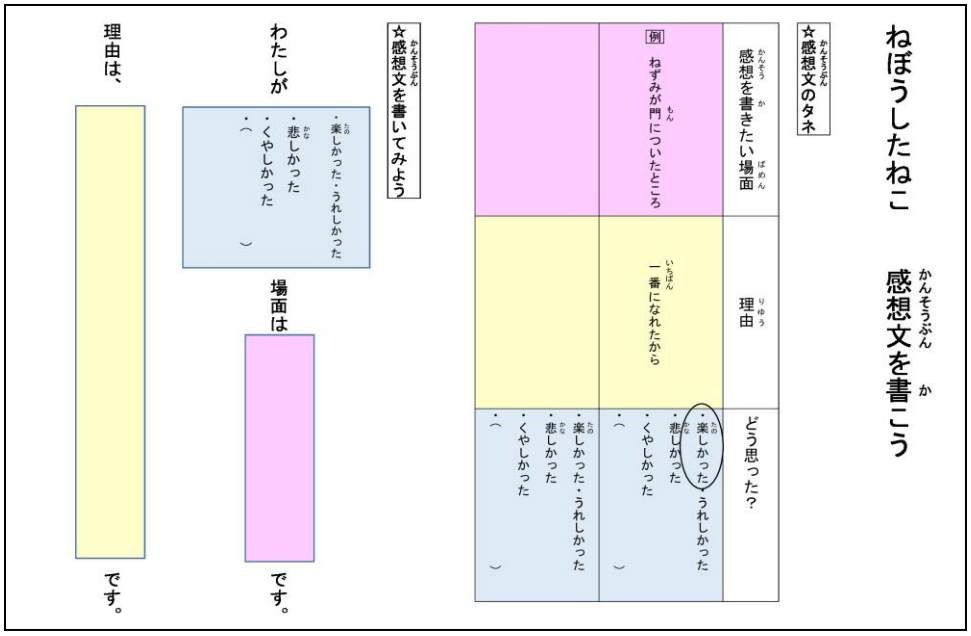
・ねずみに抜かされて一番になれなかった牛に着目していた。
・牛の気持ちを想像し、気持ちカードの「悔しい」を選ぶとともに、「残念」と自分の言葉でも表現をしていた。また、牛に対する自分の感想として「一番になれなくてかわいそう。」「ねずみはダメだよ。」という発言が見られた。

（３）主体的に学習に取り組む態度

・物語を聞き、知っている干支を発言する様子が見られました。友達や教員皆にそれぞれの干支があることが分かると、干支に関心をもち「先生は何年ですか？」と質問をしていた。

・自分の好きな動物の台詞を表現する活動では、猫を選びました。「ばんざい一番だ。今年は、ねこ年。村長だ。」という台詞に「やった～！」という台詞とガッツポーズを加え、猫の気持ちを工夫して表現していた。

・まとめの感想文では、予め文章の構成が示されたプリントに意欲的に記入し、積極的に感想を発表することができた。



８　観点別学習状況の評価の総括

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生徒A	物語の登場人物が分かり、話の展開を楽しみながら、音読ができました。平仮名で表記された動物のイラストを見ながら、十二支の順番を正しく理解できました。	一番になれなかった牛の気持ちを想像し、「気持ちカード」の中から適切な気持ちを選択すると共に、「残念」と自分の言葉でも表現ができました。	物語を通して干支に関心をもち、自ら友達や教員の干支を確認していました。気持ちを表現する課題では、「嬉しい」気持ちから「やった～」という台詞を想起し、ガッツポーズを加えて工夫して表現することができました。

中学部　社 会

〔１〕社会科における評価について

１　中学部　社会科の「目標」

社会的な見方・考え方を働かせ、社会的事象についても関心をもち、具体的に考えたり関連付けたりする活動を通して、自立し生活を豊かにするとともに、平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

（１）地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや役割、地域や我が国の歴史や伝統と文化及び外国の様子について、具体的な活動や体験を通して、理解すると共に、経験したことと関連付けて、調べまとめる技能を身に付けるようにする。

（２）社会的事象について、自分の生活と結び付けて具体的に考え、社会との関わりの中で、選択・判断したことを適切に表現する力を養う。

（３）社会に主体的に関わろうとする態度を養い、地域社会の一員として人々と共に生きていくことの大切さについて自覚を養う。

特別支援学校学習指導要領には、この目標に基づき、１段階から２段階までの目標と内容が示されています。

２　中学部社会科の「評価の観点及びその趣旨」

社会科において育成を目指す資質・能力が身に付いている児童の姿です。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや役割、地域や我が国の歴史や伝統と文化及び外国の様子について、具体的な活動や体験を通して理解しているとともに、経験したことと関連付けて、調べまとめている。	社会的事象について、自分の生活と結び付けて具体的に考えたり、社会との関わりの中で、選択・判断したことを適切に表現したりしている。	社会的事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとしている。

参考：【30 文科初第 1845 号　改善等通知　　別紙４　１－２　社会（１）＜中学部 社会＞】

【中学部　１段階】

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	身近な地域や市区町村の地理的環境、地域の安全を守るための諸活動、地域の産業と消費生活の様子及び身近な地域の様子の移り変わり並びに社会生活に必要なきまり、公共施設の役割及び外国の様子について、具体的な活動や体験を通して、自分との関わりが分かっているとともに、調べまとめている。	社会的事象について、自分の生活や地域社会と関連付けて具体的に考えたり、表現したりしている。	身近な地域における社会的事象について、地域社会の将来の担い手として、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしている。

参考：学習評価参考資料

中学部社会科における内容のまとまりは、以下のようになっている。

〔１段階〕
- ア　社会参加ときまり
- イ　公共施設と制度
- ウ　地域の安全
- エ　産業と生活
- オ　我が国の地理や歴史
- カ　外国の様子

〔２段階〕
- ア　社会参加ときまり
- イ　公共施設と制度
- ウ　地域の安全
- エ　産業と生活
- オ　我が国の地理や歴史
- カ　外国の様子

〔２〕「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する際の基本的な手順

ここでは、１段階 「ア 社会参加ときまり」を取り上げて、「内容のまとまりごとの評価規準」作成の手順を説明します。まず、特別支援学校学習指導要領に示された教科及び学年の目標を踏まえて、「評価の観点及びその趣旨」が作成されていることを理解します。その上で、①及び②の手順を踏みます。

①各教科における「内容のまとまり」と「評価の観点」との関係を確認する。

内容のまとまり
ア 社会参加ときまり
(ｱ) 社会参加するために必要な集団生活に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
㋐ 学級や学校の中で、自分の意見を述べたり相手の意見を聞いたりするなど、集団生活の中での役割を果たすための知識や技能を身に付けること。
㋑ 集団生活の中で何が必要かに気付き、自分の役割を考え、表現すること。
(ｲ) 社会生活に必要なきまりに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
㋐ 家庭や学校でのきまりを知り、生活の中でそれを守ることの大切さが分かること。
㋑ 社会生活ときまりとの関連を考え、表現すること。

（下線）…知識及び技能に関する内容　　（波線）…思考力、判断力、表現力等に関する内容

②【観点ごとのポイント】を踏まえ、「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する。

○「知識・技能」のポイント
上記①の指導事項（ｱ）の「…を身に付けること」「…が分かること」の記述を当てはめ、それを生徒が「…身に付けている」「…分かっている」かどうかの学習状況として表し、評価規準を設定します。
○「思考・判断・表現」のポイント
上記①の指導事項（ｲ）の「…考え、…表現すること」の記述を当てはめ、それを生徒が「…考え、…表現している」かどうかの学習状況として表し、評価規準を設定します。
○「主体的に学習に取り組む態度」のポイント
学習指導要領に示す「⑵ 内容」に「学びに向かう力、人間性等」に関わる事項が示されていないことから、段階の目標や段階や観点の趣旨を基に評価規準を設定します。ここでは、目標に示されている、「主体的に関わろうとする態度」について「主体的に関わろうとしているか」かどうかを捉えられるよう、評価規準を設定します。

〔３〕社会科における指導と評価の一体化を目指して

１ 指導と評価のポイント

社会科では、単元の指導計画に、生徒が深い学びを実現するために「社会的な見方・考え方」を働かせ、社会的な事象について関心をもち、具体的に考えたり、関連付けたりする活動を設定することが大切です。また、観点別の学習状況についての評価は、内容や時間のまとまりごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、場面を精選したり、生徒の行動観察や作品・発言を分析したりすること等の他に生徒が授業後に学んだことを生かしている場面があるかどうかなど、生徒の姿を様々な場面を通じて多面的に評価することが大切です。

２ 指導と評価の一連の流れ

１段階の事例を通して、指導と評価の一連の流れについて説明します。

【事例８】中学部第２学年　社会科　１段階

1　単元名　「火事になったら」

2　内容のまとまり（１段階）

※　学習評価参考資料　P81 参照

ウ　地域の安全

3　単元の目標

（１）地域の安全を守るための諸活動について、学習活動を通して自分との関りが分かり、調べたり、まとめたりする技能を身に付ける。　**〔知識及び技能〕**

（２）火事について、自分の生活や地域社会に関連付けて考え、気づいたことや分かったことを表現する。　**〔思考力、判断力、表現力等〕**

（３）火事から自分自身や地域の安全を守るために自分たちにできることを考え、生活に生かそうとしている。　**〔学びに向かう力、人間性等〕**

4　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地域の安全を守るための諸活動、社会生活に必要なきまり、公共施設の役割について、具体的な活動を通して、自分との関わりが分かるとともに、調べまとめている。	社会的事象について、自分の生活や地域社会と関連付けて具体的に考えたり、表現したりしている。	地域における社会的事象について、地域社会の将来の担い手として、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしている。

5　児童・生徒の実態等

児童	児童の実態	重点とする指導事項	手だて
A	・単語程度の発語がある。 ・日常生活に関連する言語指示（１～２語文程度）が分かり、応じることができる。 ・具体物や選択肢を提示すると、考えたり、答えたりすることができる。 ・避難訓練の際に、火事のイラストを見て「火事」、地震のイラストを見て「地震」など単語で応えることができる。	公共施設に関連する物を選んだり、言葉で言ったりすることができる。	公共施設や関連する物の写真カードや絵カードを等を用意し、視覚的に分かりやすくする。 質問する時は、選択肢を用意し、本人が考えて選べるようにする。
（略）			

6　単元の流れ（５時間扱い）

時	学習活動	指導上の留意点	評価の観点・評価方法等
第一次（1～	①防災訓練を振り返る。 ②公共機関や人々の動きを知る。 ③公共機関のそれぞれの役割について、調べる。	①防災訓練で取り組んだ消化訓練や、煙体験等の様子の写真や動画を提示する。 ②どういった人達が関わっているのが分かるように、実際の火災の現場の動画や写真を提示する。 ③個々の GIGA 端末で、公共機関の役割を調べる。	**〔知識・技能〕** ①（行動観察） **〔思考・判断・表現〕** ①（行動観察） **〔主体的に学習に取り組む態度〕** ①（行動観察）
第二次（3～5）	①火災に関連する公共機関について調べる。 ②火事を防ぐ方法や起きた時の対応	①学校周辺や自分が住んでいる周辺の消防署や警察署などの場所を確認し、個人の GIGA 端末で写真撮影する。 ①調べとことを図や表にまとめる。 ②火事を起こさないために必要なことや火事が起こった時に自分がしなければならないことを考え、ワークシートに記入する。 ②ワークシートに記入したことを発表する。	**〔知識・技能〕** **①②（行動観察）** **〔思考・判断・表現〕** **①（行動観察）** **〔主体的に学習に取り組む態度〕** ②（行動観察）

7　評価の実際

（１）「知識・技能」の評価

・消防署は「火事、水、救急車」など、関連することや働いている人々の役割について、写真をヒントに考え、答えようとしていた。

・調べ学習では、教師と一緒に GIGA 端末で火事が起きた時の公共機関の役割を調べようとしていた。

（２）「思考・判断・表現」の評価

・学校周辺の公共機関について調べ、実物を見て「消防署」と言葉で表現していた。

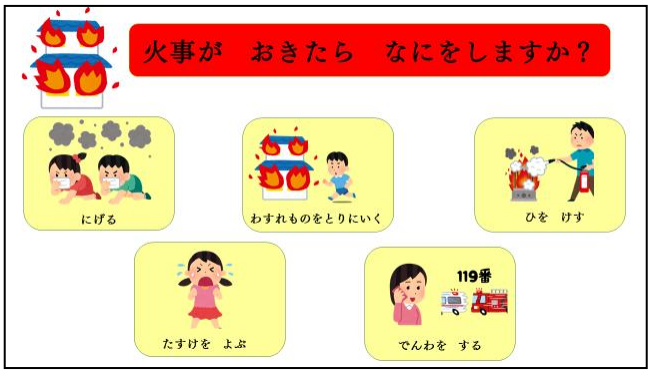
・火事が起きた時の動画の中で、関連する機関の動きを見て、その機関の名称を答えていた。

（３）主体的に学習に取り組む態度

・火事を起こさないために必要なことや火事が起こった時に自分がしなければならないことについて学んだことを生かし、当てはまる写真や絵のカードを選ぶことができた。

8　観点別学習状況の評価の総括

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生徒A	火事が起きた時に、どのような公共機関がどのような役割をしているのか調べたり、発表したりすることができました。	火事が起きた時に、連携・協力している関係機関の働きを考え、関係機関の名称を答えたり、写真や絵カードを選んだりすることができました。	自分の生活と火事について考え、火災から地域の安全を守るためにできることを発言していました。



中学部　数 学

〔１〕数学科における評価について

１　中学部　数学科の「目標」

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1)　数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解し、事象を数理的に処理する技能を身に付けるようにする。
(2)　日常の事象を数理的に捉え見通しをもち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
(3)　数学的活動の楽しさや数学のよさに気付き、学習を振り返ってよりよく問題を解決しようとする態度、数学で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。

特別支援学校学習指導要領には、この目標に基づき、１段階から２段階までの目標と内容が示されています。

２　中学部数学科の「評価の観点及びその趣旨」

数学科において育成を目指す資質・能力が身に付いている生徒の姿です。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解している。 ・事象を数理的に処理する技能を身に付けている。	日常の事象を数理的に捉え見通しをもち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現したり目的に応じて柔軟に表したりする力を身に付けている。	数学的活動の楽しさや数学のよさに気付き粘り強く考えたり、学習を振り返ってよりよく問題を解決しようとしたり、数学で学んだことを生活や学習に活用しようとしたりしている。

参考：【30 文科初第 1845 号　改善等通知　　別紙４　１－２　算数・数学＜中学部　数学＞】

学習評価参考資料には、数学科の１段階から２段階までの「評価の観点及びその趣旨」が示されています。中学部１段階を例示します。

【中学部　１段階】

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	A　数と計算 ３位数程度の整数の概念について理解し、数に対する感覚を豊かにしているとともに、加法、減法及び乗法の意味や性質について理解し、これらを計算することについての技能を身に付けている。	数とその表現や数の関係に着目し、具体物や図などを用いて、数の表し方や計算の仕方などを筋道立てて考えたり、関連付けて考えたりする力を身に付けている。	数量に進んで関わり、数学的に表現・処理するとともに、数学で学んだことのよさに気付き、そのことを生活や学習に活用しようとしている。
	B　図形 三角形や四角形、箱の形などの基本的な図形について理解し、図形についての感覚を豊かにしているとともに、図形を作図したり、構成したりすることなどについての技能を身に付けている。	三角形や四角形、箱の形などの基本的な図形を構成する要素に着目して、平面図形の特徴を捉えたり、身の回りの事象を図形の性質から関連付けて考えたりする力を身に付けている。	図形に進んで関わり、数学的に表現・処理するとともに、数学で学んだことのよさに気付き、そのことを生活や学習に活用しようとしている。

	C　測定 身の回りにある長さ、体積、重さ及び時間の単位と測定の意味について理解し、量の大きさについての感覚を豊かにしているとともに、それらを測定することについての技能を身に付けている。	身の回りの事象を量に着目して捉え、量の単位を用いて的確に表現する力を身に付けている。	数量や図形に進んで関わり、数学的に表現・処理するとともに、数学で学んだことのよさに気付き、そのことを生活や学習に活用しようとしている。
	D　データの活用 身の回りにあるデータを分類整理して簡単な表やグラフに表したり、それらを問題解決において用いたりすることについての技能を身に付けている。	身の回りの事象を、データの特徴に着目して捉え、簡潔に表現したり、考察したりする力を身に付けている。	データの活用に進んで関わり、数学的に表現・処理するとともに、数学で学んだことのよさに気付き、そのことを生活や学習に活用しようとしている。

参考：学習評価参考資料

3　中学部数学科における「内容のまとまり」

1段階	2段階
A　数と計算 ア　整数の表し方 イ　整数の加法及び減法 ウ　整数の乗法	**A　数と計算** ア　整数の表し方 イ　整数の加法及び減法 ウ　整数の乗法 エ　整数の除法 オ　小数の表し方 カ　分数の表し方 キ　数量の関係を表す式
B　図形 ア　図形	**B　図形** ア　図形 イ　面積 ウ　角の大きさ
C　測定 ア　量の単位と測定 イ　時刻と時間	**C　変化と関係** ア　伴って変わる二つの数量 イ　二つの数量の関係
D　データの活用 ア　身の回りにあるデータを簡単な表やグラフで表したり、読み取ったりすること	**D　データの活用** ア　データを表やグラフで表したり、読み取ったりすること

〔2〕　「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する際の基本的な手順

特別支援学校学習指導要領には、「(2) 内容」において、「内容のまとまり」ごとに育成を目指す資質・能力が示されているため、「(2) 内容」の記載は、そのまま学習指導の目標となりうるものです。「(2) 内容」の記載事項の文末を、「～すること」から「～している」と変換したもの等を「内容のまとまりごとの評価規準」と呼ぶこととされています。

ただし、「主体的に学習に取り組む態度」に関しては、「(2) 内容」に記載がないので、各段階の「(1) 目標」を参考にしつつ、「内容のまとまりごとの評価規準を作成する必要があります。

1段階「B　図形」ア　図形　を例にとってみていきましょう。

1　各教科における「内容のまとまり」と「評価の観点」との関係を確認する。

特別支援学校中学部学習指導要領　数学　１段階「B　図形」の記載

ア　図形に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

（ア）次のような知識及び技能を身に付けること。
㋐　直線について知ること。
㋑　三角形や四角形について知ること。
㋒　正方形、長方形及び直角三角形について知ること。
㋓　正方形や長方形で捉えられる箱の形をしたものについて理解し、それらを構成したり、分解したりすること。
㋔　直角、頂点、辺及び面という用語を用いて図形の性質を表現すること。
㋕　基本的な図形が分かり、その図形をかいたり、簡単な図表を作ったりすること。
㋖　正方形、長方形及び直角三角形をかいたり、作ったり、それらを使って平面に敷き詰めたりすること。

（イ）次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
㋐　図形を構成する要素に着目し、構成の仕方を考えるとともに、図形の性質を見い出し、身の回りのものの形を図形として捉えること。

（下線）…知識及び技能に関する内容　（波線）…思考力、判断力、表現力等に関する内容

➡　ここには「学びに向かう力、人間性等」の記載はありません。

2　以下の【観点ごとのポイント】を踏まえ、「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する。

〇「知識・技能」のポイント
・基本的に、当該「内容のまとまり」で育成を目指す資質・能力に該当する「知識及び技能」で示された内容をもとに、その文末を「～している」「～することができる」などとして評価規準を作成する。
〇「思考・判断・表現」のポイント
・基本的に、当該内容のまとまりで育成を目指す資質・能力に該当する「思考力、判断力、表現力等」の指導事項等について、その文末を「～している」として評価規準を作成する。
〇「主体的に学習に取り組む態度」のポイント
・当該段階の各領域の目標のウを基に、主体的に学習に取り組む態度の「観点の趣旨」を踏まえ、指導事項等を加味して、その文末を「～している」として、評価規準を作成する。

〔３〕　数学科における指導と評価の一体化を目指して

１　指導と評価のポイント

数学科では、常に「数学科の目標」と「学年の目標」との関連、そして領域相互の関連を考え、「内容」の指導に当たっていくことが必要です。また、数学科の目標の柱書に示されている「数学的な見方考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力の育成を目指す」ことは、当該段階の目標には柱書として示されていませんが、いずれにおいても重要であり、指導と評価に際しては常に留意することが大切です。

２　指導と評価の一連の流れ

１段階の事例を通して、指導と評価の一連の流れについて説明します。

【事例９】中学部第１学年　数学科　１段階

1　単元名　　図形を切って組み合わせてみよう（数学☆☆☆☆（４）　P105）

2　内容のまとまり　　※　学習評価参考資料　P90 参照

【１段階】	B　図形	ア　図形

3　単元の目標

（1）正方形、長方形及び直角三角形について理解することができる。

〔知識及び技能〕

（2）図形の構成する要素に着目し、構成の仕方を考えるとともに、図形の性質を見いだし、身の回りの物の形を図形として捉えることができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕

（3）図形に進んで関わり、数学的に表現・処理するとともに、数学で学んだことのよさに気付き、そのことを生活や学習に活用することができる。

〔学びに向かう力、人間性等〕

4　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
正方形、長方形及び直角三角形について理解している。	図形の構成する要素に着目し、構成の仕方を考えるとともに、図形の性質を見いだし、身の回りの物の形を図形として捉えたりしている。	図形に進んで関わり、数学的に表現・処理するとともに、数学で学んだことのよさに気付き、そのことを生活や学習に活用しようとしている。

5　生徒の実態等

生徒	生徒の実態	重点とする指導事項	手だて
A	・一日の予定や活動に見通しがもてるとすすんで活動に参加できる。 ・数字は１～5 まで理解している。 ・正方形や長方形が直角をもつ図形であることは分かっている。 ・直角の角をもつ三角形が、直角三角形であるという理解は十分ではない。	・構成要素の数（辺の数や角の数）を答えることができる。 ・長方形や正方形の対角線上で切り取ることで、直角三角形ができる。 ・直角三角形を二つ組み合わせると長方形や正方形ができる。	・数字を表せるように、数字カードを用意し、選択できるようにする。 ・長方形や正方形、直角三角形は、どれも「直角」をもつ図形という共通部分に着目できるように促す。 ・長方形や正方形を切り取った図形を分解したり、構成したりする活動を取り入れる。 ・重ね合わせる部分に、シールを貼り付けて着目できるようにする。
（略）			

6　単元の流れ（５時間扱い）

時	学習活動	指導上の留意点	評価の観点・評価方法等
第一次 1 ～ 2	・長方形や正方形の用紙を対角線上に切ることで、直角三角形ができあがることを感覚的に気付き､「直角の角をもつ三角形である」と表現することができる。 ・正方形の紙を２本の対角線で切ってできる４つの三角形を観察したり、直角三角形を並べて長方形を作ったりして、直角三角形の見方を豊かにする。	・長方形や正方形、直角三角形は、全て直角をもつ図形であることを意識できるようにする。 ・構成要素の数（辺の数や角の数）が確認できるように、数字カードを用意する。 ・正方形を切り分けてできた図形の辺や角を見比べることで、辺の長さが同じであったり、角が直角であったりすることに注目できるように促す。 ・正方形が長方形の辺を同じにした図形であることや、同じ大きさの直角三角形を２つ組み合わせることで、正方形や長方形ができるなど互いの関連性を意識できるようにする。	**〔知識・技能〕** ①（行動観察） **〔思考・判断・表現〕** ①（行動観察） **〔主体的に学習に取り組む態度〕** ①（行動観察）
第二次 3 ～ 5	・直角三角形を複数組み合わせてできる図形を作る操作活動を通して、図形の関心の幅を広げる。	・直角三角形を２つ組み合わせてできる図形、３つ組み合わせてできる図形などを考えて操作する機会を設ける。 ・図形を操作することで実感をもって理解し、構成要素（直角、辺）などに着目して図形を捉えたり、相互に関連付けられたりできるようにする。	**〔知識・技能〕** ①（行動観察） **〔思考・判断・表現〕** ①②（行動観察） **〔主体的に学習に取り組む態度〕** ①②（行動観察）

7　評価の実際

（１）「知識・技能」の評価

〇長方形や正方形を対角線上に切る活動

・はじめは長方形や正方形を対角線上に折ったものを見て長方形や正方形と理解していたが、切った図形を見ながら辺の数や頂点（角）の数に着目するように教員が促すと、数字カードを見て辺の数を「３」、頂点（角）の数も「３」と示し、三角形ができたことに気付くことができた。

〇三角定規と重ね合わせる活動

・切った三角形を重ね合わせる活動では、三角定規と切った三角形が直角部分できれいに重なり合い「ぴったり」と発言する様子がみられた。その後、切った三角形同士も重なるかが気になり、「一緒になるかな」と言いながら操作する様子がみられた。

（２）「思考・判断・表現」の評価

〇正方形を４つに切り分けた活動：

・２本の対角線で切り分けた４つの直角三角形を見せると直角部分に注目し､「一緒かな」と言いながら直角部分を重ね合わせる様子がみられた。

・教員が４つの直角三角形の直角部分を中央に集めるように促すと､「さっきの形と一緒」と言って元の正方形に戻ることに気付くことがあった。

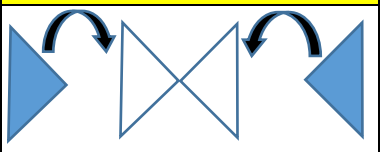
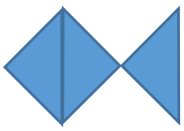
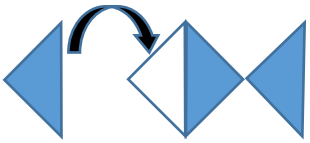
（３）主体的に学習に取り組む態度

〇直角三角形を組み合わせてできる図形活動

・直角三角形を２つ組み合わせて「蝶々」の形を作る活動では、教員が直角部分に〇シールを貼り付けて注目するように促すと、説明に注目して直角三角形の向きを操作して形を作ることができました。

・直角三角形を２つ組み合わせて「山」の形を作る活動では、自ら図形を操作し、試行錯誤の末に図形ができあがると「できた」と大きな声で教員に伝えていました。

・直角三角形を３つ組み合わせて「魚」の形を作る活動では、教員の「蝶々がヒント」を頼りに、直角三角形を自ら進んで動かし、図形を完成させることができました。

直角三角形を２つ組合せたもの	見本	生徒の答え
蝶々（ちょうちょ）		
山（やま）		
直角三角形を３つ組合せたもの	**見本**	**生徒の答え**
魚（さかな）		

８　観点別学習状況の評価の総括

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生徒A	・それぞれの図形にある特徴について、構成要素の数（辺の数、角の数）に注目して理解することができました。 ・正方形、長方形、直角三角形などのおおよその特徴が分かり、それらを作ることができました。	・直角三角形を組み合わせる部分を見分けて、見本と同じ形になるように操作しながら、作り上げることができました。	・組み合わせる見本に関心をもち、図形を動かしてすすんで作り上げようとする様子がみられました。

中学部　理 科

〔１〕理科における評価について

１　中学部　理科の「目標」

自然に親しみ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって、観察、実験を行うなどを通して、自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1)　自然の事物・現象についての基本的な理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。
(2)　観察・実験などを行い、疑問をもつ力と予想や仮説を立てる力を養う。
(3)　自然を愛する心情を養うとともに、学んだことを主体的に日常生活や社会生活などに生かそうとする態度を養う。

特別支援学校学習指導要領には、この目標に基づき、１段階から２段階までの目標と内容が示されています。

２　中学部理科の「評価の観点及びその趣旨」

理科において育成を目指す資質・能力が身に付いている児童の姿です。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	自然の事物・現象についての基本的な性質や規則性などについて理解しているとともに、器具や機器などを目的に応じて扱いながら観測、実験などを行い、それらの過程や得られた結果を記録している。	自然の事物・現象について観察、実験などを行い、疑問をもつとともに、予想や仮説を立て、それらを表現するなどして問題解決している。	自然の事物・現象に進んで関わり、学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

参考：【30 文科初第 1845 号　改善等通知　　別紙４　１－２　理科＜中学部 理科＞】

学習評価参考資料には、理科の１段階から２段階までの「評価の観点及びその趣旨」が示されています。中学部１段階を例示します。

【中学部　１段階】

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	A　生命 身の回りの生き物の様子についての基本的な性質や規則性などについて気付いているとともに、器具や機器などを正しく扱いながら観測、実験などを行い、それらの過程や得られた結果を記録している。	身の回りの生き物の様子について調べる中で、疑問をもち、表現するなどして問題解決している。	身の回りの生物の様子についての事物・現象に進んで関わり、学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

参考：学習評価参考資料

（「B　地球・自然」、「C　物質・エネルギー」については省略）

３　中学部理科における「内容のまとまり」

１段階	２段階
A　生命 ア　身の回りの生物	**A　生命** ア　人の体のつくりと運動 イ　季節と生物
B　地球・自然 ア　太陽と地面の様子	**B　地球・自然** ア　雨水の行方と地面の様子 イ　天気の様子 ウ　月と星
C　物質・エネルギー ア　物の重さ　　エ　磁石の性質 イ　風やゴムの力の働き　　オ　電気の通り道 ウ　光や音の性質	**C　物質・エネルギー** ア　水や空気と温度

〔２〕　「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する際の基本的な手順

特別支援学校学習指導要領には、「(2) 内容」において、「内容のまとまり」ごとに育成を目指す資質・能力が示されているため、「(2) 内容」の記載は、そのまま学習指導の目標となりうるものです。「(2) 内容」の記載事項の文末を、「～すること」から「～している」と変換したもの等を「内容のまとまりごとの評価規準」と呼ぶこととされています。

ただし、「主体的に学習に取り組む態度」に関しては、「(2) 内容」に記載がないので、各段階の「(1) 目標」を参考にしつつ、「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する必要があります。

第１段階「A　生命」の「ア　身の回りの生物」を例にとってみていきましょう。

1　各教科における「内容のまとまり」と「評価の観点」との関係を確認する。

特別支援学校中学部学習指導要領　理科　１段階「A　生命」の記載

ア　身の回りの生物について、探したり育てたりする中で、生物の姿に着目して、それらを比較しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

（ア）次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。
㋐　生物は、色、形、大きさなど、姿に違いがあること。
㋑　昆虫や植物の育ち方には一定の順序があること。

（イ）身の回りの生物について調べる中で、差異点や共通点に気付き、生物の姿についての疑問をもち、表現すること。

（下線）…知識及び技能に関する内容　（波線）…思考力、判断力、表現力等に関する内容

2　以下の【観点ごとのポイント】を踏まえ，「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する。

〇「知識・技能」のポイント
・「知識」についての「内容のまとまりごとの評価規準」は、学習指導要領の「（２）内容」における知識に関する内容である㋐、㋑などの文末を「～を理解している」として作成する。
・「技能」についての「内容のまとまりごとの評価規準」は、学習指導要領の「（２）内容」における技能に関する内容である「観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること」の文末を「～身に付けている」として作成する。

〇「思考・判断・表現」のポイント
・「思考・判断・表現」についての「内容のまとまりごとの評価規準」は、学習指導要領の「（２）内容」における思考力、判断力、表現力等に関する内容である、「…について調べる中で、差異点や共通点に気付き、…についての疑問をもち、表現すること」の文末を「～表現している」として作成する。

〇「主体的に学習に取り組む態度」のポイント
・「主体的に学習に取り組む態度」についての「内容のまとまりごとの評価規準」は、学習指導要領の「（２）内容」に育成を目指す資質・能力が示されていないことから、「評価の観点及びその趣旨」の「…についての事物・現象に進んで関わり、学んだことを学習や生活に生かそうとしている」を用いて作成する。

〔３〕　理科における指導と評価の一体化を目指して

1　指導と評価のポイント

理科では、「知識・技能」については、基本的な概念や原理・法則などを理解しているかを、また、観察、実験の基本操作を習得するとともに、観察、実験の計画的な実施、結果の記録や整理、資料の活用の仕方などを身に付けているかどうかを評価します。「思考・判断・表現」については、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈するなど、科学的に探究する過程において思考・判断・表現しているかを評価します。「主体的に学習に取り組む態度」については、進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしているかを評価します。

2　指導と評価の一連の流れ

１段階の事例を通して、指導と評価の一連の流れについて説明します。

【事例 10】中学部第１学年　理科　１段階

1　単元名　　野菜を育てて調べよう

2　内容のまとまり　　※　学習評価参考資料　P97 参照

【１段階】	A　生命	ア　身の回りの生物

3　単元の目標

（1）身の回りの生物の様子について気付き、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けることができる。〔知識及び技能〕

（2）身の回りの生物の様子から、主に差異点や共通点に気付き、疑問をもつ力を養う。〔思考力、判断力、表現力等〕

（3）身の回りの生物の様子について進んで調べ、生物を愛護する態度や学んだことを日常生活などに生かそうとする態度を養う。〔学びに向かう力、人間性等〕

4　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①身の回りの生物の様子について気付き、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けている。	①身の回りの生物の様子から、主に差異点や共通点に気付き、疑問をもつ力を養うことができる。	①身の回りの生物の様子について進んで調べることができる。 ②野菜を愛護する態度や学んだことを日常生活などに生かそうとしている。

5　生徒の実態等

生徒	生徒の実態	重点とする指導事項	手だて
A	・野菜の種類が分かっている。 ・絵や写真カード選択はできる。 ・野菜の様々な色に注目することができる。	・野菜の苗を見て、「色」、「形」、「大きさ」などの姿が見比べることができる。 ・野菜の「花」と「実」の関係を関連付けられるようにする。	・野菜の苗を見えやすくして、特徴に気が付けるようにする。 ・「葉」、「茎」、「花」など、野菜の苗の部分から選択肢を設けて、「実」ができる場所を意識できるようにする。
（略）			

6　単元の流れ（4 時間扱い）

時	学習活動	指導上の留意点	評価の観点・評価方法等
第一次（1～4）	・栽培で育てた野菜（ミニトマト・キュウリ）の生長を写真で見比べて特徴や変化を見る。	・栽培した野菜の苗を定期的に撮影し、生長の様子を掲示することで、比較できるようにする。 ・生長の変化の過程を、「色」や「形」、「大きさ」、「におい」など野菜の部分ごとに分けて発表を促すことで、注目しやすくする。 ・苗が生長するにつれて、「実の部分」がどのようにできるのかを予想させるように促す。 ・栽培した野菜の中で気が付いた特徴ごとに記録にしたり、友達の発言をまとめて差異点や共通点を記入できるようにしたりするためのワークシートを用意し、記録をつけられるようにする。	**〔知識・技能〕** ①（行動観察） **〔思考・判断・表現〕** ①（発表） ①（ワークシート） **〔主体的に学習に取り組む態度〕** ①②（行動観察） ①（ワークシート）

7　評価の実際

（１）「知識・技能」の評価

〇栽培した野菜の記録の仕方

・教員の支援を受けながら、「茎」、「葉」、「花」、「実（野菜）」など、生長過程を、順を追って記録できるようになった。

・葉の表面の凹凸や模様などに着目できるようになってきた。撮影の機会を繰り返すことでズーム機能を操作できるようになり、表面の凹凸や模様などが分かるようになってきた。

〇栽培した野菜の生長した姿

・はじめは、ミニトマトの色や、キュウリに花が付いていることについて理解できていなかったが、生長した見本野菜と見比べたことで、ミニトマトの赤色まで生長すること、キュウリは花が無くなるまで生長することに気付いていた。

・ワークシートのミニトマト欄に赤色の丸シールを貼り付けて生長する姿を表現することができた。

（２）「思考・判断・表現」の評価

〇野菜の葉の色と形

・撮影したミニトマトとキュウリの葉の画像を掲示すると、画像を見比べて、葉の色が「一緒」と言って、共通部分を見付けた。形は？の問いには、「ギザギザ」と言って、手を左右に動かしてギザギザ部分を表現していた。

〇野菜の実ができる場所

・はじめはミニトマトもキュウリも葉っぱの根本にできると予想していたが、撮影した画像の経過を見ていくと、花の根本部分に実があることを見付けて指さしていた。

〇野菜の実の変化

・「野菜の色は生長するにつれて変わっていくのか？」という教員からの問い掛けに対して、「色は変わらない」と発言していたが、撮影した野菜の画像を生長過程ごとに見せると、ミニトマトが、「緑色」から「赤色」に変化する様子を見て、野菜の色は生長するにつれて色が変化していくことに気付いていた。

（３）主体的に学習に取り組む態度

・野菜以外の花壇の植物を見かけると、白色の花を見て「野菜の花と色が違うね」や、葉っぱを見て「小さいね」などとつぶやき、学んだ事柄を生かして身の回りの植物の色や大きさに着目する様子が見られた。

8　観点別学習状況の評価の総括

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生徒A	・観察の際、教員の支援を受けて「花」や「葉」、「実」など部分ごとに撮影したり、生長の経過ごとに記録したりするなどして、見比べるための観察の方法を身に付けることができました。	・野菜の苗を見比べる活動では、「葉」や「花」などの部分に注目したり、「色」や「形」、「大きさ」の共通点や差異点に関心を示したり発言したりすることができました。	・校庭や校外学習先などで、野菜の苗や植物を探すようになりました。 ・花の色や形、大きさを気にして観察する姿が見られるようになり、気が付いたことを教員や友達に伝える機会が増えました。

中学部　音 楽

〔１〕音楽科における評価について

１　中学部 音楽科の「目標」

表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに興味や関心をもって関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 曲名や曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
(2) 音楽表現を考えることや、曲や演奏のよさなどを見いだしながら、音や音楽を味わって聴くことができるようにする。
(3) 進んで音や音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じるとともに、様々な音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。

特別支援学校学習指導要領には、この目標に基づき、１段階から２段階までの目標と内容が示されています。

２　中学部 音楽科の「評価の観点及びその趣旨」

音楽科において育成を目指す資質・能力が身に付いている生徒の姿です。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	・曲名や曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解している。(※1) ・表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌ったり、演奏したり、音楽をつくったり、身体表現で表している。(※2)	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもったり、曲や演奏のよさなどを見いだし、音や音楽を味わって聴いたりしている。	音や音楽に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

参考：【30 文科初第 1845 号　改善等通知　　別紙４　音楽（１）＜中学部 音楽＞】

※「知識・技能」の観点の趣旨は、知識の習得に関すること（※1）と技能の習得に関すること（※2）とに分けて示している。これは、学習指導要領の指導事項を、知識に関する資質・能力（事項(ｲ)）と技能に関する資質・能力（事項(ｳ)）とに分けて示していること、技能に関する資質・能力を「Ａ表現」のみに示していることなどを踏まえたものである。また、「Ａ表現」の題材の指導に当たっては、「知識」と「技能」の評価場面や評価方法が異なることが考えられる。したがって、「Ａ表現」の題材では、評価規準の作成においても「知識」と「技能」とに分けて設定することを原則とする。なお「Ｂ鑑賞」の題材では、※2 の趣旨に対応する評価規準は設定しない。

学習評価参考資料には、音楽科の１段階から２段階までの「評価の観点及びその趣旨」が示されています。中学部１段階を例示します。

【中学部　１段階】

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	・曲名や曲の雰囲気と音楽の構造などとの関わりについて気付いている。 ・音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、音楽づくり、身体表現の技能を身に付け、歌ったり、演奏したり、音楽をつくったり、体を動かしたりしている。	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもったり、音や音楽を味わいながら聴いたりしている。	音や音楽に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

参考：学習評価参考資料

3　中学校 音楽科における「内容のまとまり」

中学部音楽科における内容のまとまりは、以下のようになっている。

「Ａ表現」　ア　歌唱　及び〔共通事項〕の(1)
「Ａ表現」　イ　器楽　及び〔共通事項〕の(1)
「Ａ表現」　ウ　音楽づくり　及び〔共通事項〕の(1)
「Ａ表現」　エ　身体表現　及び〔共通事項〕の(1)
「Ｂ鑑賞」　ア　鑑賞　及び〔共通事項〕の(1)

〔２〕「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する際の基本的な手順

特別支援学校学習指導要領に示された教科及び段階の目標を踏まえて、「評価の観点及びその趣旨」が作成されていることを理解します。
その上で、次の①及び②の手順を踏みます。

1　各教科における「内容のまとまり」と「評価の観点」との関係を確認する。

中学部音楽科の各段階の「(2)内容」において、関する内容は以下のとおりである。
Ａ表現
ア　歌唱
(ｱ)…思考力、判断力、表現力等に関する内容
(ｲ)…知識に関する内容
(ｳ)…技能に関する内容
イ　器楽
(ｱ)…思考力、判断力、表現力等に関する内容
(ｲ)…知識に関する内容
(ｳ)…技能に関する内容
ウ　音楽づくり
(ｱ)…思考力、判断力、表現力等に関する内容
(ｲ)…知識に関する内容
(ｳ)…技能に関する内容
エ　身体表現
(ｱ)…思考力、判断力、表現力等に関する内容
(ｲ)…知識に関する内容
(ｳ)…技能に関する内容
Ｂ鑑賞
ア　鑑賞
(ｱ)…思考力、判断力、表現力等に関する内容
(ｲ)…知識に関する内容
〔共通事項〕(1)
ア…思考力、判断力、表現力等に関する内容
イ…知識に関する内容

また、〔共通事項〕においては、以下のとおりである。
ア　＝「思考力、判断力、表現力等」に関する内容
イ　＝「知識及び技能に関する内容」

2　以下の【観点ごとのポイント】を踏まえ、「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する。

○「知識・技能」のポイント

・事項(ｲ)及び(ｳ)の文末を「～している」と変更して作成する。

・事項にある「次の㋐及び㋑」や「次の㋐から㋒まで」の部分は、㋐から㋒までの事項のうち、いずれかを選択して置き換え作成する。なお、技能に関しては「～するために必要な」の後に適宜「、」を挿入する。

○「思考・判断・表現」のポイント

・〔共通事項〕アの文末を「～考え、」と変更し、その後に扱う領域や分野の事項(ｱ)を組み合わせ、文末を「～している」と変更して作成する。

・事項(ｱ)では、前半部分に「知識や技能を得たり生かしたりしながら」と示しているが、この「得たり生かしたり」は、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」とがどのような関係にあるかを明確にするために示している文言であり、内容のまとまりごとの評価規準としては設定しない。

○「主体的に学習に取り組む態度」のポイント

・当該段階の「評価の観点の趣旨」の内容を踏まえて作成する。

・「評価の観点の趣旨」の文頭部分「音や音楽に親しむことができるよう、」は、「主体的に学習に取り組む態度」における音楽科の学習の目指す方向性を示している文言であるため、内容のまとまりごとの評価規準としては設定しない。

・「評価の観点の趣旨」の「表現及び鑑賞」の部分は、扱う領域や分野に応じて「歌唱」「器楽」「音楽づくり」「身体表現」「鑑賞」より選択して置き換える。なお、「学習活動」とは、その題材における「知識及び技能」の習得や「思考力、判断力、表現力等」の育成に係る学習活動全体を指している。

・「評価の観点の趣旨」の「楽しみながら」の部分は、「主体的・協働的に」に係る言葉であり、単に活動を「楽しみながら」取り組んでいるかを評価するものではない。

あくまで、主体的・協働的に取り組む際に「楽しみながら」取り組めるように指導を工夫する必要があることを示唆しているものである。

〔３〕音楽科における指導と評価の一体化を目指して

1　指導と評価のポイント

音楽科では、知識及び技能に関する資質・能力については個々の独立性が高く、知識と技能の指導事項を個別に立てていることに対応し、知識と技能とに分けて評価します。

その際、知識と技能の評価場面や評価方法は異なることが考えられます。

また、〔共通事項〕のアが思考力、判断力、表現力等に関する資質・能力として位置付けられました。〔共通事項〕のアと、各領域や分野の事項アは一体的に捉えることが重要です。

2　指導と評価の一連の流れ

１段階の事例を通して、指導と評価の一連の流れについて説明します。

【事例 11】中学部　第１学年　音楽科　１段階

1　単元名　　歌っておどろう「パプリカ」（音楽☆☆☆☆　Ｐ３０）

2　内容のまとまり（１段階）　　※学習評価参考資料　P103 参照

Ａ表現	ア　歌唱　及び〔共通事項〕の(1) エ　身体表現　及び〔共通事項〕の(1)

3　単元の目標

(1)「パプリカ」の曲想と歌詞の表す情景やイメージとの関わりについて気付き、それを表現するために必要な歌唱、身体表現の技能を身に付ける。　〔知識及び技能〕

(2)特徴的なリズムや曲の雰囲気を感じ取り、曲の雰囲気に合いそうな表現を工夫して歌ったり、思いや意図をもって身体を動かすことができるようになる。　〔思考力、判断力、表現力等〕

(3)音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に歌唱や身体表現の学習活動に取り組む。　〔学びに向かう力、人間性等〕

4　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・曲想と歌詞の表す情景やイメージとの関わりについて気付いている。 ・歌詞と体の動きとの関わりについて気付いている。 ・友達の歌声を聴いて合わせて歌ったり、合図を送って歌ったりするなど、友達と合わせるということに意識を向けながら歌っている。 ・動きを合わせるために感じたことを話し合ったり、動きのアイデアを出し合ったりしたことを、動きに表すことができている。	・音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、リズムの特徴や曲の雰囲気を感じ取り、体を動かすことについての思いや意図をもっている。	・音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に歌唱や身体表現の学習活動に取り組もうとしている。

5　生徒の実態等

生徒	生徒の実態	重点とする指導事項	手だて
A	・音楽が好きで、音楽番組を欠かさず見ている。体を動かすことも好きで、歌いながら自分なりの動きやリズムで身体を動かしていることがある。 ・言語でやりとりできるが、自分のペースで関わりをもつため、友達とうまく意思疎通が図れないことがある。	・学習活動の流れに見通しをもたせる。 ・教師の指示を聞き、それを守って行動できるようにする。 ・友達と動きを合わせて表現できるようにする。	・学習活動の流れや指示内容（ルール）を、文字やイラストで視覚的に表す。 ・自分たちのダンスを録画し、それを見ながら、よりよい表現について意見を交換し合ったり、動きの確認をし合ったりできるようにする。
（略）			

6　単元の流れ（８時間扱い）

時	学習活動	指導上の留意点	評価の観点・評価方法等
第一次（2時間）	1 体操 2 歌唱 ①歌詞を音読する ②模唱する ③伴奏に合わせて歌う	・イメージ映像を見たり、歌詞を音読したりすることで、曲のイメージを少しずつもたせるようにする。 ・イラストなどを使い、視覚的に働きかける。	〔知識・技能〕 曲想と歌詞の表す情景やイメージとの関わりについて気付いているか。(観察) 〔思考・判断・表現〕 特徴的なメロディを理解し、その面白さなどを感じ取っていたか。　(発言) 〔主体的に学習に取り組む態度〕 積極的に声を出しているか。　(観察)
第二次（4時間）	1 体操 2 身体表現〈個人練習〉 ①振り付けを覚える ②曲に合わせて振り付けをする ③歌いながら振り付けをする	・初めにダンスミュージックビデオを視聴し、イメージをもたせる。 ・曲の速度を落とし、小節を区切りながら振り付けを練習する。	〔知識・技能〕 歌詞と体の動きの関わりについて気付いているか。　(観察、発言) 〔思考・判断・表現〕 歌詞の情景を表現しようとするように体を動かしているか。　(観察) 〔主体的に学習に取り組む態度〕 積極的に体を動かし、身体表現することを楽しんでいるか。　(観察)
第三次（2時間）	1 体操 2 身体表現〈まとめ〉 ①みんなで合わせる ②動画撮影する ③撮影した動画を見る（振り返り・まとめ）	・小節を区切りながら、歌と動きが合っているか確認しながら進める。 ・練習の様子を撮影した動画を視聴し、お互いの頑張りを共有しながら、達成感や満足感を味わわせるようにする。	〔知識・技能〕 友達と歌や体の動きを合わせて表現しているか。　(観察) 〔思考・判断・表現〕 思いや意図をもって表現しているか。　(観察、発言) 〔主体的に学習に取り組む態度〕 主体的･協働的に学習活動を楽しんでいるか。　(観察)

7　評価の実際

（1）「知識・技能」の評価

・イメージ映像を見たり、友達の意見を聴いたりしながら、歌詞の表す情景を自分なりに思い描いていた。

・振り付け練習では、教科書に載っているイラストを見ながら熱心に取り組み、前後のつながりを考えながら体の動かし方を工夫していた。

（2）「思考・判断・表現」の評価

・サビ部分の特徴的なメロディ（ヨナ抜き音階）について、他に使われている曲を例に挙げると強く興味をもち、面白く感じたようで何度も口ずさんでいた。振り付けも、特にサビ部分に思いを込め、動きに強弱をつけながら豊かに表現していた。

（3）主体的に学習に取り組む態度

・友達と一緒に振り付けする場面では、短く区切りながらお互いの動きを見合うことを意識し取組み、だんだんと息を合わせることができた。動きを見合う中で、友達に自分の考えや思いを伝える様子が見られ、友達と一緒に作り上げる楽しさを味わいながら音楽活動に取り組むことができた。

8　観点別学習状況の評価の総括

	知識･技能	思考･判断･表現	主体的に学習に取り組む態度
生徒A	振り付け練習では、前後のつながりを考えながら体の動かし方を工夫していました。歌詞の表す情景を自分なりに思い描いて身体表現をしていました。	ヨナ抜き音階に強く興味をもち､何度も口ずさんでいました。振り付けも、特にサビ部分に思いを込め、動きに強弱をつけながら表現していました。	自分の考えや思いを、友達に伝える様子がよく見られました。友達と一緒に作り上げる楽しさを味わいながら、音楽活動に取り組むことができました。

中学部　美 術

〔１〕美術科における評価について

１　中学部　美術科の「目標」

表現及び鑑賞の活動を通して，造形的な見方・考え方を働かせ，生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1)造形的な視点について理解し、表したいことに合わせて材料や用具を使い、表し方を工夫する技能を身に付けるようにする。
(2)造形的なよさや面白さ、美しさ、表したいことや表し方などについて考え、経験したことや材料などを基に、発想し構想するとともに、造形や作品などを鑑賞し、自分の見方や感じ方を深めることができるようにする。
(3)創作活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を営む態度を養い、豊かな情操を培う。

特別支援学校学習指導要領には、この目標に基づき、１段階から２段階までの目標と内容が示されています。

２　中学部美術科の「評価の観点及びその趣旨」

美術科において育成を目指す資質・能力が身に付いている生徒の姿です。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	・造形的な視点について理解している。 ・表したいことに合わせて材料や用具を使い、表し方を工夫する技能を身に付けている。	造形的な特徴などからイメージを捉えながら、造形的なよさや面白さ、美しさ、表したいことや表し方などについて考えるとともに、経験したことや材料などを基に、発想し構想したり、造形や作品などを鑑賞し、自分の見方や感じ方を深めたりしている。	創作活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

参考：【30 文科初第 1845 号　改善等通知　　別紙４　１－２　図画工作・美術（１）＜中学部　美術＞】

学習評価参考資料には、美術科の１段階から２段階までの「評価の観点及びその趣旨」が示されています。中学部２段階を例示します。

【中学部　２段階】

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	・造形的な視点について理解している。 ・材料や用具の扱い方などを身に付けるとともに、多様な表し方を工夫する技能を身に付けている。	造形的な特徴などからイメージを捉えながら、造形的なよさや面白さ、美しさ、表したいことや表し方などについて考えるとともに、経験したことや想像したこと、材料などを基に、発想し構想したり、自分たちの作品や美術作品などに親しみ自分の見方や感じ方を深めたりしている。	創作活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

参考：学習評価参考資料

３　中学部美術科における「内容のまとまり」

各段階とも、「⑵ 内容」は、〔知識及び技能〕と〔思考力、判断力、表現力等〕の２つの内容のまとまりで示されている。これらのまとまりは、更に以下のように分けられている。
〔１段階〕
経験したことや思ったこと、材料などを基にした表現「A 表現」アの(ｱ)、(ｲ)〔共通事項〕
作品や身近な造形品の鑑賞「B 鑑賞」〔共通事項〕
〔２段階〕
経験したことや想像したこと、材料などを基にした表現「A 表現」アの(ｱ)、(ｲ)〔共通事項〕
作品や美術作品などの鑑賞「B 鑑賞」〔共通事項〕

〔２〕　「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する際の基本的な手順

中学部１段階　経験したことや思ったこと、材料などを基にした表現「A 表現」アの（ア）、（イ）〔共通事項〕の例

１　各教科における「内容のまとまり」と「評価の観点」との関係を確認する。

A　表現

ア　日常生活の中で経験したことや思ったこと、材料などを基に、表したいことや表し方を考えて、描いたり、つくったり、それらを飾ったりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

（ｱ）経験したことや思ったこと、材料などを基に、表したいことや表し方を考えて、発想や構想をすること。

（ｲ）材料や用具の扱いに親しみ、表したいことに合わせて、表し方を工夫し、材料や用具を選んで使い表すこと。

〔共通事項〕

ア　「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

（ｱ）形や色彩、材料や光などの特徴について知ること。

（ｲ）造形的な特徴などからイメージをもつこと。

（下線）　…「知識及び技能」のうちの「知識」に関する内容
（二重下線）…「知識及び技能」のうちの「技能」に関する内容
（波線）　…「思考力、判断力、表現力等」に関する内容

２　以下の【観点ごとのポイント】を踏まえ、「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する。

○「知識・技能」のポイント

「知識」の評価については、各段階の評価の観点及びその趣旨を「対象や事象を捉える造形的な視点について気付いている」としており、具体的には〔共通事項〕の内容を示している。評価基準の作成では、〔共通事項〕アの「(ｱ) 形や色彩、材料や光などの特徴について知ること」について文末を「～知っている」と示すことで、評価基準を作成することができる。

なお、「知識」の評価基準の作成に当たっては、「特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説各教科等編」の第４章の第５節の４（１）において、「アの(ｱ)では、形や色彩、材料や光などの造形の要素に着目して実感を伴いながら理解すること、アの(ｲ)は、対象などの部分にとらわれて見るのではなく全体を大きく見る視点からイメージを捉えられるように表現及び鑑賞の各活動に位置づけ、指導計画を作成する必要がある。」としていることに留意する。ここでの知識は単に新たな事柄として知ることや言葉を暗記することに終始するものではないことを示している。そのため、「知識」の評価を行う際には、〔共通事項〕の(ｱ)の指導事項に示されている「知ること」とは、生徒一人一人の造形的な視点を豊かにするために、形や色彩、材料や光などの特徴や、それらが感情にもたらす効果などから、対象や事象から豊かなイメージを捉えるということを踏まえ、実感的に知る状況を見取るようにすることが大切である。

「技能」の評価については、評価の観点及びその趣旨を「材料や用具の扱い方に親しむとともに、表し方を工夫する技能を身に付けている」としており、具体的には「A 表現」アの(ｲ)の内容を示している。評価規準の作成では、「A 表現」アの(ｲ)の「材料や用具の扱いに親しみ、表したいことに合わせて、表し方を工夫し、材料や用具を選んで使い表すこと」について「～表している」と示すことで、評価規準を作成することができる。

○「思考・判断・表現」のポイント

「思考・判断・表現」については、評価の観点及びその趣旨を「造形的な特徴などからイメージをもちながら、造形的なよさや面白さ、表したいことや表し方などについて考えるとともに、経験したことや思ったこと、材料などを基に、発想し構想したり、身近にある造形や作品などから、自

分の見方や感じ方を広げたりしている」としており、具体的には「A 表現」アの(ｱ)〔共通事項〕アの(ｲ)の内容を示している。評価基準の作成では、〔共通事項〕ア(ｲ)に続けて「A 表現」ア(ｱ)を示し、〔共通事項〕アの(ｲ)の「自分のイメージをもつ」を「自分のイメージをもちながら、」と示す。「A 表現」アの(ｱ)は「経験したことや思ったこと、材料などを基に、表したいことや表し方を考えて、発想や構想をすること」について「～している」と示すことで、評価規準を作成することができる。

〇主体的に学習に取り組む態度」のポイント

「主体的に学習に取り組む態度」については、観点及びその趣旨を「創造活動の喜びを味わい楽しく表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている」としており、題材において設定した「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力を、生徒が学習活動の中で楽しく身に付けようとしたり、発揮しようとしたりすることへ向かう態度を評価することになる。その際、よりよい表現を目指して構想や技能を工夫改善し、粘り強く取り組む態度などに着目することが大切である。また、評価の観点及びその趣旨に示されている「創造活動の喜び」は、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」が相互に関連する中で味わうものであることに留意する必要がある。

〔３〕　美術科における指導と評価の一体化を目指して

１　指導と評価のポイント

美術科では、「知識・技能」は、「造形的な視点を豊かにするための知識」と「創造的に表す技能」とに整理していることから二つに分けて示しています。また、「思考・判断・表現」は、「A 表現」において育成する発想や構想に関する資質・能力と「B 鑑賞」において育成する鑑賞に関する資質・能力とに整理していますが、発想や構想と鑑賞の双方に重なる資質・能力の育成を重視していることからまとめて示しています。

２　指導と評価の一連の流れ

中学部 2 段階の事例を通して、指導と評価の一連の流れについて説明します。

【事例 12】中学部第２学年　美術科　２段階

1　単元名　　「水墨画」

2　内容のまとまり（２段階）　　※　学習評価参考資料　P113 参照

「A 表現」アの(ｱ)、「B 鑑賞」アの(ｱ)

3　単元の目標

（1）・造形的な視点について理解している。
・材料や用具の扱い方などを身に付けるとともに、多様な表し方を工夫する技能を身に付けている。

〔知識及び技能〕

（2）・造形的な特徴などからイメージを捉えながら、造形的なよさや面白さ、美しさ、表したいことや表し方などについて考えるとともに、経験したことや想像したこと、材料などを基に、発想し構想したり、自分たちの作品や美術作品などに親しみ自分の見方や感じ方を深めたりしている。

〔思考力、判断力、表現力等〕

（3）・創造活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

〔学びに向かう力、人間性等〕

4　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
造形的な視点について理解している。 材料や用具の扱い方などを身に付けるとともに、多様な表し方を工夫する技能を身に付けている。	造形的な特徴などからイメージを捉えながら、造形的なよさや面白さ、美しさ、表したいことや表し方などについて考えるとともに、経験したことや想像したこと、材料などを基に、発想し構想したり、自分たちの作品や美術作品などに親しみ自分の見方や感じ方を深めたりしている。	創造活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

5　児童・生徒の実態等

生徒	生徒の実態	重点とする指導事項	手だて
A	・手本や参考作品を見て、自分の表現をしようと試行錯誤する様子がある。 ・材料の用途が分かり、新しい素材を積極的に使おうとする。 ・形や色彩に着目し、「これは○○」とイメージして描こうとする。	・学校の中の景色を撮影し、自分の表したいものを決めて制作する。 ・墨を使った技法や、材料と道具の用途を理解し、特徴を生かした表現を工夫する。	・伊藤若冲等の墨絵を提示し、モチーフの特徴をとらえたり表したりする作例を示す。 ・試しの時間を設けて、材料の特徴や筆の持ち方による表現の違いを理解しできるようにする。 ・描きたいものを撮影し、立体から平面の構図の中で色の濃淡を考える等構想を練る手立てにする。
（略）			

6　単元の流れ（６時間扱い）

時	学習活動	指導上の留意点	評価の観点・評価方法等
第一次（1～3）	・彩色や濃淡を生かした表現を知る。 ・教室にある物を選んで描く。 ・表現に応じた用具の使い方で描く。	・形や色彩、造形の要素の働きを捉えさせるようにする。 ・モチーフを GIGA 端末で撮影し、立体から平面に構図を起こす。 ・墨の濃淡、筆の持ち方と動かし方による違いを指導し、イメージに応じた道具の扱いから表現を導く。	**〔知識・技能〕** ・墨の濃淡をつけて描くことや筆を扱う様子等の観察 **〔思考・判断・表現〕** ・技法を試したり、工夫して描いたりする様子等の観察 **〔主体的に学習に取り組む態度〕** ・モチーフを選び構想を練る様子等の観察
第二次（4～6）	・構図や墨の濃淡を用いた表現を知る。 ・学校の中で描きたいものを決める。 ・付け立て、破墨等の技法で表現を広げ、工夫して描く。	・鑑賞では自分の作品に生かせるところを見つけるよう促す。 ・モチーフを探す範囲を校内へ広げ、前段階の制作を踏まえて指導する。 ・材料や用具の準備は生徒が行うようにし、作品に応じた道具を選び、工夫して制作する機会を設定する。	**〔知識・技能〕** ・墨の技法を使って描くことや、材料と道具を選ぶ様子等の観察 **〔思考・判断・表現〕** ・作例から技法を試したり、工夫して描いたりする様子等の観察 **〔主体的に学習に取り組む態度〕** ・モチーフを選び構想を練って取り組む様子等の観察

7　評価の実際

（1）「知識・技能」の評価

・参考作品を見て、「こっちの方が黒いよ。」等、濃淡の違いに気付き、自分でも墨に混ぜる水の量を変えて描いていた。

・新しい技法にも積極的に取り組み、特に付け立ては興味が高く、繰り返しグラデーションを作った技法を自分の作品にも取り入れた。

・授業の始めには、製作途中の作品を見てから「濃い墨をください。」と材料を準備する等、効果的に表すための素材や技法を選択する様子が見られた。

（2）「思考・判断・表現」の評価

・好きなモチーフを何枚も撮影するうち、物の位置や写真を撮る距離を変えて、絵に描く際のことを考えて写真を撮るようになった。撮影した、好きなものが詰まった写真を見返し、楽しくモチーフを選んでいた。描く時には授業の始めに提示した作品を参考に、表し方をまねたり、技法を試したりしていた。

・明るい所は水や薄墨で塗り、色の濃い場所は墨を薄めずに暗くする、柔らかい所は薄墨を丁寧ににじませる等、表現したいことに合わせて塗り方や順番を考え制作していた。

（3）主体的に学習に取り組む態度

・映像による作品紹介や、実物を使った技法の手本をよく見ていた。参考作品や友達の作品を鑑賞し、色や描き方を自分の作品へ取り入れていた。

・新しい技法への意欲も高く、すぐに何枚も試して描く様子が見られた。単元の後半は特に夢中になって取り組み、「もっと描く。」と言って授業終了間際まで描き続けていた。

8　観点別学習状況の評価の総括

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生徒A	墨の濃淡を生かした表現を知り、墨に混ぜる水の量を変えてグラデーションを作りました。にじませたり、かすれさせたりする技法を取り入れ、表し方を工夫しました。	校内で好きな場所を見付け、描きたいモチーフを決めました。写真を見て構想し、鑑賞した作品を参考に、色の薄い所は薄墨で描くなど、イメージに合わせて作品を仕上げました。	付け立て等新しい技法に意欲が高く、鑑賞した作品から濃淡の違いを見つける等、気付いた表し方を自分の作品へ取り入れる様子が見られました。授業の終わり間際まで夢中になって描きました。

中学部　保健体育

〔１〕保健体育科における評価について

１　中学部　保健体育科の「目標」

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
（1）各種の運動の特性に応じた技能等及び自分の生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。
（2）各種の運動や健康・安全についての自分の課題を見付け、その解決に向けて自ら思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
（3）生涯にわたって運動に親しむことや健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

特別支援学校学習指導要領には、この目標に基づき、１段階から２段階までの目標と内容が示されています。

２　中学部保健体育科の「評価の観点及びその趣旨」

保健体育科において育成を目指す資質・能力が身に付いている生徒の姿です。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	各種の運動の特性に応じた技能等を理解しているとともに、基本的な技能を身に付けている。また、自分の生活における健康・安全について理解しているとともに、基本的な技能を身に付けている。	各種の運動についての自分の課題を見付け、その解決に向けて自ら思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。また、健康・安全についての自分の課題を見付け、その解決に向けて、自ら思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動に進んで取り組もうとしている。また、健康を大切にし、自己の健康の保持増進に進んで取り組もうとしている。

参考：【30 文科初第 1845 号　改善等通知　別紙４　１－２　体育・保健体育（１）＜中学部保健体育＞】

学習評価参考資料には、保健体育科の１段階から２段階までの「評価の観点及びその趣旨」が示されています。中学部２段階を例示します。

【中学部　２段階】

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	・各種の運動の楽しさや喜びを味わい、その特性の応じた行い方について理解し、基本的な技能を身に付けている。 ・体の発育・発達やけがの防止、病気の予防などの仕方について理解し、基本的な技能を身に付けている。	・各種の運動における自分やグループの課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えている。 ・健康な生活における自分やグループの課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えている。	・各種の運動に積極的に取り組み、きまりや簡単なスポーツのルールなどを守り、友達と助け合ったり、場や用具の安全に留意したりし、自己の最善を尽くして、運動しようとしている。 ・健康・安全の大切さに気付き、自己の健康の保持増進と回復に進んで取り組もうとしている。

参考：学習評価参考資料

３　中学部保健体育科における「内容のまとまり」

中学部保健体育科における内容のまとまりは、以下のようになっている。
〔１段階及び２段階〕
Ａ　体つくり運動　　Ｂ　器械運動　　Ｃ　陸上運動　　Ｄ　水泳運動
Ｅ　球技　　Ｆ　武道　　Ｇ　ダンス　　Ｈ　保健

〔２〕　「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する際の基本的な手順

体育科においては、特別支援学校学習指導要領の「２　内容」の記載は、そのまま学習指導の目標となりうるものです。育成を目指す資質・能力（指導事項）の文末を、「～すること」から「～している」と変更することで、「内容のまとまりごとの評価規準」となります。

体育科では､｢内容のまとまりごとの評価規準｣を単元の評価規準とすることができます｡ここでは、中学部２段階、「Ｂ　器械運動」を例示します。

１　各教科における「内容のまとまり」と「評価の観点」との関係を確認する。

器械運動について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　器械運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解し、基本的な技を身に付けること。【知識及び技能に関する内容】

イ　器械運動についての自分やグループの課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。【思考力、判断力、表現力等に関する内容】

ウ　器械運動に積極的に取り組み、きまりを守り、友達と助け合ったり、場や器械・器具の安全に留意したりし、自己の力を発揮して運動をすること。【学びに向かう力、人間性等に関する内容】

２　以下の【観点ごとのポイント】を踏まえ，「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する。

○「知識・技能」のポイント

・「知識」については、学習指導要領の内容の「ア 器械運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解し、基本的な技を身に付けること。」の「その行い方を知り」と示している部分が該当し、評価規準は、「～の行い方を理解している。」として作成することができる。

・「技能」については、「基本的な動きを身に付ける」と示している部分が該当し、評価規準は、「～の基本的な動きを身に付けている。」として作成することができる。

○「思考・判断・表現」のポイント

・「思考・判断」については、学習指導要領の内容の「イ 器械運動についての自分やグループの課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。」の「器械運動についての自分やグループの課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したり」と示している部分が該当し、評価規準は、「器械運動についての自分やグループの課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしている。」として作成することができる。

・「表現」については「考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること」と示している部分が該当し、評価規準は「考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えている」として作成することができる。

○「主体的に学習に取り組む態度」のポイント

・「主体的に学習に取り組む態度」については、学習指導要領の内容の「ウ 器械運動に積極的に取り組み、きまりを守り、友達と助け合ったり、場や器械・器具の安全に留意したりし、自己の力を発揮して運動をすること。」のすべてが該当し、評価規準は、「器械運動に積極的に取り組み、きまりを守り、友達と助け合おうとしたり、場や器械・器具の安全に留意しようとしたりし、自己の力を発揮して運動をしようとしている。」として作成することができる。

〔３〕　体育科における指導と評価の一体化を目指して

１　指導と評価のポイント

体育科では、年間指導計画を基に、当該単元で取り上げて指導する指導事項等から、身に付けさせたい力を明確にします。そして、その指導事項等を指導するのに最適な学習課程を設定し、単元の目標を確定します。その上で、単元の評価規準を設定し、評価の時期や場面、方法を精選し、単元のどの段階でどの評価規準に基づいて評価するかを決めていくことが大切です。

２　指導と評価の一連の流れ

２段階の事例を通して、指導と評価の一連の流れについて説明します。

【事例 13】中学部第３学年　保健体育科　２段階

1　単元名　　器械運動（平均台）

2　内容のまとまり（２段階）　　※　学習評価参考資料　P121 参照

B　器械運動

3　単元の目標

（1）器械運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解し、基本的な技を身に付けることができる。

〔知識及び技能〕

（2）器械運動についての自分やグループの課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えることができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕

（3）器械運動に積極的に取り組み、きまりを守り、友達と助け合ったり、場や器械・器具の安全に留意したりし、自己の力を発揮して運動をすることができる。

〔学びに向かう力、人間性等〕

4　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①器械運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解している。 ②器械運動の基本的な技を身に付けている。	①器械運動についての自分やグループの課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしている。 ②考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えている。	①器械運動に積極的に取り組み、きまりを守り、友達と助け合おうとしたり、場や器械・器具の安全に留意しようとしたりし、自己の力を発揮して運動をしようとしている。

5　児童・生徒の実態等

児童	生徒の実態	重点とする指導事項	手だて
A	身体機能は高く、平均台に対しての苦手意識や恐怖心はない。その一方で、丁寧さに欠け、安全面に関して留意する必要がある。	・平均台上での技に、丁寧に取り組むことができる。 ・技が思い通りいかなかった際も、感情的にならずに、課題に向き合うことができる。 ・他者から伝えられた課題を、受け入れることができる。	・まずはフロアのライン上で取り組み、身体の動かし方について具体的に伝え、徐々に言葉かけを少なくしていく。 ・振り返りの時間を作り、その中で他者から意見をもらう時間を設けることで、受け入れやすい環境を設定する。 ・課題解決に向けて、他者からの助言を素直に受け入れて取り入れた際には、大いに称賛する。
（略）			

6　単元の流れ（１２時間扱い）

時	学習活動	指導上の留意点	評価の観点・評価方法等
第一次（2時間）	基本の動き ○体操系 ・前方歩　・着地 ○バランス系 ・停止　・方向転換	・技としての動きまでは求めず、平均台上での基本的な動きを確認する。 ・準備や片付けの際の、気を付けるべき点を明確に示し、本次以降、自分たちで留意して取り組めるようにする。	**〔知識・技能〕** **①②（行動観察）** **〔思考・判断・表現〕** **①（行動観察）** **〔主体的に学習に取り組む態度〕** **①（行動観察）**
第二次（6時間）	基本の技（体操系） ・前方歩　・後方歩 ・跳躍（伸身／開脚） 基本の技（バランス系） ・ポーズ（両足／片足） ・ターン（両足／片足）	・部位の動かし方を、明確に伝える。 ・取り組みの様子を、生徒がＧＩＧＡ端末で撮影し、振り返りに活用できるようにする。 ・振り返りの時間を設け、自身及び他者の課題と向き合える環境を設定する。	**〔知識・技能〕** **①②（行動観察）** **〔思考・判断・表現〕** **①②（行動観察）** **①（ワークシート）** **〔主体的に学習に取り組む態度〕** **①（行動観察）**
第三次（4時間）	連続した基本の技 ・歩走　・ポーズ ・ターン　・跳躍	・生徒自身が自分の実態に合った技を選択できるよう、助言をする。 ・安全のため、まずはフロアライン上で取り組む。 ・取り組みの様子を、生徒がＧＩＧＡ端末で撮影し、振り返りに活用できるようにする。 ・振り返りの時間を設け、自身及び他者の課題と向き合える環境を設定する。	**〔知識・技能〕** **①②（行動観察）** **〔思考・判断・表現〕** **①②（行動観察）** **①（ワークシート）** **〔主体的に学習に取り組む態度〕** **①（行動観察）**

7　評価の実際

（１）「知識・技能」の評価

・教員からの言葉掛けを受け、つま先や腕の動きを意識できるようになってきた。

（２）「思考・判断・表現」の評価

・ＧＩＧＡ端末を活用することで、自分の動きを映像として見ることができ、課題となる動きについて、客観的に見付けることが増えた。また、他者の取り組みについても同様に、課題点を伝えることができるようになってきた。

（３）主体的に学習に取り組む態度

・活動において、安全さよりも、速く取り組もうとする意識の方が強かったが、安全に気を付けてゆっくり取り組む姿勢もみられるようになった。

8　観点別学習状況の評価の総括

	知識･技能	思考･判断･表現	主体的に学習に取り組む態度
児童A	・教員の手本をよく見て模倣していました。 ・教員の支援を受けながら、体の細部まで丁寧に動かして活動に取り組めることができるようになってきました。	・振り返りの時間を設けることで、映像として客観的に自分を見ることができ、課題に気付けることが増えました。 ・他者の課題についても、同様に気付けることが増えてきました。	・少しずつ、速さだけを意識せずに取り組むようになってきました。 ・安全に留意して、他者と協力して、準備や片付けに取り組むことができました。 ・他者からの助言を受け入れる姿勢が見られました。

中学部　職業・家庭

〔１〕職業・家庭科における評価について

１　中学部職業・家庭科の「目標」

生活の営みに係る見方・考え方や職業の見方・考え方を働かせ、生活や職業に関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現に向けて工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

（１）　生活や職業に対する関心を高め、将来の家庭生活や職業生活に係る基礎的な知識や技能を身に付けるようにする。

（２）　将来の家庭生活や職業生活に必要な事柄を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、自分の考えを表現するなどして、課題を解決する力を養う。

（３）　よりよい家庭生活や将来の職業生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとする実践的な態度を養う。

特別支援学校学習指導要領には、この目標に基づき、１段階から２段階までの目標と内容が示されています。

２　中学部職業・家庭科の「評価の観点及びその趣旨」

職業・家庭科において育成を目指す資質・能力が身に付いている児童の姿です。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	将来の家庭生活や職業生活に係る基礎的な知識や技能を身に付けている。	将来の家庭生活や職業生活に必要な事柄を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、自分の考えを表現するなどして、課題を解決する力を身に付けている。	よりよい家庭生活や将来の職業生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとしたりして、実践しようとしている。

参考：【30 文科初第 1845 号　改善等通知　別紙４　１－２　職業・家庭＜中学部　職業・家庭＞】

学習評価参考資料には、職業・家庭科の１段階から２段階までの「評価の観点及びその趣旨」が示されています。中学部２段階を例示します。

【中学部　２段階】

職業分野

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	働くことに対する関心を高めているとともに、将来の職業生活に係る基礎的な知識や技能を身に付けている。	将来の職業生活に必要な事柄を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践し、学習したことを振り返り、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を身に付けている。	将来の職業生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとしたりして、実践しようとしている。

家庭分野

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	家族や自分の役割について理解していて、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解が図られているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	家庭生活に必要な事柄について考え、課題を設定し、解決策を考え、実践し、学習したことを振り返り、考えたことを実現するなど、日常生活において課題を解決する力を身に付けている。	家族や地域の人々とのやりとりを通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとしたりして、実践しようとしている。

参考：学習評価参考資料

3　中学部職業・家庭科における「内容のまとまり」

〔職業分野〕
「A　職業生活」ア　働くことの意義
「A　職業生活」イ　職業
「B　情報機器の活用」
「C　産業現場等における実習」

〔家庭分野〕
「A　家族・家庭生活」ア　自分の成長家族
「A　家族・家庭生活」イ　家庭生活と役割
「A　家族・家庭生活」ウ　家庭生活における余暇
「A　家族・家庭生活」エ　幼児の生活と家族（１段階のみの設定）
「A　家族・家庭生活」エ　家族や地域の人々との関わり（２段階のみの設定）
「B　衣食住の生活」ア　食事の役割
「B　衣食住の生活」イ　栄養を考えた食事（２段階のみの設定）
「B　衣食住の生活」イ　（２段階はウ）　調理の基礎
「B　衣食住の生活」ウ　（２段階はエ）　衣服の着用と手入れ
「B　衣食住の生活」エ　快適な住まい方（１段階のみの設定）
「B　衣食住の生活」オ　快適で安全な住まい方（２段階のみの設定）
「C　消費生活・環境」ア　身近な消費生活
「C　消費生活・環境」イ　環境に配慮した生活

〔２〕　「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する際の基本的な手順

第１段階「B　情報機器の活用」を例にとってみていきましょう。

1　各教科における「内容のまとまり」と「評価の観点」との関係を確認する。

特別支援学校中学部学習指導要領　職業・家庭　１段階【職業分野】「B　情報機器の活用」の記載

職業生活で使われるコンピュータ等の情報機器に触れることなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　コンピュータ等の情報機器の初歩的な操作の仕方を知ること。
イ　コンピュータ等の情報機器に触れ、体験したことなどを他者に伝えること。

（下線）…知識及び技能に関する内容
（波線）…思考力、判断力、表現力等に関する内容

2　以下の【観点ごとのポイント】を踏まえ，「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する。

○「知識・技能」のポイント
・ここでの評価規準は、基本的には当該項目で育成を目指す資質・能力に該当する指導事項（ｱ）について（職業分野「B　情報機器の活用」、「C　産業現場等における実習」のみア）、その文末を教科の観点の趣旨に基づき、「～を知っている。」などとして作成する。
○「思考・判断・表現」のポイント
・ここでの評価規準は、基本的には当該項目で育成を目指す資質・能力に該当する指導事項（ｲ）について（職業分野「B　情報機器の活用」、「C　産業現場等における実習」のみイ）、その文末を教科の観点に基づき、「～について考えている。」などとして作成する。
○「主体的に学習に取り組む態度」のポイント
・この観点は、粘り強さ（知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている側面）、自らの学習の調整（粘り強い取り組みの中で自らの学習を調整しようとする側面）に加え、これらの学びの経験を通して

涵養された、生活を工夫し考えようとする態度について評価する。
・ここでの評価規準は、基本的には、教科の観点の趣旨に基づき、当該項目の指導事項（ｱ)、(ｲ)（職業分野「Ｂ　情報機器の活用」、「Ｃ　産業現場等における実習」のみア、イ）に示された資質・能力を育成する学習活動を踏まえて、文末を「～しようとしている」として作成する。

〔３〕　職業・家庭科における指導と評価の一体化を目指して

１　指導と評価のポイント

職業・家庭科（職業分野）では、将来的に、社会人や職業人として自立できるようにしていくこと、また、職業生活を健やかに維持できるようになることが大切です。評価に当たっては、「題材の目標」及び「題材の評価規準」を作成した上で、題材の評価規準を学習活動に即して具体化することが必要となります。

２　指導と評価の一連の流れ

２段階の事例を通して、指導と評価の一連の流れについて説明します。

【事例 14】中学部第２学年　職業・家庭科〔職業分野〕２段階

1　単元名　　働くことの意味を考えよう

2　内容のまとまり（２段階）　　※　学習評価参考資料　P132 参照

〔職業分野〕
「A　職業生活」　ア　働くことの意義

3　単元の目標

（1）働くことの目的などを理解する。
〔知識及び技能〕

（2）意欲や見通しをもって取り組み、自分と他者との関係や役割について考える。
〔思考力、判断力、表現力等〕

（3）よりよい将来の職業生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとしたりして、実践しようとする。
〔学びに向かう力、人間性等〕

4　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
働くことの目的などを理解している。	意欲や見通しをもって取り組み、自分と他者との関係や役割について考えている。	よりよい将来の職業生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとしたりして、実践しようとしている。

5　児童・生徒の実態等

児童	児童の実態	重点とする指導事項	手だて
A	・コミュニケーションは、音声での簡単な質疑応答ができ、漢字の読み書きができる。普段の生活の中で楽しみなことを人に話す様子がよく見られる。 ・多くの授業に興味・関心をもっていて意欲的に取り組んでいる。一方で、失敗することに敏感でうまくいかないと感じたことに対してすぐに苦手意識をもつことがある。	・様々な職業があることを知り、社会の一員として役割を果たしていくことの大切さについて理解する。 ・他者と協力することについて考え、今後の学習に生かす。	・就業体験等これまでの学習活動や登下校等普段の生活の中から考えるよう促す。 ・様々な職業が社会の中でどのような役割を担っているか、意見交換の場を設定することで、多くの意見に触れて理解できるようにする。 ・これまでの学習活動を振り返るよう促す。具体的に何を頑張るかをワークシートに書いて意識できるようにする。
（略）			

6　単元の流れ（４時間扱い）

時	学習活動	指導上の留意点	評価の観点・評価方法等
第一次（1～2）	【様々な職業について知る】 ・就業体験で経験した職業を含め、身の回りの職業を考え、思いついたことを付箋に記入する。 ・同じグループの友達と付箋を共有し、各職業の内容について意見交換をする。 ・各職業が社会の中でどのように役に立っているか、グループで考え、発表する。	・働くことが社会に貢献することにつながること等の理解を促すために、まずはどんな職業があるか考える時間を設定する。 ・働くことで社会の一員として役割を果たしていく大切さを考えられるよう、まずは様々な職業が社会の中でどのような役割を担っているか、考える時間を設定する。 ・個人で考えたことを意見交換や発表学習等をすることで、深められるようにする。	**〔知識・技能〕** ・身の回りの職業を挙げて、各職業が社会の中でどのように役立っているかを考えたり発表したりする様子を観察。 **〔思考・判断・表現〕** ・様々な職業が果たしている役割を理解している様子の観察。 **〔主体的に学習に取り組む態度〕** ・グループでの意見交換に参加している様子を観察。
第二次（3～4）	【役割分担の大切さを考える】 ・作業学習や就業体験で経験した事柄などから、職場の人と協力して仕事をするために、心掛けることについて考え、発表する。 ・他者と協力して仕事を行うために、望ましい関わり方や態度について考える。 ・学習を踏まえ、自分が今後実践したいことについて考え、ワークシートに記入する。	・自分の仕事と他者の仕事の分担や、関連について理解を深めるために、他者と協力して仕事をする上で、難しいこと、改善するための方法について、ワークシートを活用して考えられるようにする。 ・相手の心情を知り，望ましい関わり方や態度について考える力を育成するために、協力する相手の気持ちについて、コミック会話及びロールプレイを通じて考えられるようにする。 ・社会の役に立つ大人になるために、ワークシートを活用し、学習を踏まえて今後頑張りたいことや挑戦したいことを考え、生かせるようにする。	**〔知識・技能〕** ・仕事をする目的についてワークシートに記入したり発言したりする様子の観察。 **〔思考・判断・表現〕** ・協力して仕事するために心掛けることや望ましい関わり方や態度を考えたり、発表したりする様子の観察。 **〔主体的に学習に取り組む態度〕** ・ワークシートへの記入内容の確認。

7　評価の実際

（１）「知識・技能」の評価

・「身の回りの仕事について思い浮かぶものは何か。」という投げかけに対して、「パン屋」、「（飴の）箱詰め」（過去に職場体験や就業体験で経験した仕事）と付箋に書いていた。
・作業学習や就業体験を振り返り、仕事をすることの大変さや、達成感について考え、働く目的についてグループで意見交換していた。
・就業体験で経験した仕事が、社会の中でどのように役に立っているのか、教員とのやり取りの中で気付いていた。

（２）「思考・判断・表現」の評価

・仕事の一場面の吹き出しに言葉を入れる課題には、「おねがいします。」「教えてください。」といった、場面に応じた適切な言葉を選択肢から選んで書いていた。
・他者と協力して仕事することに対して、飴を３人で分担して箱詰めをする役割を果たしたことを教員と一緒に振り返ることができた。

（３）主体的に学習に取り組む態度

・学習を通して、これから頑張りたいことを問われると、将来の目標として「パン屋さんになりたい。」と発言していた。
・パン屋になるために頑張ることについて問われると、ワークシートに記入したことを参考にして、「自ら挨拶する」、「気持ちを落ち着けて取り組む」、「困ったときは相談する。」という発言があった。

年　　組　　名前

◆協力して仕事をするために、必要なことを書きましょう。

◆これからの学習で頑張ることを書きましょう。

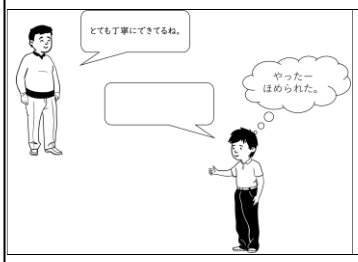
◆次のイラストを見て、吹き出しに言葉を書こう。

・お願いします。
・ありがとうございます。
・申し訳ございません。
・教えてください。
・おはようございます。

◆次のイラストを見て、吹き出しに言葉を書こう。

・お願いします。
・ありがとうございます。
・申し訳ございません。
・教えてください。
・おはようございます。

◆次のイラストを見て、吹き出しに言葉を書こう。



・お願いします。
・ありがとうございます。
・申し訳ございません。
・教えてください。
・おはようございます。

8　観点別学習状況の評価の総括

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
児童A	就業体験での経験を通して、働くことが社会の中でどのように役に立っているのか、理解することができました。	就業体験や作業学習で分担して作業したことを思い出し、協力して仕事するために、自分の役割を果たすことの良さに気付いていました。	協力して仕事するために、「お願いします。」「ありがとうございます。」と言葉を掛けることや、挨拶をすることが大切であると考えて、発言していました。

中学部　外国語

〔１〕外国語科における評価について

１　中学部　外国語科の「目標」

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語の音声や基本的な表現に触れる活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

（１）外国語を用いた体験的な活動を通して、身近な生活で見聞きする外国語に興味や関心をもち、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。

（２）身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝えあう力の素地を養う。

（３）外国語を通して、外国語やその背景にある文化の多様性を知り、相手に配慮しながらコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

２　中学部外国語科の「評価の観点及びその趣旨」

外国語科において育成を目指す資質・能力が身に付いている児童の姿です。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	外国語を用いた体験的な活動を通して、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しんでいる。	身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。	外国語を通して、外国語やその背景にある文化の多様性を知り、相手に配慮しながらコミュニケーションを図ろうとしている。

参考：【30 文科初第 1845 号　改善等通知　　別紙４　＜中学部 外国語＞】

３　中学部外国語科における「内容のまとまり」

知的障害者である生徒に対する教育を行う特別支援学校の中学部外国語科の言語「英語」における「内容のまとまり」は、３の①に示されている「五つの領域」のことであり、以下のようになっている。

ア　聞くこと
イ　話すこと［発表］
ウ　話すこと［やり取り］
エ　書くこと
オ　読むこと

〔２〕　「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する際の基本的な手順

（１）外国語科における「内容のまとまり」と「評価の観点」との関係を確認します。
外国語科における「内容のまとまり」は、五つの領域（「聞くこと」「読むこと」「話すこと［やり取り］」「話すこと［発表］」「書くこと」）です。

（２）以下の【観点ごとのポイント】を踏まえ、「内容のまとまり（五つの領域）ごとの評価規準」を作成します。

１　各教科における「内容のまとまり」と「評価の観点」との関係を確認する。

外国語科の言語「英語」における「内容のまとまり」

２　内容　〔英語〕 〔知識及び技能〕 （１）英語の特徴等に関する事項	〔思考力、判断力、表現力等〕 （２）情報を整理し、表現したり、伝え合ったりすることに関する事項

	（３）言語活動及び言語の働きに関する事項 ①　言語活動に関する事項 ア　聞くこと イ　話すこと［発表］ ウ　話すこと［やり取り］ エ　書くこと オ　読むこと ②　言語の働きに関する事項

※　「内容のまとまり」は、太線の枠囲み部分となる。

※　外国語科では、〔思考力、判断力、表現力等〕の（2）に示す事項については、〔知識及び技能〕の（1）に示す事項を活用して、（3）の①に示す言語活動を通して指導することとなっている。また、言語活動を行うに当たり、（3）の②に示す言語の使用場面や言語の働きを取り上げるように示している。

「評価の観点」

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

つまり、〔知識及び技能〕は「知識・技能」、〔思考力、判断力、表現力等〕は「思考・判断・表現」と対応している。

2　以下の【観点ごとのポイント】を踏まえ，「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する。

〇「知識・技能」のポイント

・基本的に、当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する〔知識及び技能〕の指導事項について、その文末を「～している。」として、「知識・技能」の評価規準を作成する。なお、育成したい資質・能力に照らして、指導事項の一部を用いて評価規準を作成することもある。

〇「思考・判断・表現」のポイント

・基本的に、当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する〔思考力、判断力、表現力等〕の指導事項について、その文末を「～している。」として、「思考・判断・表現」の評価規準を作成する。なお、育成したい資質・能力に照らして、指導事項の一部を用いて評価規準を作成することもある。

・評価規準の冒頭には、当該単元で指導する領域を「（領域名を入れる）において、」と明記する。

〇「主体的に学習に取り組む態度」のポイント

・第１編で説明されているように、①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と、②①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面の双方を適切に評価できる評価規準を作成する。文末は「～しようとしている。」とする。「評価の観点及びその趣旨」においては、主として、①に関しては「外国語やその背景人ある文化の多様性を知り」、②に関しては「相手に配慮しながらコミュニケーションを図ろうとしている」が対応する。①、②を踏まえ、当該単元で育成する資質・能力と言語活動に応じて文言を作成する。

〔３〕　外国語科における指導と評価の一体化を目指して

1　指導と評価のポイント

外国語科では、学習指導要領においては言語「英語」の目標を五つの領域別で示しており、学年ごとの目標を示していません。このため、「外国語科の目標」、「五つの領域別の目標」、「内容のまとまりごとの評価規準」等に基づき、各学校が生徒の発達の段階と実情を踏まえ、「学年ごとの目標」を設定した上で、「単元ごとの目標」及び「単元ごとの評価規準」を作成することが大切です。

2　指導と評価の一連の流れ

中学部第２学年の事例を通して、指導と評価の一連の流れについて説明します。

【事例】中学部第２学年　外国語科

1　単元名　　好きなものを伝えよう

2　内容のまとまり　　※　学習評価参考資料　P141 参照

イ　話すこと［発表］（ア）

3　単元の目標

（1）　基本的な表現や語句が表す内容を知り、それらを使うことで相手に伝わることを感じ取る。
〔知識及び技能〕

（2）「話すこと」において、日常生活に関する簡単な事柄について、伝えたいことを考え、簡単な語などや基本的な表現を使って伝え合う。
〔思考力、判断力、表現力等〕

（3）外国語を知り、相手に配慮しながらコミュニケーションを図ろうとする。
〔学びに向かう力、人間性等〕

4　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的な表現や語句が表す内容を知り、それらを使うことで相手に伝わることを感じ取っている。	「話すこと」において、日常生活に関する簡単な事柄について、伝えたいことを考え、簡単な語などや基本的な表現を使って伝え合っている。	外国語を知り、相手に配慮しながらコミュニケーションを図ろうとしている。

5　児童・生徒の実態等

児童	児童の実態	重点とする指導事項	手だて
A	・コミュニケーションは 2 語文程度で表現していて、身近な漢字の読み書きができる。 ・「ブルー」「レッド」など日常生活でよく聞く色や数字、挨拶などの英語は理解していて、単語で発することができる。 ・手本を見ることで活動に見通しをもって参加することができる。	・自己紹介で伝えたいことを考えたり、表現を覚えたりして発表し、相手に伝わることを実感する。 ・簡単な表現を使い友達と好きな物を伝え合う。	・好きな物を考えるときには選択肢としてカードを提示することで選べるようにする。 ・自己紹介の表現を決まった話型を提示することで、当てはめて発表できるようにする。 ・カードを貼って聞いたことをボードにまとめられるようにする。
（略）			

6　単元の流れ（５時間扱い）

時	学習活動	指導上の留意点	評価の観点・評価方法等
第一次（1～2）	・英語を聞いて、提示された絵カードの中から正しいものを選ぶ。 ・自分の名前、年齢、好みを簡単な語などや基本的な表現で発表する。	・自己紹介に関わる語を使ったカルタを行い、語の確認をする。 ・自己紹介は決まった話型に沿って発表できるようにする。 ・好みの発表に使う選択肢として、「食べ物」「動物」「色」「乗り物」などのカテゴリーから授業毎に１つを選んで提示する。	**〔知識・技能〕** ・決まった英語表現を使い、自己紹介できているかの観察。 **〔思考・判断・表現〕** ・伝えたいことを考えたり発表したりする様子を観察。 **〔主体的に学習に取り組む態度〕** ・英語を使おうとしている態度を観察。
第二次（3～5）	・自分の名前、年齢、好みを簡単な語などや基本的な表現で発表する。 ・友達の発表を聞き、友達の年齢や好みを聞き取ってボードにまとめる。	・自己紹介は決まった話型に沿って発表できるようにする。 ・好みの発表に使う選択肢として、「食べ物」「動物」「色」「乗り物」などのカテゴリーから授業毎に１つを選んで提示する。 ・発表を聞く側にボードと絵カードを渡しておき、発表を聞きながら、カードを選べるようにすることで、聞いた内容をまとめらえるようにする。	**〔知識・技能〕** ・決まった英語表現を使い、自己紹介できているかの観察。 **〔思考・判断・表現〕** ・発表したり友達のことを知ろうとしたりする様子を観察。 **〔主体的に学習に取り組む態度〕** ・英語で相手に伝えようとしている態度を観察。

7　評価の実際

（１）「知識・技能」の評価

・カードを提示された英語表現に当てはめて、自分の名前、年齢と好きな物を友達に自己紹介していた（図１）。
・自分が発表したことを、友達が正しくボードに再現しているのを見て笑顔になった。

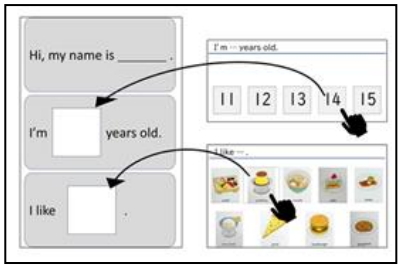


図１　自己紹介カード

（２）「思考・判断・表現」の評価

・自己紹介で友達に伝えたい自分の好きな物を選択肢からプリンを選んでいた。自己紹介カードにある枠に年齢カードとプリンのカードを貼り、自己紹介カードを完成させていた（図１）。
・自己紹介カードをもとに友達に自己紹介していた。
・友達の発表では、友達が話した内容を手元のボードを活用し（図２）、正しく聞き取とってうなずいていた。

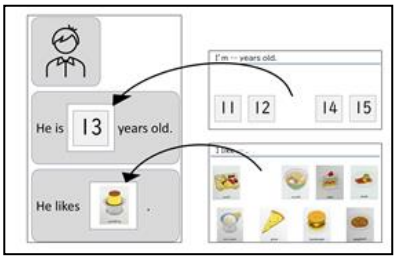


図２　友達の発表を聞いて作成するボード

（３）主体的に学習に取り組む態度

・ネイティブスピーカーが教室に入ってくると英語で挨拶していた。
・自己紹介では相手に伝わるように英語で話すだけでなく、プリンの絵カードを友達に見えるようにして発表していた。当初は「えーっと」などつなぎ言葉が途中に何度もあったり、話型を見ることが多かったりしたが、繰り返し自己紹介する中で表現を覚えようとし、つなぎ言葉がなくなり、相手の方を見て聞き取りやすい話し方で友達に伝えようとしていた。

8　観点別学習状況の評価の総括

	知識･技能	思考･判断･表現	主体的に学習に取り組む態度
児童A	自分の名前、年齢や好きな物を英語で表現し、友達に自己紹介できました。発表したことを友達がボードに再現しているのを見て、伝わったと実感していました。	自己紹介では、自分の好きな物を選び、決まった表現に当てはめ、友達に伝えたり、友達の発表を聞き、友達の好きな物を知ったりすることができました。	ネイティブスピーカーを見かけると自分から英語で挨拶をしていました。自己紹介では相手に伝わるように、絵カードを提示しながら、聞き取りやすい話し方で伝えていました。

高等部　国語

〔１〕国語科における評価について

１　高等部　国語科の「目標」

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で理解し表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

（１）社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
（２）社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
（３）言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語を大切にしてその能力の向上を図る態度を養う。

特別支援学校学習指導要領には、この目標に基づき、１段階から２段階までの目標と内容が示されています。

２　高等部　国語科の「評価の観点及びその趣旨」

国語科において育成を目指す資質・能力が身に付いている生徒の姿です。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。	「聞くこと・話すこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げている。	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを広げたりしながら、言葉がもつよさを認識しようとしているとともに、言語感覚を養い、言葉をよりよく使おうとしている。

参考：【30 文科初第 1845 号　改善等通知
別紙５　１－５　特別支援学校（知的障害）高等部における各学科に共通する各教科の学習の記録＜国語＞】

３　高等部　国語科における「内容のまとまり」

各段階とも、「⑵ 内容」は、〔知識及び技能〕と〔思考力、判断力、表現力等〕の２つの内容のまとまりで示されている。これらのまとまりは、更に以下のように分けられている。

〔知識及び技能〕
（１）言葉の特徴や使い方に関する事項
（２）情報の扱い方に関する事項
（３）我が国の言語文化に関する事項

〔思考力、判断力、表現力等〕
Ａ　聞くこと・話すこと
Ｂ　書くこと
Ｃ　読むこと

〔２〕　「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する際の基本的な手順

国語科においては、特別支援学校学習指導要領「２　内容」の記載は、そのまま学習指導の目標となりうるものです。育成を目指す資質・能力（指導事項）の文末を、「～すること」から「～している」と変更することで、「内容のまとまりごとの評価規準」となります。

国語科では、「内容のまとまりごとの評価規準」を単元の評価規準とすることができます。

1　各教科における「内容のまとまり」と「評価の観点」との関係を確認する。

内容の まとまり	〔知識及び技能〕 （１）言葉の特徴や使い方に関する事項 （２）情報の扱い方に関する事項 （３）我が国の言語文化に関する事項	〔思考力、判断力、表現力等〕 A　聞くこと・話すこと B　書くこと C　読むこと	該当する指導事項は示されていない（目標ウを参考にする）
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

※　〔知識及び技能〕は「知識・技能」、〔思考力・判断力、表現力等〕は、「思考・判断・表現」と対応しています。

2　以下の【観点ごとのポイント】を踏まえ、「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する。

各段階に示された指導内容を身に付けることができるよう指導することを基本とする。

○「知識・技能」のポイント

・基本的に、当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する〔知識及び技能〕の指導事項について、その文末を「～している。」として、「知識・技能」の評価規準を作成する。なお、育成したい資質・能力に照らして、指導事項の一部を用いて評価規準を作成することもある。

○「思考・判断・表現」のポイント

・基本的に、当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する〔思考力、判断力、表現力等〕の指導事項について、その文末を「～している。」として、「思考・判断・表現」の評価規準を作成する。なお、育成したい資質・能力に照らして、指導事項の一部を用いて評価規準を作成することもある。

・評価規準の冒頭には、当該単元で指導する一領域を「（領域名を入れる）において、」と明記する。

○「主体的に学習に取り組む態度」のポイント

・①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と、②①の粘り強い取組を行うなかで、自らの学習を調整しようとする側面の双方を適切に評価できる評価規準を作成する。文末は「～しようとしている。」とする。「段階別の評価の観点の趣旨」においては、主として、①に関しては「言葉を通じて積極的に人と関わったり」、②に関しては「思いをもったりしながら」、「思いや考えをもったりしながら」が対応する。①、②を踏まえ、当該単元で育成する資質・能力を言語活動に応じて文言を作成する。

〔３〕　国語科における指導と評価の一体化を目指して

1　指導と評価のポイント

国語科では、年間指導計画を基に、当該単元で取り上げて指導する指導事項等から、身に付けさせたい力を明確にします。そして、その指導事項等を指導するのに**最適な言語活動を設定**し、単元の目標を確定します。その上で、単元の評価規準を設定し、評価の時期や場面、方法を精選し、単元のどの段階でどの評価規準に基づいて評価するかを決めていくことが大切です。

2　指導と評価の一連の流れ

高等部１段階の事例を通して、指導と評価の一連の流れについて説明します。

【事例 16】高等部第２学年　国語科１段階

1　単元名　　「インタビューをしよう」

2　内容のまとまり（１段階）

【知識及び技能】	ア　言葉の特徴や使い方に関する事項（イ）
【思考力、判断力、表現力等】	A　聞くこと・話すこと　イ

3　単元の目標

（1）相手を見て話したり聞いたりするとともに、間の取り方などに注意して話す。
〔知識及び技能　アの（イ）〕

（2）目的に応じて、話題を決め、集めた材料を比較するなど伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。
〔思考力、判断力、表現力等　A の（イ）〕

（3）言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えをまとめたりしながら、国語で伝え合おうとする。
〔学びに向かう力、人間性等〕

4　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
相手を見て話したり聞いたりするとともに、間の取り方などに注意して話している。	目的に応じて、話題を決め、集めた材料を比較するなど伝え合うために必要な事柄を選んでいる。	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えをまとめたりしながら、国語で伝え合おうとしている。

5　生徒の実態等

生徒	生徒の実態	重点とする指導事項	手だて
A	・言葉を介してコミュニケーションをとることができる。 ・考えていることや経験したことなどについて、言葉で他者に伝えることに苦手意識がある。 ・他者の話を聞いて要旨をおおむね理解することができる。 ・お礼状や手紙などを書く際は、伝えたいことをあらかじめ整理しておくことで文章を作成することができる。 ・文章を音読する際、助詞の誤用がしばしば見られる。	・興味・関心のある職業の人へのインタビューの際に、聞いたことをメモに取る。 ・インタビューを通して分かったことについて、グループ内で伝え合う。	・その場で聞いた内容を理解できるように、聞いたことをメモに取れるよう、メモの取り方を指導する。 ・インタビューを通して知ったことや分かったことに対する自分の考えを、あらかじめまとめることができるようにする。
（略）			

6　単元の流れ（４時間扱い）

時	学習活動	指導上の留意点	評価の観点・評価方法等
一時間目	○興味・関心のある職業をグループで話し合う。 ○インタビューの内容について話し合う。	・選択肢として、①カフェの店員②スーパーのバックヤードの店員③引っ越し業者を提示する。 ・生徒がそれぞれの職業に関するイメージをもてるように、従業員の写真を提示する。 ・「インタビューカード」を用いて、興味・関心のある職業の人へ尋ねたいことを整理しやすくする。	**〔思考・判断・表現〕** ・聞きたいことを考えているか観察する。 **〔主体的に学習に取り組む態度〕** ・学習活動に関心をもって粘り強く取り組もうとしている様子を観察する。
二時間目	○インタビューの際に大切なことを考える。	・話したり聞いたりする際に、視線を意識することや、間の取り方などについて具体的に伝える。	**〔知識・技能〕** ・間の取り方などを意識しているか観察する。 **〔主体的に学習に取り組む態度〕** ・試行錯誤しながら学ぼうとしている様子を観察する。
三時間目	○インタビューを行う。	・「インタビューカード」を用いて、話を聞く際に大切なことを思い出しながらインタビューできるように文字による視覚支援をする。 ・話したいことが相手に伝わるよう、グループで協力して取り組むよう言葉掛けをする。	**〔知識・技能〕** ・視線や間の取り方を意識して話すことができているか観察する。 **〔思考・判断・表現〕** ・聞きたいことを相手から聞き取っているか観察する。
四時間目	○インタビューを通じて考えたことについてグループで話し合う。	・インタビューで分かったことについて、付箋を使って整理するようにする。 ・分かったことに対する自分の考えを文字に書くことで整理できるようにする。	**〔思考・判断・表現〕** ・分かったことをグループ内で伝え合う様子を観察する。 **〔主体的に学習に取り組む態度〕** ・学習のめあてを理解して工夫しようとしている様子を観察する。

7　評価の実際

（１）「知識・技能」の評価

・相手の目を見て話をすることが苦手だが、相手の顎や額辺りに視線を向けて話をすることができるようになった。

・同じグループの生徒同士で適切な間をとりながらインタビューする練習を繰り返し行うことで、間の取り方を意識できるようになった。

（２）「思考・判断・表現」の評価

・興味・関心のある職業の人に聞きたいことをグループで話し合うことにより、インタビューの具体的な目的を理解して学習を進めることができていた。

・インタビューを通して分かったことをグループの中で伝え合うことができた。

（３）主体的に学習に取り組む態度

・学習のめあてを毎時間意識して学習に取り組むことができていた。

・聞きたいことを相手に伝わるようにするためにはどうすればよいかを自ら考え、試行錯誤しながら伝えようとしていた。

8　観点別学習状況の評価の総括

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生徒A	・視線を意識しながら相手の話を聞いたり話したりすることができました。 ・話の内容を相手に分かりやすくするために、言葉の抑揚や強弱などを含め、適切な間を意識することができました。	・興味・関心のある職業の人に聞きたいことを決め、インタビューを通して分かったことをグループの中で伝え合うことができました。	・話すことや聞くことに関する要点を理解して学習に取り組むことができました。 ・知りたい材料を集めるために、試行錯誤しながら聞きたいことを相手に伝えようとしていました。

高等部　数 学

〔１〕数学科における評価について

１　高等部　数学科の「目標」

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1)　数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解するとともに、日常の事象を数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
(2)　日常の事象を数理的に捉え見通しをもち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質を見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現したり目的に応じて柔軟に表したりする力を養う。
(3)　数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考える態度、数学を生活や学習に活用しようとする態度を養う。

特別支援学校学習指導要領には、この目標に基づき、１段階から２段階までの目標と内容が示されています。

２　高等部　数学科の「評価の観点及びその趣旨」

数学科において育成を目指す資質・能力が身に付いている生徒の姿です。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	・数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解している。 ・日常の事象を数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	日常の事象を数理的に捉え見通しをもち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形などの性 質を見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現したり目的に応じて柔軟に表したりする力を身に付けている。	数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学を生活や学習に活用しようとしたりしている。

参考：【30 文科初第 1845 号　改善等通知　　別紙５　１－５　数学】

３　高等部　数学科における「内容のまとまり」

１段階	２段階
A　数と計算 ア　整数の表し方 イ　整数及び小数の表し方 ウ　概数 エ　整数の加法及び減法 オ　整数の乗法 カ　整数の除法 キ　小数とその計算 ク　小数の乗法及び除法 ケ　分数とその計算 コ　数量の関係を表す式 サ　計算に関して成り立つ性質	**A　数と計算** ア　整数の性質及び整数の構成 イ　分数 ウ　分数の加法及び減法 エ　分数の乗法及び除法 オ　数量の関係を表す式

B　図形 ア　平面図形 イ　立体図形 ウ　ものの位置 エ　平面図形の面積	**B　図形** ア　平面図形 イ　身の回りにある形の概形やおよその面積 ウ　平面図形の面積 エ　立体図形の体積
C　変化と関係 ア　伴って変わる二つの数量 イ　異種の二つの量と割合として捉えられる数量 ウ　二つの数量の関係	**C　変化と関係** ア　伴って変わる二つの数量 イ　二つの数量の関係
D　データの活用 ア　データの収集とその分析 イ　測定した結果を平均する方法	**D　データの活用** ア　データの収集とその分析 イ　起こり得る場合

〔２〕　「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する際の基本的な手順

第１段階「D　データの収集とその分析」を例にとってみていきましょう。

1　各教科における「内容のまとまり」と「評価の観点」との関係を確認する。

特別支援学校高等部学習指導要領

ア データの収集とその分析に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

（ア）次のような知識及び技能を身に付けること。
㋐ 数量の関係を割合で捉え、円グラフや帯グラフで表したり、読んだりすること。
㋑ 円グラフや帯グラフの意味やそれらの用い方を理解すること。
㋒ データの収集や適切な手法の選択など統計的な問題解決の方法を知ること。

（イ）次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
㋐ 目的に応じてデータを集めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、問題解決するために適切なグラフを選択して読み取り、その結論について多面的に捉え考察すること。

（下線）…知識及び技能に関する内容　（波線）…思考力、判断力、表現力等に関する内容

2　以下の【観点ごとのポイント】を踏まえ，「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する。

○「知識・技能」のポイント
・基本的に、当該「内容のまとまり」で育成を目指す資質・能力に該当する「知識及び技能」で示された内容をもとに、その文末を「～している」「～することができる」などとして評価規準を作成する。
○「思考・判断・表現」のポイント
・基本的に、当該内容のまとまりで育成を目指す資質・能力に該当する「思考力、判断力、表現力等」の指導事項等について、その文末を「～している」として評価規準を作成する。
○「主体的に学習に取り組む態度」のポイント
・当該段階の各領域の目標のウを基に、主体的に学習に取り組む態度の「観点の趣旨」を踏まえ、指導事項等を加味して、その文末を「～している」として、評価規準を作成する。

・ここでの評価規準は、基本的には、教科の観点の趣旨に基づき、当該項目の指導事項（ｱ)、(ｲ)に示された資質・能力を育成する学習活動を踏まえて、文末を「～しようとしている」として作成する。

〔３〕　数学科における指導と評価の一体化を目指して

１　指導と評価のポイント

数学科では、常に「数学科の目標」と「学年の目標」との関連、そして領域相互の関連を考え、「内容」の指導に当たっていくことが必要です。また、数学科の目標の柱書に示されている「数学的な見方考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力の育成を目指す」ことは、当該段階の目標には柱書として示されていませんが、いずれにおいても重要であり、指導と評価に際しては常に留意することが大切です。

２　指導と評価の一連の流れ

１段階の事例を通して、指導と評価の一連の流れについて説明します。

【事例 17】高等部第１学年　数学科１段階

1　単元名　　グラフを読み取ろう

2　内容のまとまり（１段階）

【１段階】　D　データの活用　　ア　データの収集とその分析

3　単元の目標

（1）データの収集や適切な手法の選択など統計的な問題解決をすることができる。

〔知識及び技能〕

（2）目的に応じてデータを集めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、問題を解決するために適切なグラフを選択して読み取り、その結論について多面的に捉え考察することができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕

（3）データの活用に進んで関わり、数学的に表現・処理するとともに、数学で学んだことのよさに気付き、そのことを生活や学習に活用することができる。

〔学びに向かう力、人間性等〕

4　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
データの収集や適切な手法の選択など統計的な問題解決の方法を知ろうとしている。	目的に応じてデータを集めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、問題を解決するために適切なグラフを選択して読み取り、その結論について多面的に捉え考察している。	データの活用に進んで関わり、数学的に表現・処理するとともに、数学で学んだことのよさに気付き、そのことを生活や学習に活用している。

5　生徒の実態等

生徒	生徒の実態	重点とする指導事項	手だて
A	・自分からのコミュニケーションは少し苦手意識があるが、まじめにコツコツと取り組むタイプである。 ・企業就労に向け、現場実習に励みながら、学校生活を過ごしている。 ・数学は二桁同士の四則演算ができる。 ・数学の授業では、自分で考えて解くことに取り組んでいるが、問題の意味を読み取って式を立てたり、考えを導き出したりすることが課題である。	・説明文から、１日の売り上げを計算する式を導き出すことができる。 ・導き出した答えを棒グラフで表すことができる。 ・１日の来店者数を線グラフで表すことができる。 ・作成したグラフを元に、天気や行事と関連付けて、傾向を読み取ることができる。	・品物ごとに単価と数量を掛け合わせて、合計額を出すことに気付かせるため、分かりやすいワークシートを使用する。 ・１日目ついてはグラフに例を記し、記入しやすいような見本を示す。 ・最初は一人で考え、次に少人数で話し合う時間を設け、対話的な学習とする。
（略）			

6　単元の流れ（４時間扱い）

時	学習活動	指導上の留意点	評価の観点・評価方法等
第一次（1～2）	【様々なグラフについて】 ・棒グラフと折れ線グラフ円グラフなど、様々なグラフを見て、グラフについて知る。 【実際のグラフの活用について、(元となる表の完成)】 ・校内カフェの１日ごとの売り上げと利用者数をグラフにするため、＜表１＞を見ながら、＜表２＞を計算して求める。 ・＜表２＞の答え合わせをする。	・様々なグラフの存在について、ICT 端末を用い、特徴について意見を聞きながら説明する。 ・今回作成する２種類のグラフについて、特徴や作成の仕方、読み取り方などを伝える。 ・＜表１＞を説明し、その後＜表２＞を提示する。計算の際は電卓を用いることを伝える。 ・＜表２＞に数字がなかなか入らない場合は、考え方のヒントを与え、表を完成させる。 ・自分の答え合わせができるように、答えが合っていたら、小さく✓を付けるよう伝える。	**〔知識・技能〕** ・教員の質問に答えられたか。(発言) ・電卓を使って表を埋められたか。(観察) **〔思考・判断・表現〕** ・２種類のグラフの違いに気付いているか。(発言) ・表をヒントに計算式を導き出すことができているか。(観察) **〔主体的に学習に取り組む態度〕** ・＜表１＞と＜表2＞を見て、自分なりに解答を導こうとしているか。(観察)
第二次（3～4）	【グラフの作成】 ・＜表２＞の売り上げ金額を元に、＜表３＞の棒グラフを記入する。 ・＜表２＞の人数を元に、折れ線グラフを記入する。 【グラフの読み取り】 ・＜表５＞の①と②を記入する。 ・＜表４＞を見ながら、完成した＜表３＞のグラフと照らし合わせて、気づいたことを＜表５＞のワークシートに記す。 ・友達とグラフを見て気付いたことを話し合う。 ・友達と話し合ったことを発表し、グラフと日報から読み取った内容をワークシートに記入する。	・棒グラフ、折れ線グラフの記入をする前に、＜表３＞それぞれ金額や人数を入れるように伝える。記入したものが正しいか、確認する。 ・棒グラフや折れ線グラフはそれぞれ定規を使い、丁寧に記入するように指導する。 ・必要に応じて、考え方を確認しながら行う。 ・まずは各自が考え、記入する時間を設ける。なかなか記入が進まない時は、少しヒントを出したりして、自分なりに記入できるように促す。 ・２人１組のペアワークで、それぞれ考えたことを出し合ったり、一緒に話していく中で気が付いたことを記入したりするように促す。 ・各グループ発表の時間を設け、全体で共有したり、出ていない内容があれば、教員が気づきを与えたりして、新たな発表を引き出す。	**〔知識・技能〕** ・１つの表の中に二つのグラフがあることに気付き、正しく記入できているか。(観察) **〔思考・判断・表現〕** ・集めたデータを適切に書き入れ、データの特徴や関連する要因と結び付けて考えを表現しようとしているか。(観察、発言) **〔主体的に学習に取り組む態度〕** ・グラフを作成する順序について考えたり、記入方法を工夫したりして、活動に意欲的に取り組んでいるか。(観察) ・ペアワークでは積極的に意見を出したり、相手の話に耳を傾けたりしているか。(観察、発言)

表１　「9月の売り上げ内訳表」　営業日８日　数字はそれぞれ売れた個数

メニュー	単価	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
スイーツ（持ち帰り）	¥50	30	30	120	20	50	20	230	20
ドリンク	¥100	15	20	25	15	25	20	20	13
ランチセット	¥400	5	15	10	2	3	5	2	4

表2　　「9月の売り上げ金額と利用者数」

メニュー	単価	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
スイーツ（持ち帰り）	¥50	¥1,500							
ドリンク	¥100								
ランチセット	¥400								
合計金額		¥5,000							
利用者数		２０人							

＊１日の利用者数はドリンクセットとパスタセットを注文した合計数とします。

表3　「グラフを作成しよう」

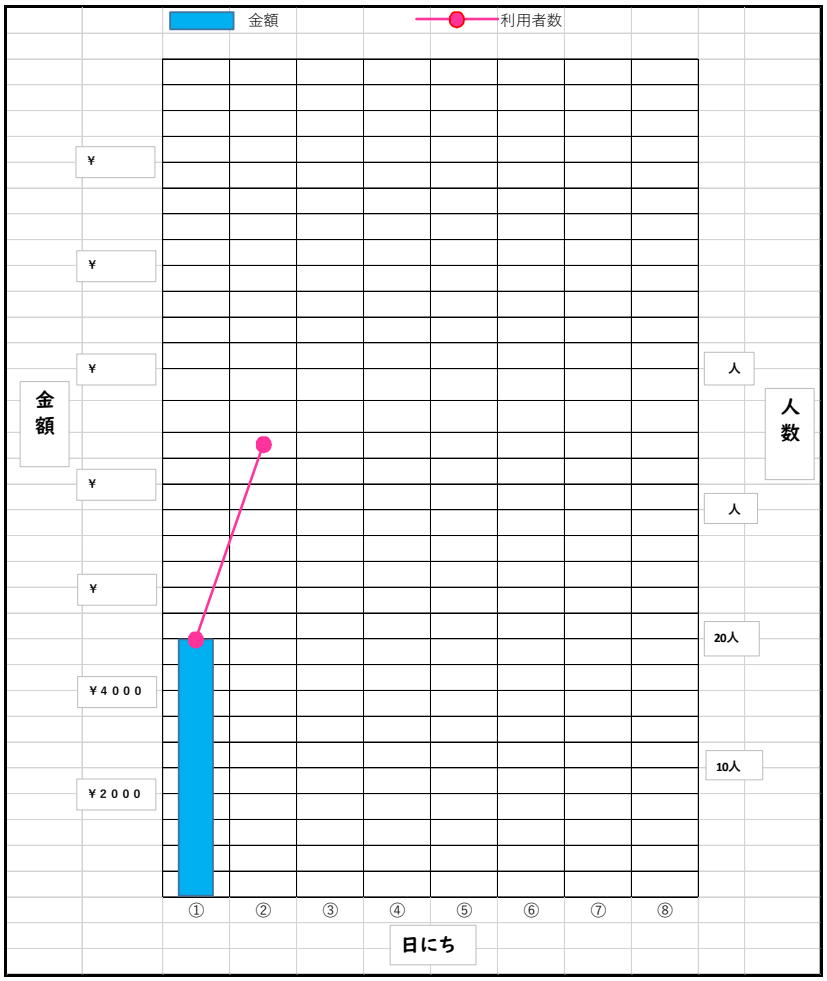


表4　「日報より」

番号	日付	天気	校内行事　等
①	9月5日	晴	
②	9月6日	曇り	PTAの集まり
③	9月9日	晴	学校公開
④	9月12日	雨	
⑤	9月13日	曇り	
⑥	9月19日	晴	
⑦	9月20日	晴	企業へ製菓販売
⑧	9月27日	晴	

表5　「ワークシート」

①１か月の売り上げ合計金額

¥

②１か月の利用者の合計

人

③グラフを作成してみて気づいたこと

7　評価の実際

（１）「知識・技能」の評価

〇棒グラフ、折れ線グラフを作成する活動

・はじめは２つの単位が１つの表にあることで、見方に混乱する様子が見られたが、順序だてて記入していくことにより、混乱しないで書き入れることができていた。

〇売り上げ金額、利用者数の計算と入力

・売り上げ金額を求める式に気付くのに少し時間がかかっていたが、＜表２＞の①の日をヒントにして導き出すことができ、その後は電卓を使ってすらすらと記入できていた。

・利用者数について、最初、持ち帰りの数も足していたが、「①の利用者人数をもう一度よく見て！」という言葉掛けで、気付くことができ、求められている答えにたどり着くことができた。

（２）「思考・判断・表現」の評価

〇グラフの読み取り

・ペアワークの時、友達が雨の日に利用者と売り上げ金額が少ないことを挙げたことにより、売り上げ金額が高い日の理由についても考えることができていた。

・ペアワークで理由について考え始めることができ、学校公開の日に売り上げが高いことに着目し、学校に来る人が多かったから校内カフェの利用者、焼き菓子の売り上げともに高くなったという考えを導き出していた。

（３）主体的に学習に取り組む態度

〇売り上げ金額、利用者数の計算と入力

・グラフの目盛りを丁寧に数え、１目盛りの単位を表に記入しながら、目盛りを間違えないように、グラフに書き入れることができていた。

〇グラフの読み取り

・ペアワークの際には、自分の考えた意見を積極的に出し、友達の意見の中で、自分では気が付けていなかったことについて、ワークシートに記入しながら、活動に意欲的に取り組んでいた。

・グラフの読み取りが、校内カフェの営業に活かせることに気付くことができていた。

8　観点別学習状況の評価の総括

	知識･技能	思考･判断･表現	主体的に学習に取り組む態度
生徒A	・1 日の売り上げの求め方、利用者数の考え方が分かり、計算して表に記入することができました。 ・データをグラフに起こすことにより、見比べたり、変化を読み取る方法に気が付いたりすることができていました。	・集めたデータを適切なグラフに表すことができ、売り上げや利用者数の変化について分析したり、話し合ったりして、気が付いたことを発表することができていました。	・グラフの目盛りの単位を表に記入しながら、正確な表を作成することができていました。またペアワークやまとめを通して、グラフの読み取りが校内カフェの営業に活かせることに気付くことができていました。

高等部　音 楽

〔１〕音楽科における評価について

1　高等部 音楽科の「目標」

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
(2) 音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。
(3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。

特別支援学校高等部学習指導要領には、この目標に基づき、１段階から２段階までの目標と内容が示されています。

2　高等部 音楽科の「評価の観点及びその趣旨」

音楽科において育成を目指す資質・能力が身に付いている生徒の姿です。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	・曲想と音楽の構造などとの関わりや音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作、身体表現で表している。	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもったり、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。	音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的、協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

参考：【30 文科初第 1845 号　改善等通知　　別紙５　１－５　音楽】

3　高等部 音楽科における「内容のまとまり」

高等部音楽科における内容のまとまりは、以下のようになっている。

「Ａ表現」　ア　歌唱　及び〔共通事項〕の(1)
「Ａ表現」　イ　器楽　及び〔共通事項〕の(1)
「Ａ表現」　ウ　創作の活動　及び〔共通事項〕の(1)
「Ａ表現」　エ　身体表現　及び〔共通事項〕の(1)
「Ｂ鑑賞」　ア　鑑賞　及び〔共通事項〕の(1)

〔２〕「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する際の基本的な手順

特別支援学校学習指導要領に示された教科及び段階の目標を踏まえて、「評価の観点及びその趣旨」が作成されていることを理解します。
その上で、次の①及び②の手順を踏みます。

1　各教科における「内容のまとまり」と「評価の観点」との関係を確認する。

高等部音楽科の各段階の「(2)内容」において、関する内容は以下のとおりである。

Ａ表現
ア　歌唱
(ｱ)…思考力、判断力、表現力等に関する内容
(ｲ)…知識に関する内容
(ｳ)…技能に関する内容
イ　器楽
(ｱ)…思考力、判断力、表現力等に関する内容
(ｲ)…知識に関する内容
(ｳ)…技能に関する内容
ウ　創作の活動
(ｱ)…思考力、判断力、表現力等に関する内容
(ｲ)…知識に関する内容
(ｳ)…技能に関する内容
エ　身体表現
(ｱ)…思考力、判断力、表現力等に関する内容
(ｲ)…知識に関する内容
(ｳ)…技能に関する内容
Ｂ鑑賞
ア　鑑賞
(ｱ)…思考力、判断力、表現力等に関する内容
(ｲ)…知識に関する内容
〔共通事項〕(1)
ア…思考力、判断力、表現力等に関する内容
イ…知識に関する内容

また、〔共通事項〕においては、以下のとおりである。
ア　＝「思考力、判断力、表現力等」に関する内容
イ　＝「知識及び技能に関する内容」

2　以下の【観点ごとのポイント】を踏まえ、「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する。

○「知識・技能」のポイント

・事項(ｲ)及び(ｳ)の文末を「～している」と変更して作成する。

・事項にある「次の㋐及び㋑」や「次の㋐から㋒まで」の部分は、㋐から㋒までの事項のうち、いずれかを選択して置き換え作成する。なお、技能に関しては「～するために必要な」の後に適宜「、」を挿入する。

○「思考・判断・表現」のポイント

・〔共通事項〕アの文末を「～考え、」と変更し、その後に扱う領域や分野の事項(ｱ)を組み合わせ、文末を「～している」と変更して作成する。

・事項(ｱ)では、前半部分に「知識や技能を得たり生かしたりしながら」と示しているが、この「得たり生かしたり」は、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」とがどのような関係にあるかを明確にするために示している文言であり、内容のまとまりごとの評価規準としては設定しない。

○「主体的に学習に取り組む態度」のポイント

・当該段階の「評価の観点の趣旨」の内容を踏まえて作成する。

・「評価の観点の趣旨」の文頭部分「音や音楽に親しむことができるよう、」は、「主体的に学習に取り組む態度」における音楽科の学習の目指す方向性を示している文言であるため、内容のまとまりごとの評価規準としては設定しない。

・「評価の観点の趣旨」の「表現及び鑑賞」の部分は、扱う領域や分野に応じて「歌唱」「器楽」「創作の活動」「身体表現」「鑑賞」より選択して置き換える。なお、「学習活動」とは、その題材における「知識及び技能」の習得や「思考力、判断力、表現力等」の育成に係る学習活動全体を指している。

・「評価の観点の趣旨」の「楽しみながら」の部分は、「主体的・協働的に」に係る言葉であり、単に活動を「楽しみながら」取り組んでいるかを評価するものではない。あくまで、主体的・協働的に取り組む際に「楽しみながら」取り組めるように指導を工夫する必要があることを示唆しているものである。

〔３〕音楽科における指導と評価の一体化を目指して

1　指導と評価のポイント

音楽科では、知識及び技能に関する資質・能力については個々の独立性が高く、知識と技能の指導事項を個別に立てていることに対応し、知識と技能とに分けて評価します。

その際、知識と技能の評価場面や評価方法は、それぞれ異なることが考えられます。

また、〔共通事項〕のアが思考力、判断力、表現力等に関する資質・能力として位置付けられました。〔共通事項〕のアと、各領域や分野の事項アは一体的に捉えることが重要です。

2　指導と評価の一連の流れ

１段階の事例を通して、指導と評価の一連の流れについて説明します。

【事例 18】高等部第１学年　音楽科１段階

1　単元名　　音楽のちがいを比べよう「パッヘルベルのカノン」（音楽☆☆☆☆☆　Ｐ４３）

2　内容のまとまり（１段階）

Ａ表現　　イ　器楽　及び〔共通事項〕の(1)

3　単元の目標

(1)「カノン」の曲想と音楽の構造について理解を深め、創意工夫などを生かした音楽表現にするために必要な技能を身に付け、器楽演奏で表す。〔知識及び技能〕

(2)音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりする。〔思考力、判断力、表現力等〕

(3)音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に楽器演奏や合奏の学習活動に取り組む。〔学びに向かう力、人間性等〕

4　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・曲想と音楽の構造との関わり及び多様な楽器の音色と演奏の仕方と関わりについて理解している。 ・創意工夫を生かした表現をするために必要な、音色や響きに気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能を身に付けている。	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫している。	音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

5　生徒の実態等

生徒	生徒の実態	重点とする指導事項	手だて
A	・楽器を鳴らす活動が好きで、楽器に触れるとすぐに鳴らすことがある。 ・簡単な言語は理解でき、自分でも言葉を使ったやり取りができるが、自分の気持ちを表現することが少し苦手である。	・音楽の構成を理解できるようにする。 ・自分の演奏する順番が分かり、タイミングを合わせて演奏ができるようにする。 ・良い音色が追及できる。また、ハーモニーの美しさが感じられるようにする。	・「カノン」の仕組みが分かるよう、視聴覚教材を使う。 ・色を付けた簡単な楽譜を用いて演奏するタイミングがわかるようにする。 ・一人ずつ鳴らす場面と、同時に鳴らしてハーモニーを感じる場面を設ける。
（略）			

6　単元の流れ（８時間扱い）

時	学習活動	指導上の留意点	評価の観点・評価方法等
第一次（2時間）	1 鑑賞 2 トーンチャイム演奏 ①音の鳴らし方、響きについて聴く ②1人1音ずつもち、合図で音を鳴らす	・イメージ映像付きの演奏を視聴し、視覚的に音楽を知る。 ・楽器のもち方、手首の使い方について教える。 ・並んでいる順番に 1 音ずつ楽器を渡し、合図で鳴らすことにより、メロディーを奏でられるようにする。 ・美しい音色について考えられるように提示する。	〔知識・技能〕 映像を見て、繰り返される旋律に気付き、目で追いかけながら聴くことができているか。（観察） 〔思考・判断・表現〕 楽器の演奏の仕方を知り、音色の美しさを感じ取っていたか。（発言、観察） 〔主体的に学習に取り組む態度〕 自分の順番を待ちながら、積極的に演奏に参加していたか。（観察）
第二次（4時間）	1 鑑賞 2 トーンチャイム合奏 ①自分の色が来たら音を鳴らす ②ピアノの演奏に合わせて、合奏する	・ピアノ、弦楽四重奏、パイプオルガン、オーケストラ等いろいろな楽器の演奏を聴く。 ・トーンチャイムの色を手掛かりに、色の合図に合わせて音を出す。 ・音楽のリズムに合わせて演奏ができるように、合図を工夫する。	〔知識・技能〕 簡単な楽譜を見て、合図に注意を向け演奏しているか。（観察、発言） 〔思考・判断・表現〕 音の重なりや響きに気付き、良い音で演奏しようとしているか。（観察） 〔主体的に学習に取り組む態度〕 積極的に演奏に取り組み、合奏することを楽しんでいるか。（観察）
第三次（2時間）	1 鑑賞 2 トーンチャイム合奏 〈まとめ〉 ①合奏をする ②動画撮影する ③撮影した動画を見る（振り返り・まとめ）	・教員のピアノの生演奏を聴き、これから合奏することへの期待感を高める。 ・小節を区切りながら、トーンチャイムだけで音色の美しさを確認する。 ・ピアノとトーンチャイムの合奏の様子を撮影した動画を視聴し、お互いの演奏を共有しながら、達成感や満足感を味わえるようにする。	〔知識・技能〕 音楽の曲想を理解し、音色を響かせながら演奏しているか。（観察） 〔思考・判断・表現〕 音を出すタイミングを判断し、思いや意図をもって表現しているか。（観察、発言） 〔主体的に学習に取り組む態度〕 主体的･協働的に学習活動を楽しんでいるか。（観察）

7　評価の実際

（1）「知識・技能」の評価

・トーンチャイムの響きをよく聞き、音色を工夫して鳴らそうとしていた。

・ピアノの演奏に合わせ、合図を確認しながら自分の順番で演奏をすることができるようになった。

（2）「思考・判断・表現」の評価

・4小節で1つのフレーズであることを画像や実際の演奏で理解し、繰り返しの中で生まれるハーモニーを感じながら演奏していた。

・どんな音を鳴らしたいかの質問に、きれいに響く音で鳴らしたいと答え、手の振り方を工夫して演奏していた。

（3）主体的に学習に取り組む態度

・音楽の盛り上がりと先生の合図に合わせて、手の振りを大きくして、強い音を出そうとしていた。また、友達と同じタイミングで和音を鳴らす場面では、相手の動きを見て、試行錯誤しながら合わせようとする様子が見られ、友達と一緒に作り上げる楽しさを味わいながら取り組んでいた。

8　観点別学習状況の評価の総括

	知識･技能	思考･判断･表現	主体的に学習に取り組む態度
生徒A	トーンチャイムの響きを良く聴き、音色を工夫しようとしていました。ピアノ演奏と合図に合わせながら、自分の順番で演奏することができました。	4小節で1つのまとまりとなり、繰り返されていることに気付き、「きれいに響く音」を意識して手の動かし方を工夫することができました。	合奏では、相手の動きを見て、試行錯誤しながら同じタイミングで和音を鳴らし、友達と協力して楽しみながら演奏することができました。

高等部　職業

〔１〕職業における評価について

１　高等部　職業の「目標」

職業に係る見方・考え方を働かせ、職業など卒業後の進路に関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現に向けて工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

（１）職業に関する事柄について理解を深めるとともに、将来の職業生活に係る技能を身に付けるようにする。

（２）将来の職業生活を見据え、必要な事柄を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実施を評価・改善し、表現する力を養う。

（３）よりよい将来の職業生活の実現や地域社会への貢献に向けて、生活を改善しようとする実践的な態度を養う。

特別支援学校学習指導要領には、この目標に基づき、１段階から２段階までの目標と内容が示されています。

２　高等部　職業の「評価の観点及びその趣旨」

職業において育成を目指す資質・能力が身に付いている生徒の姿です。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	職業に関する事柄について理解を深め、将来の職業生活に係る技能を身に付けている。	将来の職業生活を見据え、必要な事柄を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、表現する力を身に付けている。	よりよい将来の職業生活の実現や地域社会への貢献に向けて、生活を改善し、実践しようとしている。

参考：【30 文科初第 1845 号　改善等通知　　別紙５　１－５　職業＜高等部 職業＞】

学習評価参考資料には、職業の１段階から２段階までの「評価の観点及びその趣旨」が示されています。高等部２段階を例示します。

３　高等部　職業における「内容のまとまり」

〔職業分野〕
「A　職業生活」ア　勤労の意義
「A　職業生活」イ　職業
「B　情報機器の活用」
「C　産業現場等における実習」

〔２〕　「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する際の基本的な手順

第２段階「Ａ　職業生活」イ　職業　を例にとってみていきましょう。

１　各教科における「内容のまとまり」と「評価の観点」との関係を確認する。

特別支援学校高等部学習指導要領　職業　２段階【職業分野】「Ａ　職業生活」イ　職業　の記載

イ　職業に関わる事柄について、他社との協働により考えを深めたり、体験したりする学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(ア)　職業に関わる知識や技能について、次のとおりとする。
- ㋐　職業生活に必要とされる実践的な知識を深め技能を身に付けること。
- ㋑　職業生活を支える社会の仕組み当の利用方法について理解を深めること。
- ㋒　材料や育成する生物等の特性や扱い方及び生産や生育活動等に関わる技術について理解を深めること。
- ㋓　使用する道具や機械等の特性や扱い方の理解を深め、作業課題に応じて効果的に扱うこと。
- ㋔　作業の確実性や持続性、巧緻性等を高め、状況に応じて作業し、習熟すること。

(イ)　職業生活に必要な思考力、判断力、表現力等について、次のとおりとする。
- ㋐　作業や実習において、自ら適切な役割を見いだすとともに、自分の成長や課題について考え、表現すること。
- ㋑　生産や生育活動等に係る技術に込められた工夫について考えること。
- ㋒　作業上の安全や衛星及び作業の効率について考え、他社との協働により改善を図ること。
- ㋓　職業生活に必要な健康管理や余暇の過ごし方の工夫について考えること。

（下線）…知識及び技能に関する内容
（波線）…思考力、判断力、表現力等に関する内容

２　以下の【観点ごとのポイント】を踏まえ、「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する。

○「知識・技能」のポイント
- ここでの評価規準は、基本的には当該項目で育成を目指す資質・能力に該当する指導事項（ｱ）について、その文末を教科の観点の趣旨に基づき、「～をしている」「～をすることができる」などとして作成する。

○「思考・判断・表現」のポイント
- ここでの評価規準は、基本的には当該項目で育成を目指す資質・能力に該当する指導事項（ｲ）について、その文末を教科の観点に基づき、「～について考えている。」などとして作成する。

○「主体的に学習に取り組む態度」のポイント
- この観点は、粘り強さ（知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている側面）、自らの学習の調整（粘り強い取り組みの中で自らの学習を調整しようとする側面）に加え、これらの学びの経験を通して涵養された、生活を工夫し考えようとする態度について評価する。
- ここでの評価規準は、基本的には、教科の観点の趣旨に基づき、当該項目の指導事項（ｱ）、（ｲ）に示された資質・能力を育成する学習活動を踏まえて、文末を「～しようとしている」として作成する。

〔３〕　職業における指導と評価の一体化を目指して

１　指導と評価のポイント

職業では、将来的に、社会人や職業人として自立できるようにしていくこと、また、職業生活を健やかに維持できるようになることが大切です。評価に当たっては、「題材の目標」及び「題材の評価規準」を作成した上で、題材の評価規準を学習活動に即して具体化することが必要となります。

２　指導と評価の一連の流れ

２段階の事例を通して、指導と評価の一連の流れについて説明します。

【事例 19】高等部第２学年　職業２段階

1　単元名　　マイキャリアプランを作成しよう

2　内容のまとまり（２段階）

〔職業〕
「Ａ　職業生活」　　イ職業

3　単元の目標

（1）職業生活を支える社会の仕組み等の利用方法について理解を深めようとする。
〔知識及び技能〕

（2）将来の職業生活に必要な健康管理や余暇の過ごし方の工夫について考えようとする。
〔思考力、判断力、表現力等〕

（3）よりよい将来の職業生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとしたりして、実践しようとする。
〔学びに向かう力、人間性等〕

4　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
職業生活を支える社会の仕組み等の利用方法について理解を深めようとしている。	将来の職業生活に必要な健康管理や余暇の過ごし方の工夫について考えようとしている。	よりよい将来の職業生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとしたりして、実践しようとしている。

5　生徒の実態等

生徒	生徒の実態	重点とする指導事項	手だて
A	・認識や作業能力は高く、授業や仕事内容を理解すれば、自分の考えをもって取り組むことができる。 ・入学当初は欠席や遅刻、体調不良を訴えて保健室を利用することが多かったが、実習先での高評価や学校生活を進めていく中で、少しずつ自信がもてるようになってきた。	・自分の将来を明るいものとして捉え、自信をもって前向きに進もうとする。 ・なりたい将来像に向けて、今何をするべきか考えることができる。	・障害福祉についての学習、卒業後の生活を見通すための、４つのカテゴリーについて、過去の先輩の例を参考にするなどして、自分なりに計画ができるように促す。 ・具体的に記入できるワークシートを使用することで、働く生活へのイメージと希望をもたせるようにする。
（略）			

6　単元の流れ（９時間扱い）

時	学習活動	指導上の留意点	評価の観点・評価方法等
第一次（1～6）	【働く生活を支える４つのカテゴリーについて知る】 ・「働く」「暮らす」「学ぶ」「楽しむ」の４つのカテゴリーそれぞれの内容を知る。 ・「働く」様々な職域の、服装、仕事内容について学習する。 ・「暮らす」通勤寮やグループホームについて学習したことを復習し、実際の生活について先輩からの話を聞く。 ・「学ぶ」学校を卒業してからの学びにはどのようなものがあるか知る。 ・「楽しむ」働く生活を支える趣味や余暇の過ごし方の重要性について知る。教員の余暇の過ごし方について、インタビューし、参考にする。	・１年次、２年次の復習をしながら定着状態を確認して進めていく。 ・「働く」各自実習に行き、ある程度の方向性が見えている生徒がほとんどである。勤務日の１日をイメージできるよう、例を挙げて具体的にしていく。 ・「暮らす」通勤寮やグループホームについて、具体的にするため、利用している卒業生の話を聞く会を設ける。 ・「学ぶ」卒業生のための講座について伝えたり、検定試験に挑戦したり、資格の取得を目指したりと具体的な内容について扱うが、仕事に慣れてからでよいことも伝える。 ・「楽しむ」給料の使い道についても触れ、自由に使えるお金がどれぐらいになるのかなど考えるきっかけを与える。 ・事前に協力できる教員に声をかけておく。	**〔知識・技能〕** ・教員の質問に答える様子を観察。 **〔思考・判断・表現〕** ・４つのカテゴリーに関して、理解している様子を観察。 **〔主体的に学習に取り組む態度〕** ・グループでの意見交換に参加している様子を観察。 ・卒業生の話を聞いて、質問を考えたり、実際に質問したりする様子を観察。 ・教員へのインタビューを積極的に行い、メモに記入している様子を観察。
第二次（7～9）	【マイキャリアプランの作成と発表】 ・４つのカテゴリーに関して学習してきたことを参考にしながら、ワークシート（選択式下書き）の選択項目に沿って、自分の２年後の働く生活のイメージを立てていく。 ・下書き完成後に、教員の指導を受け、清書をする。その際は選択したものを自分の言葉で記入する。 ・授業内で最後に一人ずつ発表する。	・記入しやすいワークシートを用いると共に、過去の先輩たちのワークシートを提示し、アイデアやイメージがわきやすいように指導する。 ・下書き段階で、困っている様子があれば、適宜アドバイスを行い、時間内に完成できるように助言を行う。 ・授業内で発表の場を設け、同級生のマイキャリアプランを知ると共に、今後情報で行うプレゼンテーション資料作成の準備へとつなげる。（情報の教員と連携を行う。）	**〔知識・技能〕** ・マイキャリアプランに記入する様子、必要に応じてタブレット端末等を使って調べる様子を観察。 **〔思考・判断・表現〕** ・自分の将来への希望を具体的に考え、分からないことを質問したり調べたりしていく様子を観察。 ・発表の際、工夫して発表できているかを観察。 **〔主体的に学習に取り組む態度〕** ・ワークシートへの記入と、友達の発表への関心を示している様子を観察。

7　評価の実際

（１）「知識・技能」の評価

・「働く」「暮らす」「楽しむ」「学ぶ」の各項目の内容について理解することができていた。

・卒業生の話を聞き、グループホームや通勤寮について知識を深めることができていた。

・マイキャリアプランを作成する目的や作成方法が分かり、具体的な書き方の質問ができていた。

・作成したマイキャリアプランを皆の前で堂々と発表することができていた。

（２）「思考・判断・表現」の評価

・「働く」「暮らす」「楽しむ」「学ぶ」の各項目について学んできたことを自分の言葉で発表することができていた。

・マイキャリアプラン（下書き）の項目に沿って、選択したり、自分の考えを自由に記述したりすることができていた。

（３）主体的に学習に取り組む態度

・先輩の話にうなずきながら聞いたり、積極的に質問をしたりして、興味をもって学習活動に取り組んでいた。

・教員へのインタビューでは、授業の目的や質問を丁寧に教員に説明して、聞き取った内容をメモしていた。

・自分の発表では、働く生活がある程度イメージできており、一人暮らしに向け、２年間で約 100 万円貯めるという具体的な目標を発表することができていた。また友達の発表にもうなずきながらしっかり発表者の方を見て聞くことができていた。

【ワークシート】

マイキャリアプラン・・・・「あなたの２年後20歳はどうしていたい？時々振り返ってみよう」

働く　職場が決まっている場合→「　　」

【職域】
事務・物流・飲食・清掃・小売り・（　　）

【服装】
通勤→　スーツ　・　ビジネスカジュアル　・　自由
ユニフォーム→　あり　・　なし

【仕事内容】

（　　）

暮らす　どこで？いつから？（自宅？GH？通勤寮？それとも他？）

【どこで】

自宅　・　自宅（数年後自宅を出る）・1人暮らし

通勤寮　・　グループホーム　・（　　）

【自宅を出たい場合、いつ頃】

だいたい＿＿年後

必要な金額　　円　毎月＿＿＿＿＿円貯金が必要

楽しむ　あなたの趣味　余暇はどうする？

【現在の趣味】

【やってみたいこと】

【いつか叶えたいこと】

学ぶ　資格？検定？免許？それとも・・・？

【資格や検定】
パソコン関係・料理関係・車の運転免許・介護士

漢字検定・英語検定・その他（　　）

【その他学びたいことや資格について詳しく】

８　観点別学習状況の評価の総括

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生徒A	マイキャリアプラン４つの柱、「働く」「暮らす」「楽しむ」「学ぶ」の各項目を先輩の話や授業の内容から理解することができました。	マイキャリアプランの項目に沿って、選択したり、自分の考えを自由に記述したりすることができていました。	先輩や教員の話に関心をもって聞き、自分の将来に向けたビジョンのために貯金が必要であると考え、皆の前で自信をもって発表することができていました。

研究開発委員会　特別支援学校における学習評価委員会

【令和４年度】

分野	所属	職名	氏名	備考
都立学校教職員	東京都立小平特別支援学校	校長	阿部智子	委員長
	東京都立城東特別支援学校	主幹教諭	熊井戸佳之	委員
	東京都立大塚ろう学校	主幹教諭	笹野泰賢	委員
	東京都立小平特別支援学校	指導教諭	椎名久乃	委員
	東京都立羽村特別支援学校	主幹教諭	田中孝志郎	委員
	東京都立調布特別支援学校	主任教諭	柴田亜伊子	委員
	東京都立武蔵台学園	主任教諭	重政卓也	委員
	東京都立立川学園	主任教諭	天田哲平	委員
教育庁職員	教育庁指導部特別支援教育指導課	課長	島添聡	事務局
	教育庁指導部特別支援教育指導課	主任指導主事	西岡陽子	事務局
	教育庁指導部特別支援教育指導課	統括指導主事	細川智佳子	事務局
	教育庁指導部特別支援教育指導課	指導主事	宮田愛	事務局

【令和５年度】

分野	所属	職名	氏名	備考
都立学校教職員	東京都立八王子東特別支援学校	校長	泉慎一	委員長
	東京都立八王子西特別支援学校	主幹教諭	浅見絵美	委員
	東京都立多摩桜の丘学園	主幹教諭	中村理恵	委員
	東京都立七生特別支援学校	主幹教諭	船橋学	委員
	東京都立八王子東特別支援学校	主任教諭	大元亮子	委員
	東京都立久我山青光学園	主任教諭	香川美沙	委員
	東京都立清瀬特別支援学校	主任教諭	武内國頼	委員
	東京都立府中けやきの森学園	主任教諭	松島宏樹	委員
教育庁職員	教育庁指導部特別支援教育指導課	課長	中村大介	事務局
	教育庁指導部特別支援教育指導課	主任指導主事	西岡陽子	事務局
	教育庁指導部特別支援教育指導課	統括指導主事	細川智佳子	事務局
	教育庁指導部特別支援教育指導課	指導主事	宮田愛	事務局

【令和６年度】

分野	所属	職名	氏名	備考
都立学校教職員	東京都立水元特別支援学校	校長	村上卓郎	委員長
	東京都立八王子東特別支援学校	主幹教諭	森亮子	委員
	東京都立多摩桜の丘学園	主任教諭	田辺唯	委員
	東京都立墨東特別支援学校	主幹教諭	高橋昭博	委員
	東京都立花畑学園	主幹教諭	中村文香	委員
	東京都立水元特別支援学校	主幹教諭	今岡康太	委員
	東京都立江東特別支援学校	主幹教諭	鈴木幸枝	委員
教育庁職員	教育庁指導部特別支援教育指導課	課長	中村大介	事務局
	教育庁指導部特別支援教育指導課	主任指導主事	西岡陽子	事務局
	教育庁指導部特別支援教育指導課	統括指導主事	小榮崇裕	事務局
	教育庁指導部特別支援教育指導課	指導主事	宮田愛	事務局